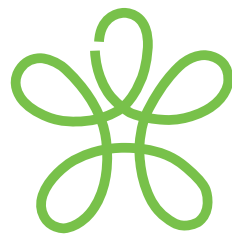


文芸学部履修要項

2020

令和2年度



近畿大学

この履修要項は、令和2年度文芸学部入学生に
適用されます。

卒業まで大切に取り扱いってください。

目 次

文芸学部長のあいさつ	1	
近畿大学教育方針	2	
文芸学部教育方針	3	
学科・専攻別教育方針	4	
I 学修要項		
1. 学科構成	17	
2. 学期及び授業時間	17	
3. 授業科目の構成	17	
4. 単位制	17	
5. 学年制	18	
6. 卒業証書・学位記	18	
7. 授業科目の選択及び履修登録	18	
8. キャップ制	18	
9. 履修取り下げ	19	
10. 試験について	19	
11. 受験時の注意	20	
12. 文芸学部追試験規程	20	
13. 文芸学部再試験規程	20	
14. 文芸学部定期試験等における不正行為に関する規程	21	
15. レポートにおける剽窃（盗用）行為について	21	
16. 成績評価	22	
17. GPA（Grade Point Average）制度	22	
18. 休講と補講	23	
19. 欠席届	25	
20. 文芸学部学業成績優秀特待生	25	
21. 教職課程と司書課程	27	
22. 学芸員資格（博物館学課程）	28	
23. 日本語教員養成課程	30	
24. 奨学金制度	31	
25. 中央図書館案内	31	
II 学科・専攻別 卒業・進級・履修要件と授業科目表・カリキュラムツリー		
共通教養科目・第一外国語（英語）・第二外国語（各学科共通）	35	
専門科目		
文学科日本文学専攻	50	
文学科英語英米文学専攻	56	
芸術学科舞台芸術専攻	62	
芸術学科造形芸術専攻	68	
文化・歴史学科	74	
文化デザイン学科	80	
他学部・大学コンソーシアム大阪との単位互換科目	86	
III 校舎・講義室等の配置図		87

——学部長挨拶

文芸学部長 本村 元造

文芸学部には、講義という教室中心の学び、文学や芸術に関する創作の場、フィールドワーク、課外活動やボランティア活動など多種多様な学びがあります。ここには、皆さんが学びたいこと、やりたいことにチャレンジできるチャンスに恵まれています。そして皆さんは、そこから何を選ぶかを自由に決定することができるのです。各自が将来の目標に向けた「学び」を選び4年間の計画を立て、実行していく自主性と責任が求められます。その「学び」の指針となるのが「履修要項」です。

『近畿大学文芸学部履修要項』（以下、「履修要項」）は、大学・学部・学科・専攻の「教育方針（ポリシー）」、学修要項、学科・専攻別の卒業・進級・履修要件とカリキュラムツリーから成っています。内容は入学年次ごとに異なりますので卒業までたいせつに保管して、年次ごとに参照してください。

単位修得には、皆さんが所属する学科・専攻の専門科目、共通教養科目、第一外国語科目（英語）、第二外国語科目、教員免許などの資格を取得する科目、それぞれから必要な科目を修得することが必要です。もちろん、ただ単位を取ればよい、というわけでもありません。科目には、必修、選択必修、（自由）選択、の区別があり、間違っ履修すると卒業が危うくなることもあり得ます。各学科・専攻別に記載されているカリキュラムツリーも参照して、自らの学修計画をしっかりと考えて履修科目を選択してください。その際に必要な事項がすべて記載されているのが、この「履修要項」です。

また、科目で学ぶ内容、授業計画、成績評価の方法などは、「シラバス」に書かれていますので、履修計画を作るときに事前に参照してください。

「履修要項」には、「単位制」、「履修登録」、「定期試験」、「欠席届」、「GPA」など耳慣れない言葉がでてきますが内容や条件を理解して4年間の大学生活を有意義に過ごしてください。

近畿大学教育方針

カリキュラムポリシー（教育課程の編成方針）

本学は、「建学の精神」と「教育理念」を実現するために、「共通教育科目」と「専門教育科目」を2本柱として、各学部学科の特色を生かしたカリキュラムを提供します。また、ボランティア、インターンシップ、各種資格取得講座などのプログラムを展開し、全教職員が、学生の学問的、人間的成長とキャリア形成を支援します。

さらに、生涯学習社会実現のために、学生と社会人と教員が共に学び合う機会を提供します。

- 1 入学者の基礎学力の確認と向上を図るプログラムを提供します。
- 2 専門教育に携わっている教員が教養教育（共通教育科目）に参加して、実学（専門教育）と教養の連動ないし融合を視野に入れた授業を提供します。
- 3 「専門教育科目」においては、社会のニーズに対応できる教養に裏打ちされた専門性を高める工夫を進めます。また、必要に応じて他学部との単位互換制度等を活用し、複眼的な専門性の育成に努めます。
- 4 さまざまな国際分野で活躍できる人材を養成するために、国際スタンダード教育への参加を進めます。
- 5 産学連携を推進し、生きた実学教育の充実を図ります。
- 6 社会人の学びの場（リカレント教育）を充実し、生涯学習社会の実現に貢献します。
- 7 学生の資格取得のために、学部横断的な取り組みを展開します。
- 8 ボランティア、インターンシップ、留学制度等を充実し、学生が地域社会、国際社会において意味のある学びを体験できるよう努めます。

ディプロマポリシー（卒業認定・学位授与に関する方針）

本学は、「建学の精神」と「教育理念」に基づいて、「深い教養と高い志をもち、社会を支える気概をもった学生を育成し、社会に送り出すことを最終教育目標」としています。厳格な成績評価を行い、所定の単位を修得した学生に卒業を認定し、学位を授与します。卒業までに身に付けるべき資質を以下に示します。

- 1 大学での種々の学びを通じて、「人に愛され、信頼され、尊敬される」人格へと自らを成長させ続ける自己教育力を培っていること。
- 2 問いながら学ぶ「学問」習慣を身に付け、専門領域における知識・技能を修得し、それらに裏打ちされた探究心と社会貢献への使命感に目覚めていること。
- 3 専門領域における課題の意味を、広い歴史観や深い人間観の中で位置づけようとする教養を、身に付けていること。
- 4 異質な価値や文化を理解し、自国の伝統や文化の意味を再発見する国際感覚を、身に付けていること。

文芸学部教育方針

カリキュラムポリシー（教育課程の編成方針）

個人および社会の自由と幸福を追求するために、教養、判断力、趣味、共感能力を高め、さらに文化領域について深く学び、考え、実践することで、思考力、美的感性、創造力、批評精神を涵養します。

〈共通教養科目〉

（目的）

東日本大震災・津波・原子力発電所事故を踏まえて、既存の「教養」を幅広く身につけるとともにそれを反省し、新たに構築されるべき教養を考察します。

- 1 国際社会および日本社会の変化を幅広い観点から観察し、大学卒業後の自己の進路をイメージすること。
- 2 人文科学・社会科学・自然科学の知を学び、各領域を横断する思考について知ること。
- 3 学び、思考し、調査し、それらの事柄を整理し発表することを通じて、コミュニケーション能力とプレゼンテーション能力を涵養すること。

〈外国語科目〉

（目的）

異文化を受容し身近な文化を発信するための基礎となる外国語の能力を涵養します。

- 1 外国語の読み書き聞き話す能力を養うこと。
- 2 外国語の学修を通して、当該言語の言語形態や文化に触れること。
- 3 生涯教育を視野に入れ、外国語の学修を通して幅広い教養を身につけること。

〈専門教育科目〉

（目的）

言語・文学・思想・歴史・芸術等の知的実践的修得を通して、個々人の文化的素養を育むとともに、文化の継承と発展を担いうる優れた人格を涵養します。

- 1 言語・文学・思想・歴史・芸術についての深い理解に到達する方法や技術を学び、自己および社会の文化観を更新する批評精神を涵養すること。
- 2 人間の歴史的な歩みを学び直し、その優れた文化所産に触れつつ、新しい時代にふさわしい文化の形成に寄与しうる創造的な能力を涵養すること。
- 3 言語・身体・作品等による文化的芸術的な表現能力を高め、現代社会や異文化に向けて積極的に発信する能力を涵養すること。

ディプロマポリシー（卒業認定・学位授与に関する方針）

「深い教養と志をもち、社会を支える気概を持った学生を育成し、社会に送り出すことを最終教育目標」とする本学のディプロマポリシーを旨として、文芸学部では文学、歴史、文化、思想、芸術、コミュニケーションの知識や技能を身につけ、社会に対し創造的な貢献のできる人を育成します。この育成方針に則り、厳格な成績評価によって所定の単位の修得が認められた学生に卒業を認定し、学士（文学、文芸学）を授与します。卒業までに身につける資質・能力は以下のとおりです。

- 1 所定の科目を誠実に履修し、勉学への積極的態度を表していること。
- 2 知識・技能の修得と学問的・創造的成果（卒業論文・卒業制作・卒業公演）とにおいて標準以上のレベルに達していること。
- 3 教養・判断力・趣味・共感能力等を備えた豊かな人間性をつねに琢磨していること。
- 4 責任ある社会人としての自律的個人を確立していること。
- 5 他者を尊重し、共同体の中でコミュニケーションが図れること。

学科・専攻別教育方針

文学科

日本文学専攻

日本文学専攻は、開かれた世界文学の中の「日本文学」の実現を目指して「言語・文学コース」、「創作・評論コース」を設けている。「言語・文学コース」では、日本語のさまざまな状況と記紀・万葉の古代から近現代に至る日本文学の思想、表現のテクノロジーを学び、「創作・評論コース」では、文学の創造と批評のテクノロジーを日本のみならず、諸外国のさまざまな芸術、文学、批評の思想・表現を通して学び実践していくことを目指している。

カリキュラムでは、創造と研究の二つの側面をコースとして独立させると同時に、多様なプログラムを通して両者の融合と交流を図っている。両者は独自の領域を誇っているが、学生が自分の希求・好尚に応じてさまざまなモチーフ、才能を開花させ発揮できるようにカリキュラムを動きのあるものにしていく。日本文学専攻の「文学」には、詩歌・小説・評論・文学研究だけでなく、その中に織り込まれた歴史、文化、社会、思想、メディアなどの意味を含んでいるからである。

〔言語・文学コース〕

このコースは、日本語にかかわるさまざまな言語状況と「語り合うこと」「読むこと」のテクノロジーを探究する。前者はコミュニケーションを軸にコトバの実際的な運用や言語の本質を、後者は文学テキストや文化現象の享受や分析を軸に表現の機能や意味や歴史を学ぶ。それは何よりも相手（他者）の「語る＝書く」ことを正確に「聞き＝読み」、そして、自分の考えをコトバで「表現する」ことが現実社会を生きてゆく重要な支えになるからである。そこで、このコースのカリキュラムは、教室を飛び出すフィールドワークや情報処理や文献探索やテキスト読解の方法など、基礎的な技術からさまざまな理論および多彩な読みにいたるまで、広汎な角度からアプローチするものとなっている。こうしたカリキュラム構成は、やがてグローバルな文化交流に貢献する日本語教師や中学・高校の国語教員、図書館司書、博物館学芸員、研究者など、あらゆる世界へと羽ばたいてゆく真の力を蓄えてもらうことを目指している。

〔創作・評論コース〕

このコースは、文学の多様な創造と批評のテクノロジーを実践的に学び、21世紀の社会が求めている超ジャンルの知性と想像力を備えたさまざまな表現者、実作者を育成することを目指している。そのために、カリキュラムの基軸には読むこと＝書くこと、見ることを訓練するカリキュラムを設け、さらに世界に向けて横断するさまざまな文学ジャンルの技法とその源泉となっている現代の「知」の地平を見渡したカリキュラム、それをプロデュースし編集・デザインするカリキュラムを配置した。このカリキュラムの構成は、創作と評論の実践を「入門」・「方法」・「応用・実践」を軸に区分けされているが、その組み合わせは自由である。その自由な組み合わせを通して小説家、評論家のみならず、ライター、編集者、コピーライター、宣伝部員、図書館司書、学芸員、教育者、研究者などを輩出することを目標としている。

カリキュラムポリシー（教育課程の編成方針）

日本文学専攻では、日本文学及び日本語を、そこに織り込まれた歴史、文化、社会、思想などとともにグローバルな視点に立って研究し、日本語による高度な表現技術とそれを支える思考力、創造力を持つ学生を育てるために、以下のようなカリキュラムを編成しています。

- 1 「創作・評論」「言語・文学」の2コースを設け、それぞれ創作と批評、文学研究と言語研究を有機的に結びつけるとともに、2つのコースの積極的な交流・融合を図り、創造的实践と学術的研究の両面から、多角的かつダイナミックに対象にアプローチする視点を養います。
- 2 多様な学問分野に触れて、既成の枠組みにとられない領域横断的な思考力を身につけられるよう、古代から現代に至る多彩な日本文学、日本語に関わる様々な言語状況に加え、諸外国の文学や思想、哲学、芸術、映像、

ジャーナリズムなどの領域にわたる幅広い専門科目を開講し、学生一人一人の創意で独自のフィールドを構築できるように配慮しています。

- 3 主体的、能動的な授業への参加を重視し、3、4学年には専門の少人数ゼミナールに全員が所属するほか、1学年には「基礎ゼミ」や「専門基礎研究」、2学年には「クリエイティブ・ライティング」や「アカデミック・ライティング」・「フィールド・ワーク」など、少人数クラスでの実践的、双方向的な授業を通して、学生各自の興味や志向に応じた、きめ細かい指導、啓発を行います。
- 4 創作・評論コースでは、読むこと／書くことの訓練を通して現代の「知」の地平をプロデュースし編集・デザインする能力を、言語・文学コースでは、文献探索やテキスト読解に基づいて自身の考えを的確にプレゼンテーションする能力を磨くことを重点的にを行い、それぞれ現代社会を生きる上で必要なコミュニケーション技術の向上を図ります。
- 5 卒業論文・卒業制作（創作・評論コースでは小説などの創作も可）を必修とし、4年間に学んだ知識、理論、技能などを総合的に活用して自身の集大成となる論文・作品に取り組めるよう、教員による綿密な個別指導とゼミにおける相互批評を実施します。

ディプロマポリシー（卒業認定・学位授与に関する方針）

日本文学専攻は、人文学の幅広い教養と、日本語による的確な表現技術を基盤として、物事を絶えずその本質において問い直し、新たな知的価値を創出することのできる人材を育成することを目指しています。その趣旨のもとに厳格な成績評価を行い、所定の単位の修得が認められた学生に対し卒業を認定し、学士（文学）の学位を授与します。卒業までに身につけるべき資質・能力は以下のとおりです。

- 1 関心・意欲・態度
 - 1) 知識や情報を能動的に活用し、自発的な学修を継続できること。
 - 2) 人間に対する洞察と異文化の理解に基づいて、他者を尊重できること。
- 2 思考・判断
 - 1) 様々な資料・情報を自らの力で分析し、多面的で論理的な思考ができること。
 - 2) 物事の本質的な次元にまで遡って自ら問題を発見し、批判的に考察できること。
- 3 技能・表現
 - 1) 日本語の高度で適切な運用によって公共的なコミュニケーションができること。
 - 2) 構造・技法の分析や文献探索を通して言語テキストを多角的に読解できること。
- 4 知識・理解
 - 1) 日本文学や日本語の専門知識を修得し、それを人間や言語に関する普遍的な考察に結びつけられること。
 - 2) 文学や言語の研究を通して人間の多様な営みに関する知識と理解を深め、社会や文化の未来を柔軟に思考することができる横断的な知性と倫理を身につけていること。

英語英米文学専攻

英語英米文学専攻では、英語圏留学制度の充実と、1学年からのチュートリアル制度によるきめ細かな個別指導が特色である。学生は、世界共通語としての英語の「リーディング」「ライティング」「リスニング」「スピーキング」の4技能を少人数クラスで修得し、その向上した語学力を基礎に、チュートリアル制による個別指導のもとに、専門教育を受ける。専門分野では、英語による高度なコミュニケーション能力の修得と、英語圏における文学作品の解釈・文化の探求・翻訳を通して分析的思考力の修得を行なう。さらに卒業論文の制作などを通じた論理的表現力の涵養などにより、世界を視野において積極的に活躍できる人材をめざす。

本コースの多様なカリキュラムにより育成できる人材は、中学・高校の英語教員、小学校の教員、翻訳家、通訳・ガイド、航空会社地上・客室乗務員、国内外資本のビジネス・パーソン、観光・旅行業務担当者、書籍出版業務担当者、公務員、ジャーナリスト、日本語教員等である。さらに大学院進学の道もあり、希望する学生は、個々の目的に

応じた指導を受けることができる。

カリキュラムポリシー（教育課程の編成方針）

英語英米文学専攻では、近畿大学並びに文芸学部の全体的カリキュラムを基盤として、本専攻のディプロマポリシーに合う学生を育成するため、以下のような特色あるカリキュラムを提供します。

- 1 「Reading」「Academic Writing」「Listening」「Speaking」「English Communication」「Presentation Skills」などの必修授業において読む、書く、聞く、話すという外国語教育における4基本技能を鍛え上げます。
- 2 TOEIC その他の英語能力検定試験で高い評価を得られるような、より実践的な英語能力の強化を目指す「Practical English」「TOEFL Writing」「TOEIC Advanced」といった科目を低学年から配置します。
- 3 国際的体験を得るための留学制度を充実させ、また、英語圏の文学、文化、言語に通じることができる「English Literary History」「American Literary History」「Culture and Literature」「Global Issues and Literature」「Film and Literature」「Poetry Studies」「Children's Literature」「Anglo Fiction Studies」「American Fiction Studies」「Medieval English Literature」「Drama Studies」といった専門授業を多く提供し、国際的事象に対して幅広い視野を持つ能力を涵養します。
- 4 「English Education」「Early Childhood English Education」といった専門授業により、言語修得および教育実践についての深い知見を獲得させ、英語科教員として優れた教育を行うための知識及び能力を培います。
- 5 「Seminar」「Reading Academic English」などの専門授業において高度な専門知識を修得させ、それにより高い次元での国際的見識を有する人材を育成します。

ディプロマポリシー（卒業認定・学位授与に関する方針）

英語英米文学専攻では、「深い教養と志をもち、社会を支える気概を持った学生を育成し、社会に送り出すことを最終教育目標」とする近畿大学のディプロマポリシーを旨として、厳格な成績評価によって所定の教育課程の修得が認められた学生に卒業を認定し、学位（文学）を授与します。卒業までに身につけるべき資質・能力を以下に示します。

- 1 関心・意欲・態度
古来から日本の文芸の中心地であった大阪の地で、高度な専門教育を経て、学士号取得に至ることに誇りを持ち、国際社会及び地域社会に自らの力を還元しようという志を抱いていること。
- 2 思考・判断
国際的に困難な状況においても和を成すことができるような、他者との高いコミュニケーション能力を所持するに至っていること。またそのための幅広く、深い教養を在学中に得ていること。
- 3 技能・表現
専門知識・技能の修得により、学士として総合的に高いレベルに到達していること。また、これらの知識と技能に裏打ちされた専門分野研究活動（卒業論文）において、説得力のある議論を構築する能力の修得が示されていること。
- 4 知識・理解
所定の科目の内容を修得し、勉学への高い志が見られること。また、英語の語学能力を高い次元まで伸ばし、社会で求められる幅広い運用能力を身に付けていること。

芸術学科

舞台芸術専攻

舞台芸術の創作・制作活動は、複数の人間による共同作業を基本とし、他者を意識しながら、自身の成長を促す表現行為であり、コミュニケーション能力の向上、さまざまな人間への深い理解と共感について学ぶことができる可能性を秘めている。本専攻では、総合芸術としての舞台芸術の中でも、特に、演劇、舞踊、戯曲の創作を実践的に学ぶ

こと、かつまた、それらについて学術的、批判的、歴史的に学ぶこと、を目的とした4つの学びの系によるカリキュラムを用意している。

本専攻の目的は、舞台芸術を人間社会における重要かつ普遍的な文化的営みの一つとして認識すること、舞台芸術の持続と発展に寄与する人材の育成にある。グローバル化する日本において、民主主義社会における芸術の役割について深く考え、よりよい社会を構築する為に、社会的想像力を育み、集団で表現内容や表現形態を模索し、常識に果敢に挑戦しながら創造することを実現できる人間の育成を目指している。

本専攻は、実学教育に基づき、幅広く舞台芸術に携わる可能性をもつ人材（俳優、ダンサー、劇作家、演出家、振付家、プロデューサー、アドミニストレーター、技術スタッフ、等）の育成を目指すばかりでなく、人格の陶冶を目指して、舞台芸術への造詣を深めることで、精神的にもより豊かな生き方を選択できる人材、他者への暖かいまなざしをもつことができる人材の育成を目指している。

なお、本専攻では「国語（中学校・高等学校）」の教員免許を取得できる制度があるので、教職課程履修要項を熟読の上、進んで教職科目を習得してほしい。

カリキュラムポリシー（教育課程編成・実施の方針）

舞台芸術専攻では、どのような角度から舞台芸術を学んでいくかの指標として、2016年度から、〔演劇創作系〕、〔舞踊創作系〕、〔戯曲創作系〕、〔TOP(Theatre Organization Planning)系〕の4つの系を設けています。各自が選択した「系」の学びの中心となる核科目と、専攻の共通科目を横断的に組み合わせ、それぞれに独自カリキュラムを作成することにより、多角的に専門的な知識と経験が習得できるように構築されています。他学部、他学科、他専攻の選択科目も組み込むことができます。また、国語の教員免許、図書館司書、学芸員資格取得のためのカリキュラムを設置しています。

4つの「系」の学びの方針は以下のとおりです。

〔演劇創作系〕

演劇創作の実践活動を通じた演劇表現の創造を探究します。作品を立体的に読み取ること、役を演じること、作品を演出すること、作品に必要な照明・音響・舞台美術を創ること、公演を制作することに必要な知識と能力を、実習・演習形式の授業を中心に習得します。さらに、発展的な授業から、演劇を通じた教育活動や社会貢献を目指すために必要な知識と能力を身につけます。

〔舞踊創作系〕

舞踊創作の実践活動を通じた舞踊表現の創造を探究します。踊ること、振付すること、作品に必要な照明・音響・舞台美術を創ること、公演を制作することに必要な知識と能力を、実習・演習形式の授業を中心に習得します。さらに、発展的な授業から、舞踊を通じた教育活動や社会貢献を目指すために必要な知識と能力を身につけます。

〔戯曲創作系〕

戯曲という科白による「物語」を創ることを実践的に学びます。「物語」を作ることは新たなものの見方を社会に提示し、まだ見ぬ社会の構築を目指すことでもあります。1年次から戯曲創作の授業で創作実践を積み重ねると同時に、他の系の授業を横断的に学ぶことにより、多くの人々の共感を得、人々の生き方に影響を与え、より良い社会の構築を可能にするような新しい「物語」を創作する力を身につけます。

〔TOP (Theater Organization Planning) 系〕

舞台芸術の理論、歴史、批評を学ぶと同時に、広く実際の舞台芸術作品、公演に触れ、さらに他の3つの系の授業、また、他学部・他学科・他専攻の授業を横断的に学ぶことで、舞台芸術を企画し実現させていくために必要な知識、社会に舞台芸術の種を蒔き、育み、広めていくために必要な考察力を身につけます。舞台芸術活動におけるプロデューサー、アーツマネージャー、フェスティバル・オルガナイザーとして、また、舞台芸術の研究者、批評家、芸術擁護活動（アドヴォカシー）に携わる者を目指すために必要な知識と能力を身につけます。

ディプロマポリシー（学位授与の方針）

舞台芸術を専攻し、卒業するという事は、私たちを取り巻く様々な事象から、人間とは何か、生きるとはどういうことかについて深く知り、考えることのできる教養と能力を身につける、ということです。舞台芸術専攻では新たな表現、創造を生み出す原動力となるこれらの力が備わること教育の目標とし、厳格な成績評価によって教育カリキュラムを運営しています。

卒業研究（演劇作品、舞踊作品を公演の形で発表するもの、および戯曲創作、卒業論文を作成するもの）を含む必要な科目を履修し、所定の単位を修得した学生に卒業認定し、学士（文芸学）の学位を授与します。

卒業までに身につけるべき資質・能力は以下のとおりです。

1 関心・意欲・態度

- 1) 舞台芸術のみならず、世界の多様な事象に興味、関心を持ち、自発的にそれらについて知る術と意欲。
- 2) すべてのことに偏見を持たず、世界の事象の中に美を見出そうとし、また、他者と積極的に関わることにより、深い愛情や優しいまなざしに基づいて思考し、人間の行動の本質を理解しようと努める態度。
- 3) 多様な問題に直面した時、常識的な考え方にとらわれず、人間の感情や理性を根本に据えてものを捉えようとする態度。

2 思考・判断

- 1) 社会や人間に対し、創造を通じた学びの経験に根ざした広範な問題意識を持ち続けること。
- 2) 問題の解決のために、創造的かつ論理的な思考、判断ができるようになること。

3 技能・表現

- 1) 舞台芸術に関する基本的技術を身につけていること。
- 2) 舞台芸術の表現力、および、それを社会的な場に広げる言語表現能力を身につけていること。

4 知識・理解

- 1) 舞台芸術についての専門的な知識を有し、その作品や表現を理解して適切に批評し、また、その社会的役割について理解していること。
- 2) 舞台芸術探求を通して、人間の多様な営みに関する知識と理解を深め、社会や文化について柔軟に思考する力を身につけていること。

造形芸術専攻

私たちを取り巻く視覚的なもの全てが、色とカタチで成り立っています。そしてそれらは日々変化しています。私たちはそのような世界のどの場所に自分を置き、どのように関わっていくことができるでしょうか。

先人たちの技を知り、時代を読み取り、現代との関わりを考えることは、どの分野においても必要です。造形芸術における制作あるいは研究は、「知性」の引き出しをより多くし、「問題意識」を持ち、そしてそこから生まれる「発想と表現」を高めることによって、初めて達成することができます。

造形芸術専攻では、一つの分野に閉じこもることなく、いろいろな角度からの制作・研究を目指します。そのため、1年生から専門分野でのゼミナール制や基礎演習科目等を通じて多くの分野の教員と接することができるようにしています。

学生には、受身になるのではなく、自分自身で「感じる・考える・創り出す」ことを積極的に行い、社会に貢献できるようにしてほしいと考えています。

カリキュラムポリシー（教育課程の編成方針）

造形芸術専攻は、少人数ゼミナール制で「感じる・考える・創り出す」を繰り返すことにより、専門的知識・技術・発想力を身につけます。

平面・メディア表現領域（油彩画、版画、染織、グラフィックアート、イラストアート）、立体・素材表現領域（ガラス造形、陶芸、木材造形）、芸術学領域（美術史・芸術学）の3つの領域、9つのゼミナールを設置しています。

1年次では4つのゼミナールを選択し、2年次では2つのゼミナールを選択します。3年次以降は1ゼミナールに絞り込み、専門的な知識・技術を深めます。入学時に、進みたい方向や表現方法が絞りきれていない場合も、多様な分野の実技を体験することで研究対象に出合えます。

それに加えゼミナールを超えたプロジェクト・ワークショップなどでコミュニケーション能力を強化します。

その他、教員免許・図書館司書資格・学芸員資格取得のカリキュラムを併設しています。

これらを実現するために以下のカリキュラムを設置しています。

- 1 少人数ゼミナール選択制で専門的な知識・技法を深め、芸術に取り組む姿勢・感性を磨きます。
- 2 デッサン基礎演習・平面基礎演習・立体基礎演習等では、造形活動に必要な思考力・創造性を養います。
- 3 造形プロジェクト演習では、社会で必要とされているコミュニケーション能力・マネジメント能力・プレゼンテーション能力を強化します。
- 4 造形特別プログラムでは、ゼミナールならではの深い専門知識・技術を身につけます。
- 5 美術史をはじめとする研究・理論系の講義では、制作や研究に必要な知識と思考力を身につけます。

ディプロマポリシー（卒業認定・学位授与に関する方針）

造形芸術専攻は、「造形芸術を通じて、教育現場や社会に貢献できる人を育成する」、「専門的な力を持つ造形芸術作家やデザイナー及び研究者を育成する」、「ゼミナール、ワークショップ、イベント企画、産学連携アートプロジェクトを通してコミュニケーション能力及びマネジメント能力を身につけた人を育成する」、「グローバル（アート）教育、国際アート交流プロジェクトを通して国際交流に意欲を持つ人を育成する」、を教育の目標としており、厳格な成績評価により教育カリキュラムを運営しています。これらの趣旨をもとに開講された科目を履修して、所定の単位を修得した学生に卒業認定し、学士（文芸学）の学位を授与します。

- 1 関心・意欲・態度
 - 1) 疑問を持った事柄を放置せずに解決に向かうことができること。
 - 2) 既成概念にとらわれず常に新たな発想を持つことができること。
- 2 思考・判断
 - 1) 多角的視点で物事を思考する能力を身につけること。
 - 2) 「感じる・考える・創り出す」を積極的に繰り返し、発見・判断ができること。
- 3 技能・表現
 - 1) 自分の作品や論文について、論理的に発表できるプレゼンテーション能力を身につけること。
 - 2) 専門分野の基本的技術を身につけること。
- 4 知識・理解
 - 1) 芸術と社会環境について具体的に説明できること。
 - 2) 現代芸術を歴史的観点から理解できること。
 - 3) 社会に貢献できるコミュニケーション能力を身につけること。

文化・歴史学科

文化・歴史学科の専門科目は、「日本史系」「世界史系」「現代文化・倫理系」「文化資源学系」という4つの授業群で構成されている。学科内に専攻やコースは設けず、自由度の高いカリキュラムを設定している。その目指すところは、学生に幅広い知識・教養を身につけてもらうとともに、みずから人と会い現地に足を運ぶ行動力と情報を適切に伝える発信力を身につけてもらうことにある。

多彩な講義科目の意図は、世界遺産からサブカルチャーまで幅広い〈文化〉を横軸に、古代から現代まで視野におさめたく〈歴史〉を縦軸に、学びの幅を広げつつ、個性と関心に応じて専門分野を定めて、研究を深めてもらうことにある。「実習」系の科目や「演習」（ゼミ）は、聴くこと・話すこと・読むこと・まとめること・書くこと等の、社会で求められる基礎的な能力の育成を意図している。なにより学生には、少人数教育を通じて教員と身近に接しながら、

歴史の深さ、世界の広さ、文化の多彩さを学び、学ぶことそのものの楽しさを味わってほしい。

本学科で学ぶ個々の専門分野は、必ずしも直接的に卒業後の進路に結びつくものではない。しかし本学科の目指すところは、教養と行動力をもって社会に貢献できる人材を育成することにある。現に卒業生たちは、一般企業や小中高の教員、NPO等々で社会人として立派に活躍している。また専門的な研究を志す者については大学院に進学するための指導を行い、すでに研究職に就いている者もいる。

カリキュラムポリシー（教育課程の編成方針）

人間が生み出す輝かしい文化全般を視野に入れ、4つの系にまとめられる科目群に基づいて、人類の歩みを掘り起こすと同時に、現在の出来事を見据える力を養います。

1 〈日本史系科目〉

日本史系の科目群は、日本の古代から近現代に至る歴史と文化を学び、発見する楽しさを体験しながら、私たちの歴史と文化を未来に引き継ぐことをめざしています。歴史の中に自ら分け入り、独自の視点から読み解き、歴史を明らかにする方法を学びます。そのために、最新の研究成果に触れ、先人たちが書き残した文献史料に親しむとともに、日本の地理や文化遺産の深い理解へと導く科目群を設置しています。

2 〈世界史系科目〉

世界史系科目群は、地域的には西洋と東洋、時期的には古代から現在までの人類の歩みを概観するとともに、世界の文化と歴史を、文献史学、考古学、口述記録、宗教学、文化人類学、文化史を含む多角的な視点から学べるように設定してあります。授業を通じて、古今東西の歴史と文化にふれながら、ゼミでさらに特定の地域研究を深めることができます。

3 〈現代文化・倫理系科目〉

現代文化・倫理系科目群は、日本、そして世界でリアル・タイムで起こっているさまざまな事象を広く視野におさめ、楽しんだり悩んだり怒ったりしながら、これから社会で生きていく上でのもの見かた、考え方を深めていく科目群です。ジェンダー、メディア、サブカルチャー、倫理、思想といった言葉がキーワードになりますが、扱うテーマは消費文化やポピュラー音楽から現代思想、世界経済の問題まで、硬軟とりまぜ多彩な講義を用意しています。学びのポイントは「異なった見方、考え方を身につける」です。

4 〈文化資源学系科目〉

文化資源学系科目群は、日本と世界における有形・無形の文化遺産の重要性を学び、それらを現在と将来に残し、生活や社会の中で活かす方法を模索することを目指します。さまざまな文化遺産を学んだうえで、身近な文化資源を調べて掘り起こし、その活用と発信の方法を考えます。この系では考古学と民俗学を中核にして、実習形式の授業に参加しながら、主体的にフィールドに出て、自分で考え、行動することへと導く科目群を設置しています。

ディプロマポリシー（卒業認定・学位授与に関する方針）

文化・歴史学科は、学問的手法に基づいて文化事象を分析する能力を育成するとともに、自分で問題を発見し解決する力、他人の話に耳を傾け、時には自らの考えを修正する柔軟性、そして自分の意見や着想を他人に伝える発信力を養います。本学科で得た知識と思考力を多様な分野の中で活かし、しっかりした学問研究をベースに実践的な社会生活の中で自分の能力を十二分に発揮できる人材を育成します。

それゆえ本学科で修得されるべき能力として以下の4つの領域における特徴を併せ持つことが求められます。それを基準として厳格な成績評価を行い、所定の単位の修得が認められた学生に対し卒業を認定し、学士（文学）の学位を授与します。卒業までに身につけるべき資質・能力は以下のとおりです。

1 関心・意欲・態度

- 1) カリキュラムポリシーに示された4つの系にまたがる幅広い知識と理解力を身につけることにより、古今東西にわたる広大な世界事象をトータルに把握する意欲をもつこと。
- 2) 現代の社会文化に対するアクチュアルで自発的な考察力を持つこと。

2 思考・判断

- 1) 卒業後の自分の進路や自らの社会的使命に対してつねに真摯かつ誠実であることを心がけること。
- 2) 身の回りや社会に生起する諸問題に対する鋭敏な洞察力を鍛えること。

3 技能・表現

- 1) 社会的な積極性を持ち、自主性を心がけることのできる人物、そして文化的な意味で個性ある社交的能力に長けた人物となること。
- 2) 職場、同僚、友人、家族、近隣など日常の人間関係にとどまらず、ボランティアや趣味やSNSなど自らが積極的に関与する広範な人間関係の中で、文化事情についての自己表現を行う技術と能力を発揮する意欲を持つこと。

4 知識・理解

- 1) 4つの系にまたがった広い見識と同時に、自分の専門領域とする文化事象について深い理解を会得し、実践的に応用できる能力を身につけること。
- 2) 協調性を重視すると同時に、独自の思考と判断のできる能力と表現力を身につけること。

文化デザイン学科

文化デザイン学科は、人間の広範な文化活動、創造活動を日常生活、地域社会、都市環境の中で活かす新たなシステムやプログラムをデザイン／構想し、創造し、プロデュースすることを教育、研究の目的とします。私たちの文芸学部だけを見ても、そこで展開されている教育、研究には多様で豊かな文化コンテンツ——造形芸術、舞台芸術、文学、歴史学、民俗学、現代文化研究、コミュニケーション理論、環境倫理等——が含まれています。文化デザイン学科は、そのような芸術的・文化的コンテンツを大学の内部に留めておくのではなく、社会につなげて活用するための新たなシステムやプログラムをデザイン／構想し、創造し、プロデュースすることを目指します。

この目的を達成するための教育体系として、「感性学系」「デザイン系」「プロデュース系」の3つの大きな系を軸として、その中に感性学、視覚文化学、空間デザイン、視覚デザイン、プロダクトデザイン、プロデュース、アートコミュニケーション、文化政策の8分野にわたる専門科目群を設けました。3つの系の科目群をまんべんなく履修したのち、最終的に一つの系の一つのゼミナールにおいて、専門分野の理論的・実践的知識と能力の修得を目指します。

〔感性学系〕

感性学系は、「文化デザイン学科」全体の学問的基礎を習得する系として位置づけます。ここでは、従来「美学」と呼ばれてきた分野を「感性学」としてその領野を拡大し、それに基づいて人間の様々の芸術的・文化的営みを感性的認識活動もしくは感性的知の実践として捉え直し、それを通して多元化し高感度化した現代文化の多様性をいわば敏感に嗅ぎ分けるための知識と能力を養います。「感性学」さらには「視覚文化学」も、日本の大学においてはまだ十分には展開されていない新しい学問領域であり、その先駆的・積極的意味を少なからずもつものと考えます。

感性学系の下には、以下の二つの分野が置かれます。

a 感性学分野

すべての文化の基盤をなしている自然と人間精神について、また両者の関係について、さらに感性的知が最も顕著に表れる美や芸術の世界について、それらの基本的な理論と歴史を学びます。

b 視覚文化学分野

近年重要性を増している「ヴィジュアル・カルチャー・スタディーズ」に対応する学問分野として、人間の知性と感性の発現全体を「視覚文化」の視点から捉え、モダン・アートやポスト・モダンの文化、サブカルチャーにまで及ぶ幅広い文化領域における視覚文化の意味と価値を学びます。

〔デザイン系〕

デザイン系は、「モノの形を描くデザイン」よりも広い概念である「デザイン思考」に則ったデザインのあり方を

追究します。クリエイター達の思考法から構築された「デザイン思考」は、未来社会にイノベーションを注入する仕組みとして、『デザイン』の本来的な意味に沿ったアイデア創出力、課題解決力として企業活動や社会システムに応用されつつある創造的思考法です。デザイン系では、デザインの技法も学びますが、むしろ技術教育に特化することなく、デザインと人間、デザインと社会との関係性を考察し、それを具象、抽象を問わず創り出し提案する能力を養うこととなります。

デザイン系の下には、さらに以下の3つの分野が置かれます。

a 空間デザイン分野

生活空間から都市環境まで、広く空間デザインに関わりながら、関連する多様なデザインアイテムを対象とするが、「ソーシャルデザイン」という概念に基づき、社会全体をデザインする構想力、創造力を培うための知識、方法を学びます。

b 視覚デザイン分野

グラフィックデザインにとどまらず、データ・ビジュアライゼーションから都市景観まで、広範な視覚情報のデザインによって、新しい社会コミュニケーションや需要を開拓し、より安全で快適な社会環境を創り出す能力と知識を学びます。

c プロダクトデザイン分野

人の生活を支える様々な道具、情報機器などに応じるプロダクトデザインに関わるが、与えられた機能を造形化するだけでなく、商品企画や新しい需要を開拓する能力育成に重点を置き、未来の生活環境への提言、問題解決手法を学びます。

〔プロデュース系〕

プロデュース系は、文化・芸術の社会的実現性という最終段階を担うところに位置付け、様々な文化コンテンツを実社会の中でいかに適正に応用し、稼働させるかという、システムや構造・仕組みを考える分野として設置します。今後の高度成熟化社会においては、文化コンテンツの有効活用や文化産業のイノベーションが必須となります。その認識に基づいて、文化コンテンツの教育研究にもまして、コンテンツの社会化、事業化を目指した総合企画力がより強く求められることを踏まえ、総合的プロデュース能力を持つ人材を育成します。プロデュース系の下には、以下の3つの分野が置かれます。

a プロデュース分野

美術、演劇、音楽、文学、イベント、祭りなどの文化コンテンツを都市社会や地域社会の文脈の中に位置づけ、稼働させる能力と知識を学びます。まちおこしや観光プロデュースという地方創生の観点も重点課題として取り組みます。

b アートコミュニケーション分野

アートコミュニケーションの重要な分野であるホスピタルアートの実践を学びます。近年重要度を増しているホスピタルアートは、芸術から医学までを有する総合大学である近畿大学においてこそ、先鋭的に実践できる分野であるといえます。

c 文化政策分野

文化コンテンツの社会化に際しての不可欠の要素である文化政策、文化経済、社会構造など、芸術・文化の公共的、行政的政策についての基本的知識、関連する法律や社会化のための手法など学びます。

カリキュラムポリシー（教育課程の編成方針）

文化デザイン学科では、人間の文化的・芸術的成果を社会につなげるシステムやプログラムをデザイン／構想し、創造し、プロデュース／実行するため知識と能力を修得し、それを実社会において実践することのできる人材を育成するため、以下のようなカリキュラム編成と教育方針を立てています。

- 1 「文化デザイン」についての基礎的総合的知識を得るために、「感性学系」「デザイン系」「プロデュース系」の3つの系の科目群を設置し、そのすべての領域を偏ることなく履修するカリキュラム編成を基盤としています。
- 2 現代社会・グローバル社会において「文化デザイン」が持つ意味と役割の重要性を認識し、修得した専門的知識と能力を社会に還元するため理論と方法を教育します。
- 3 1年次から必修として全教員の「ゼミナール」を課し、年次毎に研究テーマを絞りながら、最終的に4年次において一つのテーマに取り組む4年間の「段階的発展的ゼミナール教育」を少人数で行います。
- 4 各系の理論的講義だけではなく、1年次から4年次までの「ゼミナール」あるいは「プロジェクト演習」「プレゼンテーション演習」などにおいて、学内のみならず学外の企業・団体ともコラボレーションする実践的なタスクワークを行います。
- 5 4年間の学業の集大成として取り組む卒業論文・卒業制作・卒業プロジェクトにおいて、ゼミナール教員による個別指導とともに、全教員による合評会を取り入れ、学科全体として学生の研究をサポートします。

ディプロマポリシー（卒業認定・学位授与に関する方針）

文化デザイン学科は、人文諸学の基礎的知識と感性的直観力、美的感性と倫理的思考力を養い、それらを基礎にした実践活動に必要な創造的思考力・デザイン思考・マネジメント力・情報分析力、さらにチームワークに必要なコミュニケーション力・調整能力、加えて困難を克服するための問題解決能力などを修得した人材の育成を教育の趣旨としています。

この趣旨の下に厳格に成績評価を実施し、所定の単位を修得した学生に卒業を認定し、学士（文芸学）の学位を授与します。卒業までに身につけるべき資質・能力は以下のとおりです。

- 1 関心・意欲・態度
 - 1) 様々な社会現象に問題意識を持ち、その課題の解決への探求心をもつこと。
 - 2) 解決すべき課題を他者と共有し、積極的にコミュニケーションを図ること。
- 2 思考・判断
 - 1) 感性と知性の調和を保ち、良識に基づいた思考と判断力を修得していること。
 - 2) 現代に鋭敏な、また未来を見通す論理を超えた直観力を発揮できること。
- 3 技能・表現
 - 1) デザイン、プロデュースの専門分野における基本的方法と技術についての知識、能力を修得していること。
 - 2) 思考内容や表現内容を論理的にプレゼンテーションする技術と能力を修得していること。
- 4 知識・理解
 - 1) 文化、芸術、政治、経済、科学など人間活動の広範な分野についてグローバルな知識を持っていること。
 - 2) 物事について、他者の立場に立って考え社会貢献につながる倫理的公共的理解ができること。

I 学 修 要 項

1. 学科構成

文芸学部は、文学科（日本文学専攻・英語英米文学専攻）、芸術学科（舞台芸術専攻・造形芸術専攻）、文化・歴史学科及び文化デザイン学科の4学科で構成されています。

2. 学期及び授業時間

- (1) 学年を前期及び後期の2期に分け、それぞれ原則として15週ずつ授業を行います。
- (2) 文芸学部においては、ほとんどの授業科目が第1～5時限で開講されます。ただし、教職課程等の科目は、第6・7時限に開講される場合があります。

各時限の授業時間帯は次のとおりです。

第1時限	第2時限	第3時限	第4時限	第5時限
9:00～10:30	10:45～12:15	13:15～14:45	15:00～16:30	16:45～18:15

第6時限	第7時限
18:25～19:55	20:05～21:35

*上記の授業時間帯以外に集中講義科目等が開講される場合があります。

3. 授業科目の構成

- (1) 授業科目は、「共通教養科目」、「第一外国語（英語）」、「第二外国語」及び「専門科目」に分かれています。
- (2) 「専門科目」は、文芸学部独自の専門的な研究や教育を全うするための授業科目を系統的に、学科専攻コース毎に編成したもので、必ず単位を修得しなければならない科目（「必修科目」と、指定された方法で選択して単位を修得しなければならない科目（「選択必修科目」・「自由選択科目」）があります。

4. 単位制

- (1) 単位制とは、各授業科目について一定の履修基準に従い、これを履修し合格することによって、その授業科目毎に定められている単位を修得する制度です。
- (2) 単位数の計算は、授業の方法に応じ、当該授業による教育効果、授業時間外に必要な学修等を考慮し、原則として次の基準によります。
 - ① 講義及び演習については、内容に応じて15時間から30時間までの範囲で定める時間の授業をもって1単位とします。
 - ② 実験、実習及び実技については、内容に応じて30時間から45時間までの範囲で定める時間の授業をもって1単位とします。ただし、芸術等の分野における個人指導による実技の授業については、内容に応じて定める時間の授業をもって1単位とします。
 - ③ ①・②にかかわらず、卒業論文、卒業研究、卒業制作等の授業科目については、これらの学修の成果を評価して単位を授与することが適切と認められる場合には、これらに必要な学修等を考慮して、単位数を定めています。

*一部の科目については、上記の基準によらずに単位数を定めているものもあります。

5. 学年制

本学部の修業年限は4年となっています。4年を超えて在学することはできますが、8年を超えて在学することはできません。本学部では学年制を採用していますので、「第1学年」、「第2学年」、「第3学年」及び「第4学年」が存在します。在学年数が必ずしも当該「学年」を意味するわけではありません。例えば、在学年数が5年であっても3学年生ということがあります。

上級学年（1学年から2学年、2学年から3学年、3学年から4学年）へ進級するためには、当該学年次に休学期間を除いて1年間以上在学し、かつ所属の学科・専攻で定められた進級要件を満たさなければなりません。この条件を満たさなければ、留年となります。また、卒業するためには4学年に1年間以上在学しなければなりません。

6. 卒業証書・学位記

本大学に4年間以上在学し、所定の授業科目を履修し、所定の単位を修得して、卒業資格を得た者には、卒業証書・学位記を授与します（所定の単位数については各学科・専攻の授業科目表をご覧ください）。

9月卒業証書授与について

卒業に必要な単位が不足したために3月期に卒業出来なかった場合、次年度の前期に開講されている科目を履修することによって不足単位数24単位以内を満たすことができるならば、それらの科目を履修登録して合格すると9月に卒業証書の授与を受けることができます。

7. 授業科目の選択及び履修登録

(1) 授業科目の選択

- ① 授業科目の履修に際しては、単位制の本質からみて、単に受講するだけでなく、自主的に学習を進める必要があります。また、履修した科目については、その科目の性質を理解し各自が自己の志向を考慮し、学習の目的を達成するように、在学期間を通じて系統だった選択をすることが望ましいです。
- ② 授業科目の選択は、原則は各自の自由に委ねられていますが、各学年配当科目の履修にあたっては、第一に必修科目の履修に不足がないかどうかを確かめ、次に選択必修科目・自由選択科目等を履修するように心がけてください。必修科目が不合格になった場合は、年度をあげず**再履修**するようにしてください。
- ③ **卒業所要単位数は卒業に必要な最低修得単位ですので、授業科目の選択にはこれを上回る単位数を計算して履修登録の計画をたてる必要があります。**

(2) 履修登録

- ① 各学期の始めに、その年度（期）に履修しようとする授業科目を選択し登録しなければなりません。この登録は授業科目の履修ならびに定期試験の受験に関して最も重要な手続きです。**この登録なしに受講し受験をしても単位の認定は受けられません。**
- ② 指定された履修登録期間外の履修科目の追加・変更は認められません。
- ③ 上級学年に配当されている科目を下級学年で履修することはできません。
- ④ すでに単位を修得した科目を再度登録（履修）することはできません。
- ⑤ 同一開講期・曜日・時限に2科目以上を重複して登録（履修）することはできません。
- ⑥ クラス指定された科目は、原則として指定されたクラスを変更することはできません。

8. キャップ制

(1) 制度について

履修登録できる単位数に上限を設けることが、キャップ制です。文芸学部では以下の表に示すとおり履修登録できる単位数に制限を設け、前期24単位、後期24単位の当該年度あわせて48単位を上限とします。

学年	「前期」 履修登録単位数の上限	「後期」 履修登録単位数の上限	「通年」 履修登録単位数の上限
1～4	24	24	48

(2) キャップ制除外科目（成績評価が「認定」の科目）

①海外研修

「留学プログラムⅠ・Ⅱ」、「Study Abroad Programme」

②インターンシップ

「インターンシップ」

③上記以外の成績評価が「認定」の科目

「自校学習」、「数的リテラシー基礎1・2」、「文化資源学自由研究」、大学・文芸学部留学制度により認定された科目

※成績評価の「認定」については、「16. 成績評価」参照

④教職課程・司書課程・博物館学課程科目のうち、卒業要件とならない科目

⑤大学コンソーシアム大阪および他学部との互換科目

9. 履修取り下げ

(1) 制度について

履修登録期間終了後、学部が定めた期間に、学生本人から申し出があった科目に関してのみ履修の取り下げを認めます。ただし、取り下げ期間中の履修科目の変更や追加は認められません。

詳しい手続き方法は、近大 UNIPA または掲示にて通知します。

(2) 履修取り下げ除外項目

例外的に履修取り下げの対象にならない科目があります。

上記 8. (2)、に該当する科目

10. 試験について

試験には、「定期試験」（前期試験・後期試験）、「追試験」及び「再試験」があります。（この他に各授業科目担当者が必要に応じて臨時に試験を行う場合があります。）

受験資格（各試験共通）

次の各項に該当する者は受験資格がないので、たとえ試験を受けても無効となります。

- ① 履修登録をしていない者
- ② 授業料等学費の未納者
- ③ 学生証を所持していない者

* 試験当日学生証を忘れた場合は、「仮学生証」の貸出しを受けてください（手数料が必要です）。

(1) **定期試験**とは、各期終了時に履修登録済の科目について、学生全員を対象に行う試験をいいます。

定期試験の時間帯は以下のとおりです。授業時間帯とは異なりますので、注意してください。

第1時限	第2時限	第3時限	第4時限	第5時限	第6時限	第7時限
9:30～10:30	11:00～12:00	13:30～14:30	15:00～16:00	16:45～17:45	18:30～19:30	20:00～21:00

(2) **追試験**とは、定期試験を「正当な理由により受験できなかった」と文芸学部で認められた場合に限り、実施する試験をいいます。

追試験受験手続方法、受験資格及び試験日は、近大 UNIPA または掲示にて通知します。

「12. 文芸学部追試験規程」を参照してください。

- (3) **再試験**とは、最終学年の者が履修登録をし、最終試験（定期試験・追試験）を受験した結果、不合格（成績評価「不可」）となった科目について、その学年度内で実施する試験をいいます。「不受」の場合は、再試験は受けられません。

再試験受験手続方法、受験資格及び試験日は、近大 UNIPA または掲示にて通知します。

「13. 文芸学部再試験規程」を参照してください。

11. 受験時の注意

- (1) 「試験開始」の指示の後、まず最初に答案用紙に「科目名」「担当者名」「学部学科」「学年」「学籍番号」「氏名」を黒のペン又はボールペンで明瞭に記入すること。記入されていないものは無効になります。
- (2) 試験中の不正行為は絶対に許されません。万一、不正行為があった場合は、「14. 文芸学部定期試験等における不正行為に関する規程」に基づき処分します。
- (3) 試験中に物品（筆記具、消しゴム、その他）の貸借は認めません。
- (4) 試験開始後 20 分以上遅刻した者は受験できません。
- (5) 試験開始後 45 分を経過しなければ、退室はできません。
- (6) 答案用紙の試験場からの持ち出しは禁止します。
- (7) 答案用紙は一部ずつ配付し、破損の場合に限り新しい用紙と交換します。
- (8) その他、受験態度不良もしくは試験監督者の指示に従わない者には受験の停止を命じることがあります。

12. 文芸学部追試験規程

第 1 条 追試験については、本学学則第 19 条に基づき、この規程を定める。

第 2 条（受験資格及びその手続）

定期試験を受験する資格を有するにもかかわらず、病気・不慮の事故等正当な理由により、専門科目、共通教養科目及び外国語科目につき定期試験を受けることができなかった者は、追試験の受験を申請することができる。ただし、実験、実習、実技及び演習科目を除く。

- 2 申請者は、追試験受験申込書に必要な証明書を添付して、追試験受験の申請をしなければならない。
- 3 本学部は、正当な理由があると認めた者に対して、追試験を実施する。

第 3 条（受験科目）

当該学期に履修登録した科目に限り追試験を実施する。

第 4 条（追試験日程及び実施方法）

追試験日程及び実施方法は、掲示板にて公表する。

第 5 条 追試験については、受験料を徴収する。

- 2 前項の規定により納入された受験料は、追試験を受けなかった場合においても、これを返還しない。

附 則（略）

附 則

この規程の改正は、平成 23 年 6 月 28 日から施行する。

13. 文芸学部再試験規程

第 1 条 再試験については、本学学則第 19 条に基づき、この規程を定める。

第 2 条（受験資格及びその手続）

本学部 4 学年学生で、専門科目、共通教養科目及び外国語科目の取得単位数の合計が 118 単位以上の学生に限る。

- 2 申請者は、再試験受験申込書に必要な事項を記入して、再試験受験の申請をしなければならない。
- 3 再試験受験資格者は、本学部で審査のうえ、認定する。

第3条 (受験科目の制限)

受験できる科目は、専門科目（卒業論文・卒業研究・卒業制作・卒業創作・卒業公演・Graduate Study・卒業プロジェクトを除く）、共通教養科目及び外国語科目のうち、当該年度の履修登録をしたうえで、定期試験・追試験を受験し不合格になった科目、または定期試験に準じるレポートを提出して不合格になった科目に限る。

2 再試験は、卒業資格単位に不足する単位数に該当する科目数まで受験することができる。ただし、6単位分を超えることはできない。

第4条 (受験科目の評価)

再試験受験科目の評価は、60点を最高限度とする。

第5条 (再試験日程及び実施方法)

再試験日程及び実施方法は、掲示板にて公表する。

第6条 再試験については、受験料を徴収する。

2 前項の規定により納入された受験料は、再試験を受けなかった場合においても、これを返還しない。

附 則 (略)

附 則

この規程の改正は、平成21年2月27日から施行する。

14. 文芸学部定期試験等における不正行為に関する規程

第1条 次の事項に該当する行為は不正行為とする。

- (1) 本人が自分に代えて他人を受験させたとき
- (2) カンニングペーパー、参照を許されていない教科書・ノート・参考書等や、他人の答案等を盗み見たとき、あるいは携帯電話等の電子機器を使ってカンニングを行ったとき
- (3) 故意に(1)(2)の行為に協力したとき
- (4) その他試験の公正を害したとき

第2条 前条に定める不正行為を行った者は、学則第41条により処分される。またその不正行為が摘発された時から、その試験期間中の受験資格を停止し、当該学期に履修登録したすべての科目の成績を無効とする。ただし、前条第4項にかかわる行為においては、当該試験科目のみを無効とする場合がある。

第3条 不正行為に関わる処理と手続きは次のとおりとする。

- (1) 試験期間ごとに試験実施責任者をおく。試験実施責任者は学部長が任命する。
- (2) 試験監督者は、不正行為を発見したとき、ただちに当該学生^の答案用紙など証拠となるものを取り上げ、学生証を預かり、そのまま試験場に待機させ、試験終了後、文芸学部事務部へ連れて行く。
- (3) 試験監督者は、試験終了後試験実施責任者に報告する。
- (4) 試験実施責任者は、試験監督者とともに当該学生（第1条第1項の場合は代人も）から事情や弁明を聞き、処分の決定があるまで自宅などで待機するよう命じる。
- (5) 試験実施責任者は、不正行為が第2条に定める当該試験科目のみを無効とする処分にあたりと判断したときは、以降の受験を認めるものとする。

第4条 不正行為を行った学生に対する処分の検討と取り扱いについては別に定める。

第5条 この規程は、文芸学部が行う定期試験、追試験、再試験に適用する。

第6条 この規程の改廃は、学生委員会及び教務委員会の議を経て、教授会が決定する。

附 則

この規程は平成17年7月25日から施行する。

15. レポートにおける剽窃^{ひょうせつ}（盗用）行為について

「剽窃」とは他人の著作から全部または部分的に文章、図表、語句、話の筋、思想などを盗み、自作の中に自分

のものとして用いることです。友人が書いたレポート等を写す行為は剽窃ですし、ネット上の情報を自分のレポートに貼り付けてしまう行為（いわゆる「コピペ」）も剽窃です。コピーでなく自分で入力しても、他者の文章を自分で書いたものと区別せずに自分の文章の一部として用いるのは剽窃にあたります。剽窃は倫理に反することであり、著作権を侵害するなど法に触れる場合もあります。

一方で、レポートを作成するときには、様々な文献を引用することがあります。しかし、「引用」と「剽窃・盗用」は全く異なります。文献等を引用する際に大事なことは、**自分の文章と他人の文章をレポートの中で明確に区別する**ということです。なお、引用は明確に示すこと（明瞭区別性）はもちろん、引用が従であること（主従関係）、出典を明示することなど厳格なルールが存在します。引用ルールの詳細については、近畿大学中央図書館学修サポート (https://www.clib.kindai.ac.jp/search/study_support.html) の「レポートの書き方」や「ダメなコピペ・パクリ＝「剽窃（ひょうせつ）」について」などを参照してください。

近畿大学では、剽窃に対してカンニングと同様に厳正に対処します。米国の大学等では plagiarism（剽窃）は、cheating（カンニング）と同じ扱いになり、剽窃を行ったレポートが判明すると即座に退学させられる場合もあります。**剽窃は倫理に反する行為、不正行為だ**ということです。

レポートに書いた文章は、それを書いた人の大事な自己表現です。レポートや試験でも自分の文章に誇りを持ち、剽窃などせず、自分自身の個性を存分に発揮してください。

16. 成績評価

(1) 履修科目の合格・不合格

100点満点の実点で、60点以上が「合格」となり、59点以下は「不合格」となります。

(2) 成績の評価

成績の評価は、次のように表示されます。

秀（100点～90点）、優（89点～80点）、良（79点～70点）、可（69点～60点）、不可（59点以下）
合格・不合格（60点以上か59点以下か）のみを判定する場合は、合格を「認定」と表示します。

(3) 成績通知と成績証明書

成績通知（毎年度前期末と後期末に近大 UNIPA 成績照会で公開）では、履修登録を行った全ての科目について実点が記載され、成績評価の要件に満たない場合（試験欠席やレポート未提出等）は、「不受」とします。（成績通知の方法は改めてお知らせします。）

成績証明書では、単位修得（合格）科目とその成績評価を記載します。

ただし、GPA には「不可」や「不受」も反映されますので注意してください（17. GPA 制度参照）。

(4) 休学をする年度で一年間休学した者は、当該年度に科目の単位を修得することはできません。前期休学者は、当該年度の通年開講科目及び前期開講科目の単位を修得することができません。また、後期休学者は、当該年度の通年開講科目及び後期開講科目の単位を修得することができません。

17. GPA（Grade Point Average）制度

(1) 制度について

近畿大学では、100点満点の実点および「秀・優・良・可・不可」の成績評価に対応させて、成績評価の指標として GPA（グレード・ポイント・アベレージ）制度を施行しています。GPA とは、100点満点の実点を5段階の GP（グレード・ポイント）に置き換え、その科目の単位数と関連させて GP の平均値を算出した、最高点4点から最低点0点までの数値です。

GPA 制度の意義は、GPA や GP によって自分の学修の全体的な達成度合いを簡便に測ることができる点にあります。GPA あるいは GP に基づいて、自分の弱点を把握し、履修計画や学修状況を反省し、より実効性のある勉学に取り組むことができるのです。

GPA は欧米の大学で広く採用されている評価方法であり、日本の大学のグローバル化に対応する制度です。

すなわち、海外留学、海外の大学院進学、外資系企業への就職などの際に幅広く通用する国際標準の成績評価制度であり、拡大するグローバル社会において必要かつ有効な制度です。

(2) GPA 値の計算方法

GPA は以下の数値と計算式で算出されます。

実点	100～90点	89～80点	79～70点	69～60点	59点以下	不受
成績評価	秀	優	良	可	不可	(不受)
GP	4	3	2	1	0	0

$$\text{GPA} = \frac{\{(\text{履修登録科目の単位数}) \times (\text{履修登録科目の GP})\} \text{の総和}}{\text{総履修登録科目の単位数}}$$

- ☞ 実点は当該科目の点数を表します。
- ☞ GPA は小数第2位を四捨五入して、表記は小数第1位までとします。
- ☞ GPA の最高点は4点、最低点は0点になります。
- ☞ 不可になった科目または不受の科目を再履修して単位を修得した場合、通算の GPA には過去の0点と再履修の GP の両方が算入されます。
- ☞ 進級要件、卒業要件には GPA を適用しません。

(3) GPA からの除外科目

キャップ制除外科目（8. (2) 参照）は、GPA の計算式からも除外されます。

18. 休講と補講

(1) 気象警報又は台風・地震等による交通機関運行停止の場合における授業の取扱い

規定は以下「気象警報及び台風・地震等による交通機関の運行停止に伴う授業の取扱い」のとおりです。

(2) (1)以外で、やむを得ず休講となる場合は、原則補講が行われます。日程等は、近大 UNIPA にてお知らせします。

気象警報及び台風・地震等による交通機関の運行停止に伴う授業の取扱い

暴風警報等が発表された場合及び台風や地震等により交通機関が運行停止となった場合、授業の取扱いについては、学内規程「気象警報及び台風・地震等による交通機関の運行停止に伴う授業の取扱いについて」に基づき以下のとおりとします。ただし、居住されている地域の被災により避難指示（緊急）・避難勧告が発表された場合や公共交通機関が運行停止等になり登校できない場合は、欠席による不利益がないよう配慮しますので、身の安全を最優先に考え、適切な行動をとってください。また、以下の事例以外に特別な事態が生じた場合にも授業の短縮や休講となる場合があります。

特別警報又は暴風警報発表の場合

特別警報又は暴風警報が以下のいずれかの地域に発表された場合は次のとおり休講とします。ただし、特別警報が発表された場合は終日休講とします。また、特別警報又は暴風警報が授業時間中に発表された場合は、授業を中止して休講とします。

1. 警報発表対象地域

大阪府：大阪市、北大阪（豊中市・池田市・吹田市・高槻市・茨木市・箕面市・摂津市・島本町・豊能町・能勢町）、東部大阪（東大阪市・守口市・枚方市・八尾市・寝屋川市・大東市・柏原市・門真市・四條畷市・交野市）、南河内（富田林市・河内長野市・松原市・羽曳野市・藤井寺市・大阪狭山市・太子町・河南町・千早赤阪村）、泉州（堺市・岸和田市・泉大津市・貝塚市・泉佐野市・和泉市・高石市・泉南市・阪南市・

忠岡町・熊取町・田尻町・岬町)

兵庫県：阪神（神戸市・尼崎市・西宮市・芦屋市・伊丹市・宝塚市・川西市・三田市・猪名川町）

奈良県：北西部（奈良市・大和高田市・大和郡山市・天理市・橿原市・桜井市・御所市・生駒市・香芝市・葛城市・平群町・三郷町・斑鳩町・安堵町・川西町・三宅町・田原本町・高取町・明日香村・上牧町・王寺町・広陵町・河合町）、五條・北部吉野（五條市北部・吉野町・大淀町・下市町）

京都府：京都・亀岡（京都市・亀岡市・向日市・長岡京市・大山崎町）、山城中部（宇治市・城陽市・八幡市・京田辺市・久御山町・井出町・宇治田原町）、山城南部（木津川市・笠置町・和束町・精華町・南山城村）

2. 暴風警報解除時刻と授業開始時限

解除時刻	授業開始時限
6時00分時点で解除	1時限目から実施
10時00分時点で解除	3時限目から実施
13時00分時点で解除	6時限目から実施
13時00分時点で警報発表中	全時限休講

* 6時00分時点で特別警報が発表されている場合は解除時刻にかかわらず終日休講

特別警報が発表された場合、該当地域は数十年に一度しかないような非常に危険な状況にあります。自宅や通学中の学生で特別警報が発表された地域にいる場合は、特別警報の種類は問わず、自身の判断により命を守るために最善と思われる行動をとってください。ただし、特別警報発表時に大学構内にいる学生は、大学の指示に従って行動してください。

交通機関の運行停止の場合

台風・地震等により以下に該当するいずれかの交通機関が全面的に運行停止となった場合、運行が再開された時刻により次のとおり休講とします。ただし、当該交通機関での事故等による一時的な運行停止は対象とならないので注意してください。

1. 対象交通機関

[台風・地震等の災害による運行停止]

① 近鉄「大阪線」「奈良線」が同時に運行停止になった場合

② JR西日本（※参照）、南海、阪急、阪神、京阪、大阪メトロのうち2以上の交通機関が同時に運行停止になった場合

※ JR西日本は大阪環状線、京都線（京都～大阪）、神戸線（大阪～姫路）、学研都市線（京橋～木津）、東西線（京橋～尼崎）、宝塚線（大阪～新三田）、ゆめ咲線（西九条～桜島）、大和路線（加茂～JR難波）、阪和線（天王寺～和歌山）、おおさか東線（新大阪～久宝寺）を対象とします。なお、JR西日本のみで2以上の路線が運行停止となった場合は休講の対象となりません。

[ストライキによる運行停止]

① 近鉄が運行停止になった場合

② JR西日本、南海、阪急、阪神、京阪、大阪メトロのうち2以上の交通機関が同時に運行停止になった場合

2. 運転再開時刻と授業開始時限

運転再開時刻	授業開始時限
6時00分時点で再開	1時限目から実施
10時00分時点で再開	3時限目から実施
13時00分時点で再開	6時限目から実施
13時00分時点で運行停止中	全時限休講

19. 欠席届

やむを得ない理由により授業を欠席した場合、証明書類を文芸学部事務部に提出して欠席届の申請手続きをすることができます。受け取った欠席届は、各自で授業担当者に渡してください。

・申請に持参するもの

①証明書類、②学生証、③印鑑（シャチハタ印不可）

※証明書類とは、傷病の場合は加療期間が明記された診断書、忌引き（原則として3親等以内）の場合は会葬礼状などの証明できる書類です。

・申請受付期間

欠席最終日の翌日から7日以内

証明書類がない場合や、やむを得ない理由と認められないときは、申請は受け付けられませんので注意してください。また、該当授業科目担当者より成績報告があった後は、原則として申請は受け付けられません。

欠席届に記載された期間の欠席の取り扱いは、該当授業科目担当者の判断に委ねられます。

また、学校感染症（インフルエンザ等）と診断された場合は、治療するまでの期間は出席停止となります。すみやかに文芸学部事務部に連絡をし、出席停止解除後に学校感染症治癒証明書（大学所定様式）を提出してください。

20. 文芸学部学業成績優秀特待生

4学年を除く各在学年次において、定められた基準を満たした学業成績優秀者は、次年度（次学年）の授業料について免除になる特待生制度の審査に申請することができます。

申請期間・方法や結果発表については、後期成績発表時等にお知らせします。規程は次のとおりです。

文芸学部特待生規程施行細則（学業成績優秀特待生）

（目的）

第1条 この細則は、文芸学部特待生規程に定める学業成績優秀特待生（以下「学業特待生」という。）の運用に必要な細目について定める。

（適用の基準）

第2条 学業特待生の対象基準は、次のとおりとする。

(1) 特待生（A）

学業特待生となる前年度又は前々年度における TOEIC L&R の成績が 500 点以上（文学科英語英米文学専攻においては 700 点以上）であるとともに、進級に際して次の要件を満たすこと。

① 2 学年進級時

36 単位以上取得し、当該年度の平均点が 90 点以上

② 3 学年進級時

72 単位以上取得し、当該年度の平均点が 90 点以上

③ 4 学年進級時

108 単位以上取得し、当該年度の平均点が 90 点以上

(2) 特待生（B）

学業特待生となる前年度又は前々年度における TOEIC L&R の成績が 500 点以上（文学科英語英米文学専攻においては 700 点以上）であるとともに、進級に際して次の要件を満たすこと。

① 2 学年進級時

36 単位以上取得し、当該年度の平均点が 85 点以上

② 3 学年進級時

72 単位以上取得し、当該年度の平均点が 85 点以上

③ 4 学年進級時

108 単位以上取得し、当該年度の平均点が 85 点以上

2 前項各号に定める基準における単位数及び平均点の計算は、次の各号に従うものとする。

(1) 単位数

進級の判定までに本学において修得した卒業要件に算入される科目で算出する。

(2) 平均点

① 進級の判定までに本学において当該年度に修得した卒業要件に算入される科目から、成績評価が認定となる科目（点数で評価されない科目）を除いて算出する。

② 小数点以下を切り捨てて算出する。

(適用の申請)

第3条 前条の基準を満たす者は、文芸学部事務部が定める様式に従い、学業特待生となることを申請することができる。なお、特待生（A）の申請は、特待生（B）の申請を兼ねるものとする。

2 前項の申請は、学年末成績通知等に際して定める所定の期日までに行わなければならない。

(適用の対象)

第4条 学業特待生の適用対象は、次のとおりとする。

(1) 特待生（A）

申請がなされた者のうち、各学科2名以内かつ学部合計8名以内で、教授会の審議により認められた者

(2) 特待生（B）

申請がなされた者のうち、各学科5名以内かつ学部合計20名以内で、教授会の審議により認められた者

2 文芸学部長は、前項に基づき学業特待生の資格が認定された者に対し、前期学費納付期日までに、書面で通知するものとする。

(資格の期間)

第5条 学業特待生の資格は、年度の終了をもって失われる。ただし、継続して資格の認定を受けることを妨げない。

(資格の喪失)

第6条 学業特待生が次の各号のいずれかに該当した場合は、免除を停止し、その資格を喪失させる。

(1) 休学、転学部、退学又は除籍となったとき。

(2) 学則に基づく懲戒処分を受けたとき。

(3) 学業成績が不良のとき。

(4) 辞退を申し出たとき。

(5) その他学業特待生として適当でないと認められたとき。

(授業料等の免除)

第7条 学業特待生に対しては、次のとおり授業料を、それぞれ免除する。

(1) 特待生（A）

前期授業料及び後期授業料を免除する。

(2) 特待生（B）

前期授業料及び後期授業料のそれぞれ半額を免除する。

2 授業料の免除は前期学費納付期日又は後期授業開始日をもって行うものとし、当該日までに学業特待生の資格を喪失した者は、免除に係る授業料を納入しなければならない。

(細則の改廃)

第8条 この細則の改廃は、教授会の議を経て決定する。

附 則

この細則は、平成31年4月1日から施行する。

21. 教職課程と司書課程

教職課程は教職教育部で担当し、本学各学部卒業後、高等学校・中学校の教員を希望する学生のために、教員免許を取得するのに必要な免許資格を修得させることを目的としています。

履修希望者は「教職課程履修ガイダンス」に出席し、その指示に従って手続きしてください。

取得免許教科の種類

学 科 名	高等学校教諭一種 免許状（免許教科）	中学校教諭一種 免許状（免許教科）
文学科（日本文学専攻）	国 語	国 語
文学科（英語英米文学専攻）	英 語	英 語
芸術学科（舞台芸術専攻）	国 語	国 語
芸術学科（造形芸術専攻）	美 術・工 芸	美 術
文化・歴史学科	公 民・地 理 歴 史	社 会

注意点

1. 詳細は「教職課程履修ガイダンス」で配布する『教職課程履修要項』を参照してください。
2. 教職教育部開講科目は、進級・卒業所要単位には含まれません。
3. 時間割の編成によっては教職課程を履修することが難しい場合があります。

司書課程の履修希望者は、「司書課程ガイダンス」に出席し、その指示に従って手続きをしてください。

22. 学芸員資格（博物館学課程）

1. 文芸学部にて学芸員資格取得希望者のために博物館学課程を置く。
2. 学芸員資格取得希望者は、文部科学省令で定める科目を履修し、その単位を修得しなければなりません。
3. 学芸員資格を取得するためには、学士の学位を有していなければなりません。
4. 博物館学課程の履修科目は下表のとおりです。

区分	授 業 科 目	配当 学年	単位数	修得すべき単位数
必修科目	生涯学習概論	1	2	10科目 19単位 (すべて博物館学課程独自の科目である。)
	博物館概論	1	2	
	博物館経営論	2	2	
	博物館資料論	2	2	
	博物館資料保存論	2	2	
	博物館展示論	2	2	
	博物館教育論	2	2	
	博物館情報・メディア論	2	2	
	博物館実習A	3	1	
	博物館実習B	3	2	
選択必修科目	◎書誌学 1	2	2	選択必修科目から4科目8単位以上
	◎書誌学 2	2	2	
	◎日本美術史A	1	2	
	日本美術史B	1	2	
	西洋美術史A	1	2	
	西洋美術史B	1	2	
	現代美術論A	1	2	
	現代美術論B	1	2	
	アジア美術史	2	2	
	工芸史A	2	2	
	工芸史B	2	2	
	絵画論	1	2	
	立体造形論	2	2	
	陶芸論	2	2	
	染織論	2	2	
	日本彫刻史論	2	2	
	※日本史概説A	1	2	
	※日本史概説B	1	2	
	※日本古代史A	2	2	
	※日本古代史B	2	2	
	※日本中世史A	2	2	
	※日本中世史B	2	2	
	※日本近世史A	2	2	
	※日本近世史B	2	2	
	※日本近現代史A	2	2	
	※日本近現代史B	2	2	
	※日本考古学A	1	2	
	※日本考古学B	1	2	
	※歴史考古学A	2	2	
	※歴史考古学B	2	2	
※日本思想史A	2	2		
※日本思想史B	2	2		
※文化資源学概説A	1	2		
※文化資源学概説B	1	2		
※日本民俗学	1	2		
※環境民俗論	1	2		
※近畿歴史文化探索	2	2		

区分	授 業 科 目	配 当 学 年	単 位 数	修 得 す べ き 単 位 数
選 択 必 修 科 目	※世界の文化遺産 A	1	2	選択必修科目から4科目8単位以上
	※世界の文化遺産 B	1	2	
	▽西洋芸術文化史 A	1	2	
	▽西洋芸術文化史 B	1	2	
	▽日本芸術文化史 A	1	2	
	▽日本芸術文化史 B	1	2	
	▽デザイン感覚基礎 A ☆	1	2	
	▽デザイン感覚基礎 B ☆	1	2	
	▽プロデューサー論 A ☆	1	2	
	▽プロデューサー論 B ☆	1	2	
	▽デザイン史 A	1	2	
	▽デザイン史 B	1	2	
	▽アートコミュニケーション論 A	1	2	
	▽アートコミュニケーション論 B	1	2	
	▽空間デザイン論	2	2	
	▽視覚デザイン論	2	2	
	▽視覚文化論	2	2	
▽近畿風土論	2	2		
▽文化政策論	2	2		
▽劇場文化論	2	2		

◎文学科日本文学専攻の科目 ※文化・歴史学科の科目 ▽文化デザイン学科の科目
 ◎、※、▽以外はすべて芸術学科造形芸術専攻の科目
 ☆文化デザイン学科の学生のみ履修可能科目

(1) 履修方法

「必修科目」10科目19単位と、「選択必修科目」57科目から4科目8単位以上を修得しなければなりません。

(2) 履修上の注意

- ① 博物館経営論、博物館資料論、博物館資料保存論、博物館展示論は、「博物館概論」の単位を修得した者に履修を許可します。
- ② 博物館実習 A・B は、「博物館経営論」、「博物館資料論」、「博物館資料保存論」、「博物館展示論」のうち2科目以上の単位を修得した者に履修を許可します。
- ③ 博物館実習 A・B は継続して履修登録するものとし、A の単位を修得した者に B の履修を許可します。
- ④ 博物館実習 A・B の受講に際しては、博物館実習費用等が発生するので、受講料として一万円を徴収します。
- ⑤ 履修希望者は「博物館学課程ガイダンス」に出席し、その指示に従って手続きしてください。
- ⑥ 博物館学課程の履修登録などについては別途、近大 UNIPA にて指示します。
- ⑦ 選択必修科目は、すべて文芸学部の専門科目です。
- ⑧ 必修科目は、進級・卒業所要単位には含まれません。

23. 日本語教員養成課程

近年外国人や在留邦人など日本語の習得を必要とする日本語を母語としない人々の数が増大しています。現在日本語教員についての免許制度はありませんが日本語教員を養成することが推奨されています。

1. 文芸学部日本語教員養成課程を設置する。
2. 以下の要件を満たした者に修了証明書を交付する。

区分	授 業 科 目	配当学年	単位数	修得すべき単位数		
必修科目	言語	日本語教授法基礎 1	1	2	12 単位	
		日本語教授法基礎 2	1	2		
	言語と教育	日本語教授法 1	1	2		
		日本語教授法 2 日本語教授法 3 日本語教授法 4	1 2 2	2 2 2		
選択必修科目 1	言語	日本語学概論	1	2	6 単位以上	
		日本語文法	1	2		
		言語学 1	2	2		
		言語学 2	2	2		
		日本語史論 1	2	2		
		日本語史論 2	2	2		
		★ English Linguistics A	1	2		
		★ English Linguistics B	1	2		
選択必修科目 2	社会・文化・地域	◎国際社会と日本	1	2	2 単位以上	合わせて 8 単位以上
		◎地域と環境の地理学	1	2		
		◎国際経済入門	1	2		
		◎日本文学論	1	2		
		★ Global Issues and Literature A	1	2		
		★ Global Issues and Literature B	1	2		
		★ Comparative Literature A	2	2		
		★ Comparative Literature B	2	2		
		★ Culture and Literature A	3	2		
		★ Culture and Literature B	3	2		
		※日本史概説 A	1	2		
		※日本史概説 B	1	2		
	▽伝統芸能作品研究 A	2	2			
	▽伝統芸能作品研究 B	2	2			
	言語と社会	日本語特殊講義 1	2	2	2 単位以上	
日本語特殊講義 2		2	2			
※現代学入門 A		1	2			
※現代学入門 B		1	2			
※言語文化セミナー初級		2	2			
※言語文化セミナー A ※言語文化セミナー B		3 3	2 2			
言語と心理	◎国際化と異文化理解	1	2	2 単位以上		
	◎心理と行動	1	2			

◎共通教養科目
 ★文学科英語英米文学専攻の科目
 ▽芸術学科舞台芸術専攻の科目
 ※文化・歴史学科の科目
 ★、▽、※、◎以外はすべて文学科日本文学専攻の科目

24. 奨学金制度

- (1) 近畿大学奨学金
- (2) 日本学生支援機構奨学金

(1) (2) いずれの奨学金についても、募集や資格条件等の詳細については、学生部発行の**学生生活ガイドブック**や**近畿大学ホームページ**等で確認してください。

また、この他にも地方公共団体及び民間育英団体等の奨学金制度もありますので、**学生部奨学課**の奨学金専用掲示板を確認してください。

25. 中央図書館案内

学習・研究にあたっては、中央図書館（入口：旧大学本館3階）を大いに活用してください。中央図書館を利用する際に、是非とも知っておいてほしい項目を下記に記載します。

利用の詳細については、中央図書館ホームページまたは中央図書館の各カウンターでお尋ねください。

- (1) 開館時間（中央図書館3～5階）

開講期：8:45～22:00 閉講期：9:00～18:00

試験期：8:30～22:00 日曜・休日開館日：10:00～18:00

※館内へは**学生証**を使って入館してください。

- (2) 貸出冊数・期間

学生は1人につき**10冊**まで、1冊につき**15日以内**で借りることができます。

院生は1人につき**20冊**まで、1冊につき**1カ月以内**で借りることができます。

※貸出の際には**学生証**が必要です。

※長期休暇期間、前期・後期定期試験期間中は、貸出冊数・期間を変更することがあります。

- (3) 指定図書について（中央図書館）

「授業計画（Syllabus）」で教員が参考文献に指定した図書を配架しております。講義・実験・実習や定期試験等に活用してください。

- (4) 各種講習会について（オンデマンドによる随時開催など）

図書館では、より良いレポート・論文を作成するための情報収集法や、各種データベース・電子資料の使い方などを講習会形式でお教えます。どうぞご利用ください。

講習会の内容や申込についての詳細は、中央図書館館内掲示板、または中央図書館ホームページなどでお知らせします。

中央図書館 URL

中央図書館 HP

<https://www.clib.kindai.ac.jp>

蔵書検索システム（OPAC）

<https://opac.clib.kindai.ac.jp>

中央図書館公式 Twitter

近畿大学中央図書館 @Kindai_Clib



中央図書館 HP

Ⅱ 学科・専攻別

卒業・進級・履修要件と授業科目表・カリキュラムツリー

**共通教養科目・第一外国語（英語）・第二外国語
卒業・履修要件と授業科目表**

卒業要件

授 業 科 目	修得すべき単位数	
共 通 教 養 科 目		20 単位以上（「基礎ゼミ」、「コンピュータ実習 1」を含む）
第一外国語（英語）	10 単位以上（必修 8 単位を含む）*	外国語科目 あわせて 14 単位以上 （文学科英語英米文学専攻は第二外国語 4 単位以上）
第 二 外 国 語		

共通教養科目、第一外国語（英語）、第二外国語 卒業所要単位数合計	34 単位以上 （文学科英語英米文学専攻は 24 単位以上）
-------------------------------------	-----------------------------------

注意点

* 第一外国語（英語）については、英語英米文学専攻は修得不要です。

共通教養科目

#印は成績評価が「認定」の科目（キャップ制除外科目）

区分	授 業 科 目	配当学年	単位数	修得すべき単位数	
共 通 教 養 科 目	人間性・社会性科目群	人権と社会 1	1	2	2 単位以上 (自校学習除く)
		人権と社会 2	1	2	
		暮らしのなかの憲法	1	2	
		現代社会と倫理	1	2	
心理と行動		1	2		
現代の社会論		1	2		
哲学と人間・社会		1	2		
住みよい社会と福祉		1	2		
自校学習		1	2 [#]		
教養特殊講義 A		1	2		
国 際 性 ・ 地 域 性 ・ 社 会 性 科 目 群	地域と環境の地理学	1	2	2 単位以上	
	国際経済入門	1	2		
	国際社会と日本	1	2		
	国際化と異文化理解	1	2		
	日本文学論	1	2		
	教養特殊講義 B	1	2		
課 題 設 定 ・ 問 題 解 決 科 目 群	基礎ゼミ	1	2 (必修)	4 単位以上	
	生命の科学	1	2		
	思考の技術	1	2		
	キャリアデザイン 1	2	2		
	キャリアデザイン 2	3	2		
	科学・技術と社会	1	2		
	数的リテラシー基礎 1	2	2 [#]		
	数的リテラシー基礎 2	3	2 [#]		
	コンピュータ実習 1	1	2 (必修)		
	コンピュータ実習 2	1	2		
	教養特殊講義 C	1	2		
表 現 活 動 科 目 群	生涯スポーツ 1	1	1	2 単位以上	
	生涯スポーツ 2	1	1		
	日本語の表現	1	2		
	心と体の健康	1	2		
	身体論	1	2		
	芸術と表現	1	2		

第一外国語（英語）・第二外国語

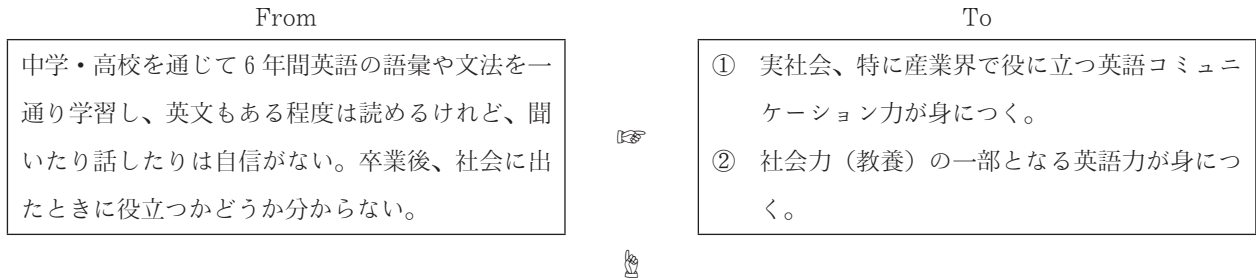
区分	授 業 科 目	配当学年	単位数	修得すべき単位数		
第 一 外 国 語 (英 語)	英語 1 A	1	1	必修 8 単位	第一外国語（英語）10 単位以上 （英語英米文学専攻は修得不要） 第一外国語（英語）・第二外国語あわせて 14 単位以上 （英語英米文学専攻は、第二外国語 4 単位以上）	
	英語 1 B	1	1			
	英語 2 A	1	1			
	英語 2 B	1	1			
	オーラルイングリッシュ 1	1	1			
	オーラルイングリッシュ 2	1	1			
	英語 3	2	1			
	英語 4	2	1			
	オーラルイングリッシュ 3	2	1			
	オーラルイングリッシュ 4	2	1			
	留学英語 1	2	1			
	留学英語 2	2	1			
	TOEIC 1	2	1			
	TOEIC 2	2	1			
	TOEIC 3	2	1			
	TOEIC 4	2	1			
	TOEFL 1	2	1			
	TOEFL 2	2	1			
	インターネット英語 1	2	1			
	インターネット英語 2	2	1			
スポーツ英語基礎 1	2	1	スポーツ学生対象			
スポーツ英語基礎 2	2	1				
ESP 1	2	1				
ESP 2	2	1				
第 二 外 国 語	ドイツ語総合 1	1	1			
	ドイツ語総合 2	1	1			
	ドイツ語総合 3	2	1			
	ドイツ語総合 4	2	1			
	フランス語総合 1	1	1			
	フランス語総合 2	1	1			
	フランス語総合 3	2	1			
	フランス語総合 4	2	1			
	中国語総合 1	1	1			
	中国語総合 2	1	1			
	中国語総合 3	2	1			
	中国語総合 4	2	1			
	韓国語総合 1	1	1			
	韓国語総合 2	1	1			
	韓国語総合 3	2	1			
	韓国語総合 4	2	1			

区分	授 業 科 目	配当学年	単位数	修得すべき単位数
第 二 外 国 語	イタリア語総合1	1	1	第一外国語（英語）・第二外国語あわせて14単位以上 （英語英米文学専攻は第二外国語4単位以上）
	イタリア語総合2	1	1	
	イタリア語総合3	2	1	
	イタリア語総合4	2	1	
	スペイン語総合1	1	1	
	スペイン語総合2	1	1	
	スペイン語総合3	2	1	
	スペイン語総合4	2	1	
	ドイツ語コミュニケーション1	2	1	
	ドイツ語コミュニケーション2	2	1	
	ドイツ語コミュニケーション3	3	1	
	ドイツ語コミュニケーション4	3	1	
	フランス語コミュニケーション1	2	1	
	フランス語コミュニケーション2	2	1	
	フランス語コミュニケーション3	3	1	
	フランス語コミュニケーション4	3	1	
	中国語コミュニケーション1	2	1	
	中国語コミュニケーション2	2	1	
	中国語コミュニケーション3	3	1	
	中国語コミュニケーション4	3	1	
	韓国語コミュニケーション1	2	1	
	韓国語コミュニケーション2	2	1	
	韓国語コミュニケーション3	3	1	
	韓国語コミュニケーション4	3	1	
	イタリア語コミュニケーション1	2	1	
	イタリア語コミュニケーション2	2	1	
	イタリア語コミュニケーション3	3	1	
	イタリア語コミュニケーション4	3	1	
スペイン語コミュニケーション1	2	1		
スペイン語コミュニケーション2	2	1		
スペイン語コミュニケーション3	3	1		
スペイン語コミュニケーション4	3	1		

外国語科目履修の手引き

第一外国語（英語）

英語教育の共通基本目標



“From ⇨ To” を実現する手段としての「近畿大学の英語教育」

— 専門教育と教養をリンクさせる実践的な英語教育 —

共通基本目標

1. 国際社会の共通言語としての英語をコミュニケーションの道具として使いこなすために、バランスのとれた4技能の能力を養成する。
2. 自分の意見を英語で書いたり、発表したり、人とディスカッションしたりする積極的な態度を養成する。
3. 自分の考えを持って課題に取り組み、英語で発表したり、異なる文化をもつ人々とインタラクションしたりできる能力を養成する。
4. 自己評価に基づいて目標を設定し、確実に目標を達成する自律力を養成する。

具体的方策

上記の目標を達成するために以下の具体的方策を実施する。

1. プレイスメントテストによる比較的少人数（15人～30人）の習熟度別クラスの編成。習熟度に応じて基礎から応用まで、実践的でわかりやすい授業の展開。
2. 学生のニーズに合わせた科目を開講。基幹科目で養った英語力及び教養、異文化理解力、アカデミックリテラシーなどをさらに深める。
3. 1年生全員にネイティブ教員によるオーラルコミュニケーションの授業の提供。間違いを恐れず、積極的に英語を話し、発表できる態度の養成。
4. コンテンツを重視した教材の使用。一般的な教養から専門の導入的話題について、学生同士が考え、話し合い、発表するやり甲斐のある活動を多く提供する。
5. 授業外活動の充実による学生の自律性の養成。英語村E³(e-cube(イーキューブ))や語学センターなどの利用促進。E-learning用ソフトや多読用図書の整備と、学生の利用促進。

英語履修案内

英語科目一覧

科目名	配当学年	単位	開講	備考	
英語 1 A	1	1	前	日本人教員担当科目	必修科目
英語 1 B	1	1	前		
英語 2 A	1	1	後	日本人教員担当科目	
英語 2 B	1	1	後		
オーラルイングリッシュ 1	1	1	前	ネイティブ教員担当科目	
オーラルイングリッシュ 2	1	1	後		
英語 3	2	1	前	日本人教員担当科目	
英語 4	2	1	後		
オーラルイングリッシュ 3	2～4	1	前	ネイティブ教員担当科目	選択科目
オーラルイングリッシュ 4	2～4	1	後		
留学英語 1	2～4	1	前	日本人またはネイティブ教員担当科目	
留学英語 2	2～4	1	後		
TOEIC 1	2～4	1	前	日本人教員担当科目	
TOEIC 2	2～4	1	後		
TOEIC 3	2～4	1	前	日本人教員担当科目	
TOEIC 4	2～4	1	後		
TOEFL 1	2～4	1	前	日本人教員担当科目	
TOEFL 2	2～4	1	後		
インターネット英語 1	2～4	1	前	ネイティブ教員担当科目	
インターネット英語 2	2～4	1	後		
スポーツ英語基礎 1	2～4	1	前	日本人教員担当科目	
スポーツ英語基礎 2	2～4	1	後		
ESP 1	2～4	1	前	日本人教員担当科目	
ESP 2	2～4	1	後		

英語科目

<必修科目：科目名・概要>

英語 1 A / 英語 1 B (一年前期科目)

英語 2 A / 英語 2 B (一年後期科目)

伝達手段としての英語に必要な 4 技能（読む、書く、聞く、話す）の基礎力の育成を目標とする。発音や音読練習を重視し、素早く反応できる応答能力を養成する。また基礎的な文法・語彙知識の習得を目指し、リスニング・速読能力の向上を図り、TOEIC の出題内容や形式に慣れ親しませる。さらに、比較的読み易いまとまった内容の文章を理解し、自己の発想や意見を正確に伝えることができる「発信型」の英語力を身につける。

オーラルイングリッシュ 1・2 (一年前期・後期科目)

日常会話に必要な基礎的語彙を増やし、その用法に習熟させるとともに、さまざまな場面（挨拶、自己紹介、電話、買物、食べ物の注文、道案内、予約、銀行、ホテル、病院、家庭など）で、ことばの機能（許可、依頼、招待、提案、予定、計画など）を学び、ロールプレイを作成し演じるにより、基礎的な会話能力の向上を図る。

英語 3・4 (二年前期・後期科目)

英語 1 A / 2 A・英語 1 B / 2 B で習得した語学力をさらに向上させ、伝達の手段としての英語力をより一層確実なものとするを目標とする。また TOEIC 等各種英語試験に対応できる能力の育成を図るとともに、専門的な英語 (English for Specific Purposes、ESP) の入門的な文章を読み、その要点をまとめる能力を身につける。

<選択科目：科目名・概要>

<2年～4年(前期・後期)>

オーラルイングリッシュ 3・4

オーラルイングリッシュ 1・2 で学んだ内容をさらに深め、リスニング力・スピーキング力のさらなる向上を図る。身近なトピック（家族、住まい、音楽、スポーツ、友達、テレビ、仕事、休暇、学校生活など）について聞いたり、読んだりしたことを口頭で説明したり、自分の意見や感想をつけ加えて発表したり、簡単なディスカッションを行うことによって、進んだ会話力を身につける。また、簡単なスピーチ、ディスカッションやディベートを行い、プレゼンテーション能力の向上とともに、英語を用いた交渉能力の向上を図る。

留学英語 1・2

主に留学を考えている学生を対象に、英語圏で日常生活や学生生活に必要な英語力の養成を目指す。ナチュラルスピードで話される講義を聞き取ったり、レポートを英語で作成したりする訓練をする。併せて会話や TOEFL 対策を行う。

TOEIC 1・2

TOEIC 520 点以上取得するための演習を行う。TOEIC に必要な語彙・慣用句の知識を深め、文法事項を再確認するとともに、応答問題や会話問題の聞き取り練習を重点的に行い、リスニング能力を養成する。また、Eメール、ビジネスレター、注文書、広告、グラフなど読解に頻出するジャンルの英語の特徴を学ぶ。

TOEIC 3・4

TOEIC 600 点以上取得するための演習を行う。TOEIC 1・2 で掲げた目標のさらなる進展を図る。語彙力・文法力の増強、様々な場面で必要な会話表現の習得、長いナレーションを正確に聞き取る能力の向上を目指すと同時に、TOEIC で頻出するジャンルの英文を多読・速読することによって読解力を強化する。

TOEFL 1・2

外国の大学の学部・大学院への留学を希望する学生を対象に、TOEFL 550 点 (PBT)、79-80 点 (iBT) 以上を目指して、リスニング・文法・読解能力の向上を図る。さらに外国での学生生活に必要な会話表現を学び、自然な発音・イントネーションでコミュニケーションできるように訓練する。TOEFL に頻出する重要文法項目を習得し、アカデミックライティングの訓練も行う。また、説明文や講義に用いられる語彙・表現の特徴を習得し、速読・速解ができるように訓練する。

インターネット英語 1・2

インターネットに興味がある学生を対象に、インターネット上で必要とされる英語能力の向上を図る。情報収集や発信（メール、申し込み、注文など）の方法を学び、速読・速解そして課題解決能力を育成する。さらに英文のホームページの作成に取り組む。学習の過程で必要な会話表現を習得し、ネイティブのインストラクターとスムーズにコミュニケーションできる能力を身につける。

スポーツ英語基礎 1・2

スポーツ学生を対象として、基本的な単語、イディオム、構文の習得と演習を中心に、自分で聞き、話し、読み、書く能力を発展させるために必要な基礎力の養成を目指す。

ESP (English for Specific Purposes) 1・2

専門分野で必要とされる英語力や国際社会で活躍する上で必要な英語力を養成する。そのため、教材は幅広いジャンルのものを利用する。教材を通じて専門的知識を深め、応用、発展させる能力を身につけ、英語による受信力のみならず発信力の強化を図る。

＜海外英語研修による単位認定＞

インターナショナルセンター主催の海外英語研修に参加し、所定の成績を得た者は、所定の手続きを経て以下の単位が認定単位として与えられる。

留学英語 1・2 (計 2 単位)

英語科目履修 14 単位モデル (文芸学部)

卒業要件として 10 単位以上の英語科目の履修が必要。

☆太枠内は必修科目、細枠内は選択科目。() 内は単位数を表す。

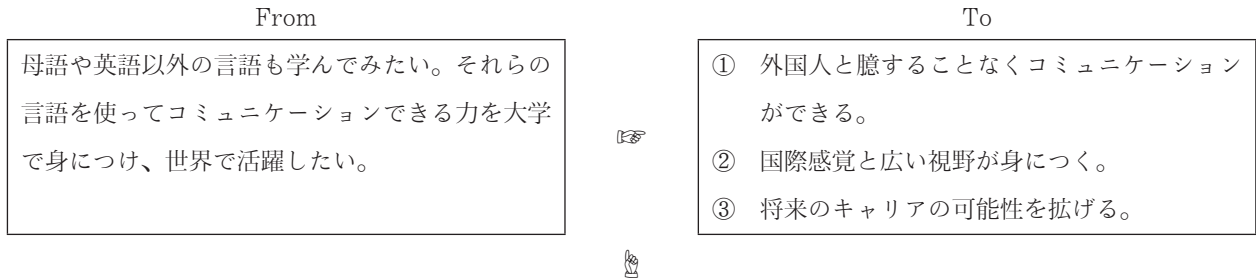
①標準モデル

1 年前期	1 年後期		2 年前期	2 年後期
英語 1 A / 1 B (2)	英語 2 A / 2 B (2)	→	英語 3 (1)	英語 4 (1)
オーラルイングリッシュ 1 (1)	オーラルイングリッシュ 2 (1)		オーラルイングリッシュ 3 (1)	オーラルイングリッシュ 4 (1)
			留学英語 1 (1)	留学英語 2 (1)
			TOEIC 1 (1)	TOEIC 2 (1)
			TOEIC 3 (1)	TOEIC 4 (1)
			TOEFL 1 (1)	TOEFL 2 (1)
			インターネット英語 1 (1)	インターネット英語 2 (1)
			ESP 1 (1)	ESP 2 (1)

上記科目は 2 年次から履修可能

第二外国語

第二外国語教育の共通基本目標



“From ⇄ To” を実現する手段としての「近畿大学の第二外国語教育」

— 今しかない、ゼロから始める第二外国語 —

共通基本目標

1. 英語以外に独仏中韓などの諸言語のいずれかを選択して集中的に学習し、当該言語を運用して十分なコミュニケーションを行う能力を培う。
2. 多様化する国際社会において相互に尊重、信頼し合う上で必要な感性を養い、異文化への理解を深め、これを通じて自分自身の文化をさらに深く理解する。
3. 外国語能力の修得によって、一人一人の学生が自らの個性と適性に応じた多様なキャリアプランを描くことができるようにする。

具体的方策

上記の目標を達成するために以下の具体的方策を実施する。

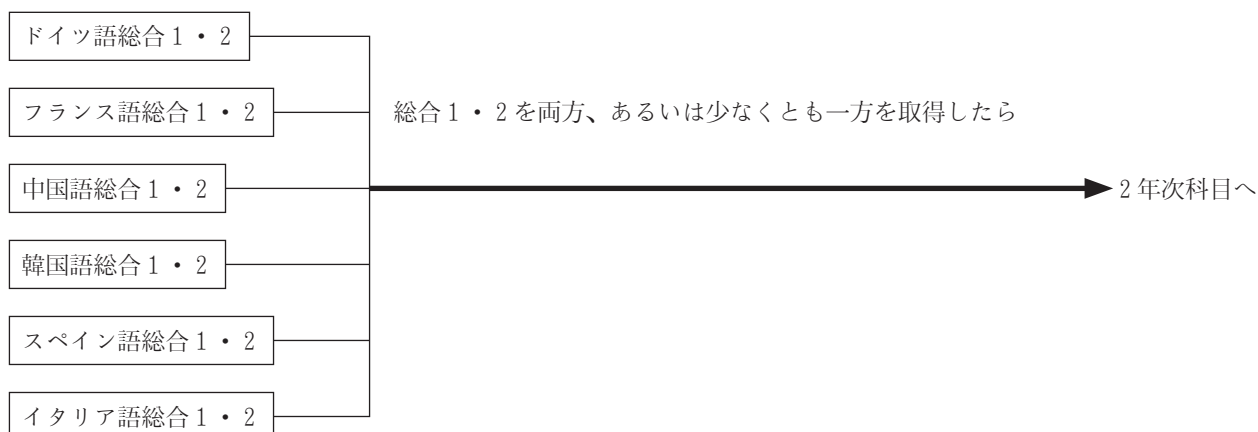
1. 第二外国語を学習する上で適正な規模のクラスを編成する。また、新たに学ぶ外国語の基本能力を習得する基幹科目、及びその能力を実用レベルにまで高める発展科目を設置する。
2. より着実に外国語能力を修得するために、学生が同一言語の基幹科目を2年間履修し、さらに発展科目も履修しながら、継続して学習するよう指導する。
3. 「ことばと文化」「国際化と異文化理解」などの教養科目と語学科目との連携を通じて、言語と異文化双方への理解を深め、国際的視野と深い教養が身につく環境を整える。
4. 語学教育センター講座、語学検定対策、留学生との交歓会、スピーチコンテスト、留学および海外研修などの授業外活動を通じて、学習意欲と外国語運用能力のさらなる向上を図る。
5. 個々の学生を対象とする学習相談室を定期的に開設し、授業外でもきめ細やかな学習支援を行う。
6. 学生のキャリア形成、及び生涯にわたる外国語学習の契機とするため、外国語に関する資格の取得を奨励、支援する。

第二外国語科目一覧

科目名	配当学年	単位	開講	備考	
ドイツ語総合1 ドイツ語総合2	1 1	1 1	前後	日本人またはネイティブ教員担当 科目	基幹科目
フランス語総合1 フランス語総合2	1 1	1 1	前後		
中国語総合1 中国語総合2	1 1	1 1	前後		
韓国語総合1 韓国語総合2	1 1	1 1	前後		
スペイン語総合1 スペイン語総合2	1 1	1 1	前後		
イタリア語総合1 イタリア語総合2	1 1	1 1	前後		
ドイツ語総合3 ドイツ語総合4	2 2	1 1	前後	日本人またはネイティブ教員担当 科目	基幹科目
フランス語総合3 フランス語総合4	2 2	1 1	前後		
中国語総合3 中国語総合4	2 2	1 1	前後		
韓国語総合3 韓国語総合4	2 2	1 1	前後		
スペイン語総合3 スペイン語総合4	2 2	1 1	前後		
イタリア語総合3 イタリア語総合4	2 2	1 1	前後		
ドイツ語コミュニケーション1 ドイツ語コミュニケーション2	2 2	1 1	前後	ネイティブまたは日本人教員担当 科目	発展科目
フランス語コミュニケーション1 フランス語コミュニケーション2	2 2	1 1	前後		
中国語コミュニケーション1 中国語コミュニケーション2	2 2	1 1	前後		
韓国語コミュニケーション1 韓国語コミュニケーション2	2 2	1 1	前後		
スペイン語コミュニケーション1 スペイン語コミュニケーション2	2 2	1 1	前後		
イタリア語コミュニケーション1 イタリア語コミュニケーション2	2 2	1 1	前後		
ドイツ語コミュニケーション3 ドイツ語コミュニケーション4	3 3	1 1	前後	ネイティブまたは日本人教員担当 科目	発展科目
フランス語コミュニケーション3 フランス語コミュニケーション4	3 3	1 1	前後		
中国語コミュニケーション3 中国語コミュニケーション4	3 3	1 1	前後		
韓国語コミュニケーション3 韓国語コミュニケーション4	3 3	1 1	前後		
スペイン語コミュニケーション3 スペイン語コミュニケーション4	3 3	1 1	前後		
イタリア語コミュニケーション3 イタリア語コミュニケーション4	3 3	1 1	前後		

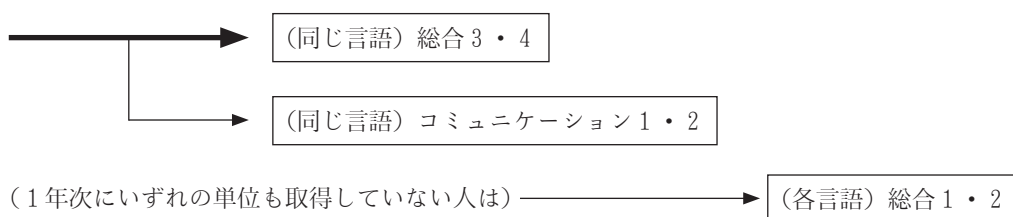
第二外国語履修フローチャート

1年次



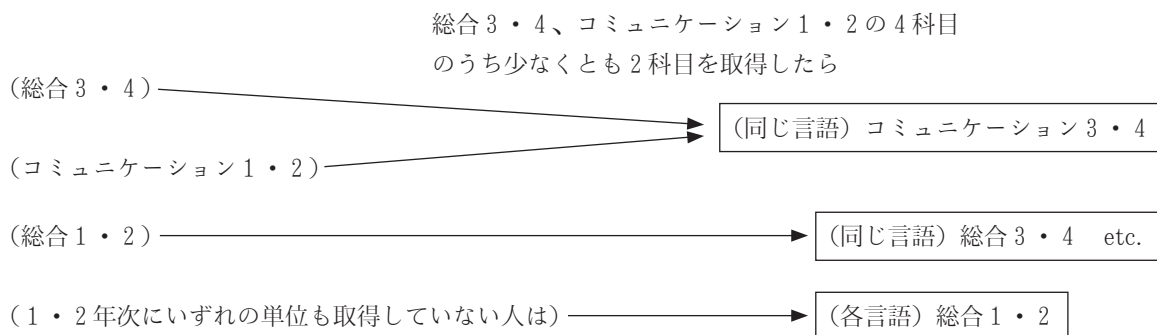
・「総合1」は前期科目、「総合2」は後期科目。同一言語を1・2継続して履修登録すること。履修する言語において、「総合1」を履修せずに、それぞれの「総合2」を履修することはできない。

2年次



- ・1と3は前期科目、2と4は後期科目。1・2および3・4は継続して履修登録すること。
 - ・「総合1・2」と「総合3・4」は基幹科目。「コミュニケーション1・2」は発展科目。
 - ・「総合3・4」と「コミュニケーション1・2」は並行して履修することができる。
- これらの科目は必ず1年次と同じ言語で履修すること。

3・4年次



- ・「コミュニケーション3」は前期科目、「同4」は後期科目。3・4は同一言語を継続して履修登録すること。
- これらの科目は必ず2年次と同じ言語で履修すること。

第二外国語履修のガイドライン

* 履修希望者は、下記の履修条件を満たしている者に限る。

科 目 名	履 修 条 件
ドイツ語 フランス語 中国語 韓国語 スペイン語 イタリア語	総合1・2 同一言語を1・2 継続して履修登録すること <u>履修する言語において、「総合1」を履修せずに、それぞれの「総合2」を履修することはできない</u>
ドイツ語 フランス語 中国語 韓国語 スペイン語 イタリア語	総合3・4 同一言語を3・4 継続して履修登録すること 前年までに同一言語の総合1・2のうち、少なくとも一方の単位を取得していることを条件とする
ドイツ語 フランス語 中国語 韓国語 スペイン語 イタリア語	コミュニケーション1・2 同一言語を1・2 継続して履修登録すること 前年までに同一言語の総合1・2のうち、少なくとも一方の単位を取得していることを条件とする
ドイツ語 フランス語 中国語 韓国語 スペイン語 イタリア語	コミュニケーション3・4 同一言語の総合3・4、コミュニケーション1・2の4科目のうち、少なくとも2科目の単位を取得していることを条件とする

第二外国語科目

<科目名・概要>

<ドイツ語・フランス語・中国語・韓国語・スペイン語・イタリア語 総合1・2>

(1年次選択科目 [2年次再履修クラスも設ける]、1は前期、2は後期)(基幹科目)

(同一言語を1・2継続して履修する)

新しい外国語に慣れ親しみ、初歩的なコミュニケーションが図れるようにする。文字、発音、基本語彙と表現、文構造など、聞き、話し、読み、書くというバランスの取れた言語運用に不可欠な基礎的知識を習得する。週1回の授業。

<ドイツ語・フランス語・中国語・韓国語・スペイン語・イタリア語 総合3・4>

(2年次選択科目、3は前期、4は後期)(基幹科目)

(総合1あるいは2いずれか1科目修得を先修条件とする)

総合1・2で学んだ知識をもとに、その言語のさらにスムーズな運用ができるようにする。比較的長い表現を聞き取って、自分でも言えるように練習する。平易な文章を読みこなし、手紙や簡単な文章を書ける能力も養う。週1回の授業。

<ドイツ語・フランス語・中国語・韓国語・スペイン語・イタリア語 コミュニケーション1・2>

(2年次選択科目、1は前期、2は後期)(発展科目)

(総合1あるいは2いずれか1科目修得を先修条件とする)

「話す」と「聞く」という二つの側面に重点を置く。外国旅行でよく出会う場面や日常生活によくある場面などを用いて、情報を聞き取り、自分を表現する方法を練習する。週1回の授業。

<ドイツ語・フランス語・中国語・韓国語・スペイン語・イタリア語 コミュニケーション3・4>

(3年次選択科目、3は前期、4は後期)(発展科目)

(総合3・4、コミュニケーション1・2の4科目のうちいずれか2科目修得を先修条件とする)

主に日常会話中心に口頭による言語運用能力の基礎を完成させる。より詳細な表現を聞き取って、自分でも正確に言えるように口頭練習し、様々な場面でさらに詳しい情報交換ができるようにする。週1回の授業。

文学科日本文学専攻
卒業・進級・履修要件と授業科目表・カリキュラムツリー

卒業要件

授 業 科 目			修得すべき単位数		
共通教養科目・外国語科目	共通教養科目	人間性・社会性科目群 (自校学習除く)	2 単位以上	20 単位以上 (基礎ゼミ、コンピュータ実習1を含む)	34 単位以上
		地域性・国際性科目群	2 単位以上		
		課題設定・問題解決科目群	4 単位以上		
		スポーツ・表現活動科目群	2 単位以上		
	第一外国語 (英語) (必修 8 単位含む)	10 単位以上	あわせて 14 単位以上		
第二外国語					
専 門 科 目	言語・文学コース	必修科目	講義	10 単位	90 単位以上
			卒業論文・卒業制作	4 単位	
			コース必修	2 単位	
			演習	4 単位	
	選択必修科目	選択必修科目 I	12 単位以上		
		選択必修科目 II	26 単位以上		
	創作・評論コース	必修科目	講義	10 単位	
			卒業論文・卒業制作	4 単位	
			コース必修	2 単位	
			演習	4 単位	
		選択必修科目	選択必修科目 I	12 単位以上	
			選択必修科目 II	26 単位以上	
	自由選択科目 (コース共通)			32 単位以上	

文芸学部卒業所要単位数	124 単位以上
--------------------	-----------------

進級要件

1 学年→ 2 学年	2 学年→ 3 学年	3 学年→ 4 学年
「共通教養科目」、「外国語科目」、「専門科目」の中から合計 20 単位以上を修得していること。	「専門基礎研究」(2 単位) 及び「文学概論 1・2」(各 2 単位) を含んで、「共通教養科目」、「外国語科目」、「専門科目」の中から合計 46 単位以上を修得していること。	「日本文学史 1・2」(各 2 単位) 及び 3 学年配当の「演習 1 A・1 B」(自コースの演習科目合計 2 単位) を含んで、「共通教養科目」、「外国語科目」、「専門科目」の中から合計 92 単位以上を修得していること。

※印は他学科・他専攻・他コースに開放する科目

#印は成績評価が「認定」の科目（キャップ制除外科目）

区分	授 業 科 目	配当学年	単位数	修得すべき単位数	
選 択 必 修 科 目	Ⅱ （ 創 作 ・ 評 論 コ ー ス ）	※ 創作技法 1	2	2	この中から 26 単位以上
		※ 創作技法 2	2	2	
		※ 創作技法 3	2	2	
		※ 文芸批評 1	2	2	
		※ 文芸批評 2	2	2	
		※ 現代思想 1	2	2	
		※ 現代思想 2	2	2	
		※ 外国文学 1	2	2	
		※ 外国文学 2	2	2	
		※ 映像と文学 1	2	2	
		※ 映像と文学 2	2	2	
		※ 比較文学	2	2	
		※ 推理小説論	2	2	
		※ マスメディア論	2	2	
		※ ジャーナリズム論	2	2	
		※ 編集技法	2	2	
		※ 編集・出版論	2	2	
		創作研究 1	3	2	
		創作研究 2	3	2	
評論研究	3	2			
編集研究	3	2			
自 由 選 択 科 目	コ ー ス 共 通	※ 映像・芸術基礎 1	1	2	この中から 32 単位以上
		※ 映像・芸術基礎 2	1	2	
		※ 古典と現代 1	1	2	
		※ 古典と現代 2	1	2	
		※ 文芸特殊講義 1	1	2	
		※ 文芸特殊講義 2	1	2	
		※ 日本語教授法基礎 1	1	2	
		※ 日本語教授法基礎 2	1	2	
		※ 日本語教授法 1	1	2	
		※ 日本語教授法 2	1	2	
		※ 映像・芸術論 1	2	2	
		※ 映像・芸術論 2	2	2	
		※ 演劇・芸能論 1	2	2	
		※ 演劇・芸能論 2	2	2	
		※ 文芸特殊講義 3	2	2	
		※ 文芸特殊講義 4	2	2	
		※ 書誌学 1	2	2	
		※ 書誌学 2	2	2	
		書道	2	2	
		※ 日本語特殊講義 1	2	2	
		※ 日本語特殊講義 2	2	2	
		※ 手話学 1	2	2	
		※ 手話学 2	2	2	
		※ 日本語教授法 3	2	2	
		※ 日本語教授法 4	2	2	
		※ 文芸特殊講義 5	3	2	
		※ 文芸特殊講義 6	3	2	
		※ 漢文学 1	3	2	
		※ 漢文学 2	3	2	
		※ 文芸特殊講義 7	4	2	
		※ 文芸特殊講義 8	4	2	
		※ 関西文化研究	4	2	
※ 大阪文芸研究	4	2			
留学プログラムⅠ	1	2 [#]			
留学プログラムⅡ	2	2 [#]			
インターンシップ	2	2 [#]			
他学科・他専攻・他コースの開放科目(※)					

履修上の注意

1. **1 学年生**は、1 学年配当の必修科目 [コース共通] (合計 6 単位)、1 学年配当の選択必修科目 [I] [コース共通] (合計 12 単位以上)、1 学年配当の自由選択科目を履修する。
ただし、これらの科目の単位を 1 学年のうちにすべて修得し終えていなくても 2 学年に進級できる。
2. **2 学年生**は、2 学年配当の必修科目 [コース共通] (合計 4 単位)、それぞれのコースの 2 学年配当 [コース必修] (合計 2 単位)、それぞれのコースの 2 学年配当の選択必修科目 [II] (3 学年配当と合わせて合計 26 単位以上)、及び 2 学年配当の自由選択科目を履修する。
ただし、進級要件を満たしていれば、これらの科目の単位を 2 学年のうちにすべて修得し終えていなくても 3 学年に進級できる。なお、他コースの選択必修科目 [II] (開放科目) は自由選択科目として履修することができる。
3. **3 学年生**は、それぞれのコースの 3 学年配当の選択必修科目 [II] (2 学年配当と合わせて合計 26 単位以上)、3 学年配当の [演習] (合計 2 単位)、及び 3 学年配当の自由選択科目を履修する。
ただし、進級要件を満たしていれば、これらの科目の単位を 3 学年のうちにすべて修得し終えていなくても 4 学年に進級できる。
4. **4 学年生**は、4 学年配当の必修科目 [コース共通] (「卒業論文・卒業制作」4 単位) と、それぞれのコースの 4 学年配当の [演習] (合計 2 単位)、及び 4 学年配当の自由選択科目を履修する。
5. 自由選択科目※書道は芸術学科舞台芸術専攻で、教職を履修する者に限り開放する。

文学科英語英米文学専攻
卒業・進級・履修要件と授業科目表・カリキュラムツリー

卒業要件

授 業 科 目			修得すべき単位数		
共通教養科目・外国語科目	共通教養科目	人間性・社会性科目群 (自校学習除く)	2 単位以上	20 単位以上 (基礎ゼミ、コンピュータ実習1を含む)	24 単位以上
		地域性・国際性科目群	2 単位以上		
		課題設定・問題解決科目群	4 単位以上		
		スポーツ・表現活動科目群	2 単位以上		
	第二外国語		4 単位以上		
専門科目	必修科目		66 単位		
	選択必修科目	Basic	16 単位以上		
		Advanced	8 単位以上		
	自由選択科目		10 単位以上		

文芸学部卒業所要単位数	124 単位以上
--------------------	-----------------

進級要件

1 学年→2 学年	2 学年→3 学年	3 学年→4 学年
「共通教養科目」、「外国語科目」、「専門科目」の中から、合計 24 単位以上修得していること。	専門科目のうち「必修科目」及び「選択必修科目」の中から 30 単位以上修得し、「共通教養科目」、「外国語科目」、「専門科目」の中から合計 56 単位以上修得していること。	専門科目 60 単位以上を含んで、「共通教養科目」、「外国語科目」、「専門科目」の中から合計 92 単位以上修得していること。

※印は他学科・他専攻に開放する科目

#印は成績評価が「認定」の科目（キャップ制除外科目）

区分	授 業 科 目	配当学年	単位数	修得すべき単位数	
必 修 科 目	Speaking I A	1	2	66 単位	
	Speaking I B	1	2		
	Listening I A	1	2		
	Listening I B	1	2		
	Reading A	1	2		
	Reading B	1	2		
	Tutorial I	1	2		
	Practical English (L) I A	1	1		
	Practical English (L) I B	1	1		
	Practical English (R) I A	1	1		
	Practical English (R) I B	1	1		
	American Literary History	1	2		
	Presentation Skills A	2	1		
	Presentation Skills B	2	1		
	Speaking II A	2	2		
	Speaking II B	2	2		
	Listening II A	2	2		
	Listening II B	2	2		
	Tutorial II A	2	2		
	Tutorial II B	2	2		
	English Literary History	2	2		
	English Communication I A	3	2		
	English Communication I B	3	2		
	Academic Writing A	3	2		
	Academic Writing B	3	2		
	Seminar I A	3	2		
	Seminar I B	3	2		
	Reading Academic English I A	3	2		
	Reading Academic English I B	3	2		
	Seminar II A	4	2		
Seminar II B	4	2			
Reading Academic English II A	4	2			
Reading Academic English II B	4	2			
English Communication II	4	2			
Graduate Study	4	4			
選 択 必 修 科 目	B a s i c	※ Children's Literature A	1	2	この中から 16 単位以上
		※ Children's Literature B	1	2	
		※ Anglo Fiction Studies A	1	2	
		※ Anglo Fiction Studies B	1	2	
		※ American Fiction Studies A	1	2	
		※ American Fiction Studies B	1	2	
		※ Literary Translation I A	1	2	
		※ Literary Translation I B	1	2	
		※ Comparative Literature A	2	2	
		※ Comparative Literature B	2	2	
		※ Medieval English Literature A	2	2	
		※ Medieval English Literature B	2	2	
		English Education A	2	2	
		English Education B	2	2	
		Literary Translation II A	2	2	
		Literary Translation II B	2	2	

※印は他学科・他専攻に開放する科目

#印は成績評価が「認定」の科目（キャップ制除外科目）

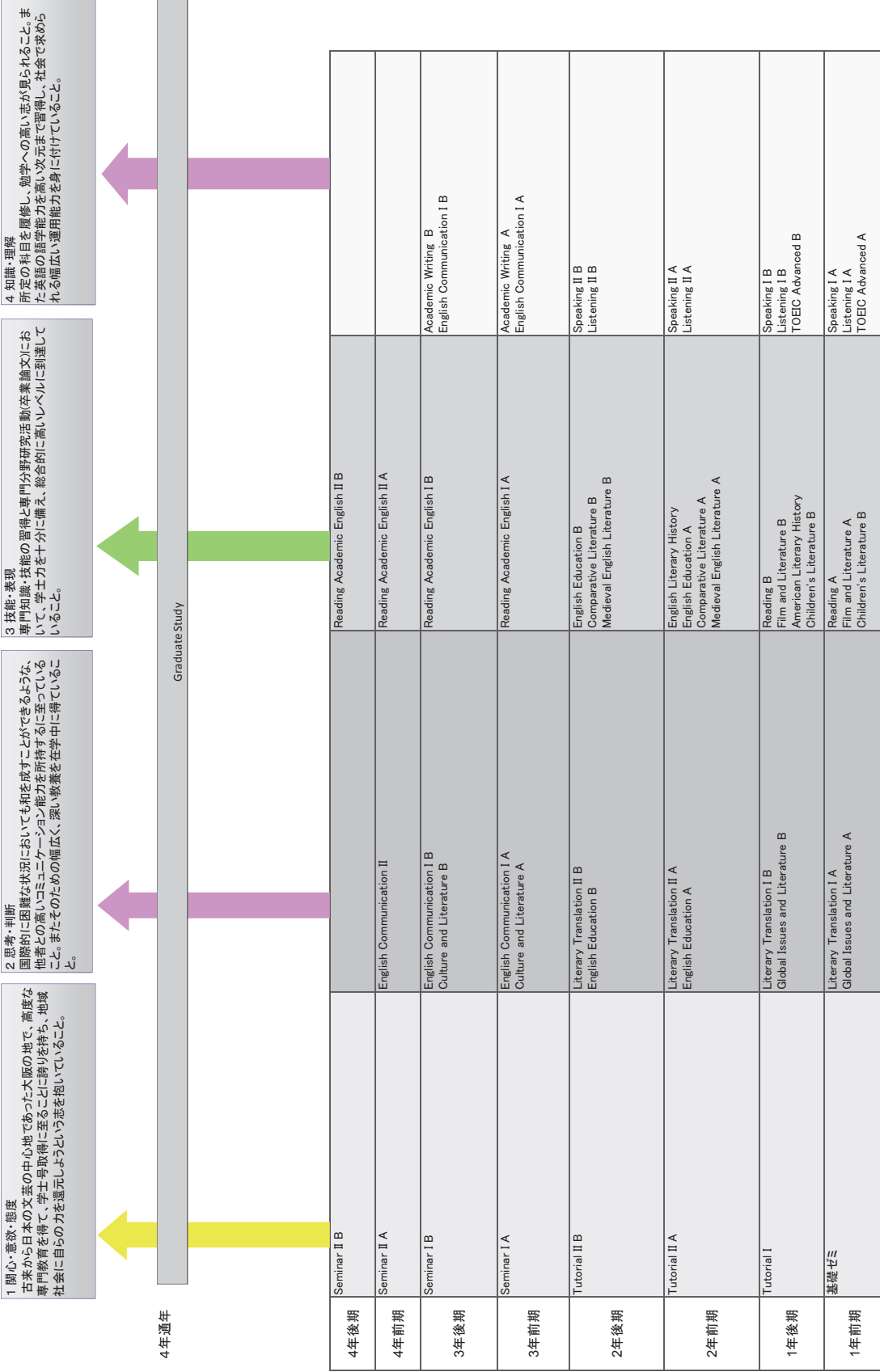
区分		授 業 科 目	配当学年	単位数	修得すべき単位数
選 択 必 修 科 目	A d v a n c e d	※ Drama Studies A	3	2	この中から 8 単位以上
		※ Drama Studies B	3	2	
		※ Poetry Studies A	3	2	
		※ Poetry Studies B	3	2	
		※ Culture and Literature A	3	2	
		※ Culture and Literature B	3	2	
		Early Childhood English Education A	3	2	
		Early Childhood English Education B	3	2	
自 由 選 択 科 目		※ English Linguistics A	1	2	この中から 10 単位以上
		※ English Linguistics B	1	2	
		※ Global Issues and Literature A	1	2	
		※ Global Issues and Literature B	1	2	
		※ Film and Literature A	1	2	
		※ Film and Literature B	1	2	
		TOEIC Advanced A	1	2	
		TOEIC Advanced B	1	2	
		※ Practical English (L) II	2	2	
		※ Practical English (R) II	2	2	
		※ TOEFL Writing	2	2	
		インターンシップ	2	2 [#]	
		Study Abroad Programme	2～3	2 [#]	
		他学科・他専攻の開放科目（※）			

履修上の注意

◎本英語英米文学専攻では、英国ウィンチェスター大学または米国ニューヨーク市立大学への留学を推奨している。2学年次後期において、半年間留学し、所定の単位を修得すること、もしくは、本学において所定の2学年次後期単位（必修・選択必修・自由選択科目）を修得しなければならない。

1. 「第一外国語(英語)」の単位については、コース専門科目を充当するため修得する必要がないので注意すること。
2. **1 学年生**は、1 学年配当の必修科目（20 単位）を履修し、さらに1 学年配当の選択必修科目及び1 学年配当の自由選択科目から選択して、履修する。なお、1 学年から2 学年への進級には進級要件があるので、要件を満たすよう履修すること。ただし、進級要件を満たしていれば、上に挙げた科目の単位を1 学年にすべて修得し終えていなくても2 学年に進級できる。
3. **2 学年生**は、2 学年配当の必修科目（16 単位）を履修し、さらに2 学年配当の選択必修科目、2 学年配当の自由選択科目から選択して、履修する。なお、2 学年から3 学年への進級には進級要件があるので、要件を満たすよう履修すること。ただし、進級要件を満たしていれば、上に挙げた科目の単位をすべて修得していなくても3 学年に進級できる。
4. **3 学年生**は、3 学年配当の必修科目（16 単位）を履修し、さらに3 学年配当の選択必修科目及び3 学年配当の自由選択科目から選択して、履修する。なお、「Seminar I A・B」は、いわゆる「ゼミ」と呼ばれる科目であり、一つを選択し、4 学年に履修する「Seminar II A・B」と合わせて、2 年間にわたって同一分野から履修することになる。どの分野のゼミに所属するかは、2 学年に行うゼミ説明会とアンケートの結果によって決定される。
5. **4 学年生**は、4 学年配当の必修科目（「Graduate Study」を含む14 単位）を履修し、さらに選択必修科目及び自由選択科目から選択して、履修する。
6. 日本語教員を志望する学生は、日本語教員養成課程があるので、該当する項目を参照のこと。

文学科 英語英米文学専攻 専門科目 カリキュラムツリー



芸術学科舞台芸術専攻
卒業・進級・履修要件と授業科目表・カリキュラムツリー

卒業要件

授 業 科 目			修得すべき単位数		
共通教養科目・外国語科目	共通教養科目	人間性・社会性科目群 (自校学習除く)	2 単位以上	20 単位以上 (基礎ゼミ、コンピュータ実習1を含む)	34 単位以上
		地域性・国際性科目群	2 単位以上		
		課題設定・問題解決科目群	4 単位以上		
		スポーツ・表現活動科目群	2 単位以上		
	第一外国語（英語）（必修 8 単位含む）		10 単位以上	あわせて 14 単位以上	
	第二外国語				
専門科目	必修科目		2 単位	あわせて 60 単位以上	90 単位以上
	指定必修科目 I	基礎科目 I	2 単位以上		
		基礎科目 II	4 単位以上		
	指定必修科目 II		8 単位以上		
	指定必修科目 III		4 単位以上		
	指定必修科目 IV		8 単位以上		
	選択必修科目				
自由選択科目					

文芸学部卒業所要単位数	124 単位以上
--------------------	-----------------

進級要件

1 学年→ 2 学年	2 学年→ 3 学年	3 学年→ 4 学年
「共通教養科目」、「外国語科目」、「専門科目」の中から、合計 20 単位以上修得していること。	「共通教養科目」、「外国語科目」、「専門科目」の中から、合計 56 単位以上修得していること。	「共通教養科目」、「外国語科目」、「専門科目」の中から、合計 92 単位以上修得していること。

※印は他学科・他専攻に開放する科目
 #印は成績評価が「認定」の科目（キャップ制除外科目）

区分	授 業 科 目	配当学年	単位数	修得すべき単位数			
必修科目	※ 演劇概論	1	2	2 単位			
指定必修科目 I	基礎科目 I	※ 身体と発声 A	1	1	この中から 2 単位以上	60 単位以上（P64 の選択必修科目と合わせて）	90 単位以上（全専門科目の合計）
		※ 身体と発声 B	1	1			
		舞台表現基礎実習 A	1	1			
		舞台表現基礎実習 B	1	1			
		舞踊表現基礎実習 A	1	1			
		舞踊表現基礎実習 B	1	1			
		※ 日本作家作品論 A	1	2			
	※ 日本作家作品論 B	1	2				
	※ 日本芸能概論 A	1	2				
	※ 日本芸能概論 B	1	2				
	※ 戯曲の読み方	1	2				
	※ 戯曲創作研究 1	1	2				
	指定必修科目 II	演劇創作実習 1 A	2	1	この中から 8 単位以上		
		演劇創作実習 1 B	2	1			
演劇創作実習 2 A		2	1				
演劇創作実習 2 B		2	1				
舞踊創作実習 1 A		2	1				
舞踊創作実習 1 B		2	1				
舞踊創作実習 2 A		2	1				
舞踊創作実習 2 B		2	1				
※ 戯曲創作研究 2 A		2	2				
※ 戯曲創作研究 2 B		2	2				
パフォーマンス研究 A		2	2				
パフォーマンス研究 B		2	2				
※ 伝統芸能作品研究 A		2	2				
※ 伝統芸能作品研究 B		2	2				
指定必修科目 III	演劇創作演習 1 A	3	2	この中から 4 単位以上			
	演劇創作演習 1 B	3	2				
	演劇創作演習 2 A	3	2				
	演劇創作演習 2 B	3	2				
	舞踊創作演習 1 A	3	2				
	舞踊創作演習 1 B	3	2				
	舞踊創作演習 2 A	3	2				
	舞踊創作演習 2 B	3	2				
	※ 戯曲創作研究 3 A	3	2				
	※ 戯曲創作研究 3 B	3	2				
	※ 演劇芸能研究 A	3	2				
	※ 演劇芸能研究 B	3	2				
	T O P 研究 A	3	2				
	T O P 研究 B	3	2				
指定必修科目 IV	卒業研究 1 A	[卒業研究①]	4	2	[卒業研究①]～[卒業研究④] の中から 1 分野 8 単位以上		
	卒業研究 1 B		4	2			
	演劇卒業公演	4	4				
	卒業研究 2 A	[卒業研究②]	4	2			
	卒業研究 2 B		4	2			
	舞踊卒業公演	4	4				
	卒業研究 3 A	[卒業研究③]	4	2			
	卒業研究 3 B		4	2			
	卒業戯曲創作	4	4				
	卒業研究 4 A	[卒業研究④]	4	2			
	卒業研究 4 B		4	2			
	卒業論文	4	4				

※印は他学科・他専攻に開放する科目

#印は成績評価が「認定」の科目（キャップ制除外科目）

区分	授 業 科 目	配当学年	単位数	修得すべき単位数	
選 択 必 修 科 目	文章表現	1	2	60 単 位 以 上 （ P63 の 必 修 科 目 、 指 定 必 修 科 目 と 合 わ せ て ）	90 単 位 以 上 （ 全 専 門 科 目 の 合 計 ）
	文章創作	1	2		
	※ アートマネージメント論A	1	2		
	※ アートマネージメント論B	1	2		
	※ 舞台技術基礎実習Ⅰ 1	1	1		
	※ 舞台技術基礎実習Ⅰ 2	1	1		
	※ 舞台技術基礎実習Ⅱ 1	1	1		
	※ 舞台技術基礎実習Ⅱ 2	1	1		
	舞台芸術特別実習Ⅰ	1	1		
	舞台芸術特別演習Ⅰ	1	2		
	※ 舞台芸術特論Ⅰ	1	2		
	舞踊表現実習A	2	1		
	舞踊表現実習B	2	1		
	舞踊発表実習A	2	1		
	舞踊発表実習B	2	1		
	※ 戯曲論A	2	2		
	※ 戯曲論B	2	2		
	※ 演出・演技論A	2	2		
	※ 演出・演技論B	2	2		
	※ 舞台照明実習1	2	1		
	※ 舞台照明実習2	2	1		
	※ 音響効果実習1	2	1		
	※ 音響効果実習2	2	1		
	※ 舞台美術実習1	2	1		
	※ 舞台美術実習2	2	1		
	※ 映像表現実習A	2	1		
	※ 映像表現実習B	2	1		
	※ 伝統芸能実習Ⅰ A	2	1		
	※ 伝統芸能実習Ⅰ B	2	1		
	※ 伝統芸能実習Ⅱ A	2	1		
	※ 伝統芸能実習Ⅱ B	2	1		
	※ 音楽実習Ⅰ	2	1		
	※ 世界舞踊史A	2	2		
	※ 世界舞踊史B	2	2		
	※ 世界映画史A	2	2		
	※ 世界映画史B	2	2		
	※ 演劇批評論A	2	2		
	※ 演劇批評論B	2	2		
	舞台芸術特別実習Ⅱ	2	1		
	舞台芸術特別演習Ⅱ	2	2		
※ 舞台芸術特論Ⅱ	2	2			
※ 舞台芸術論A	3	2			
※ 舞台芸術論B	3	2			
※ 音楽実習Ⅱ	3	1			
※ 映像表現演習	3	2			
舞台美術実習3	3	1			
舞台美術実習4	3	1			
※ 日本演劇史A	3	2			
※ 日本演劇史B	3	2			
※ 演劇教育演習A	3	2			
※ 演劇教育演習B	3	2			
※ 世界演劇史A	3	2			
※ 世界演劇史B	3	2			
舞台芸術特別実習Ⅲ	3	1			
舞台芸術特別演習Ⅲ	3	2			
※ 舞台芸術特論Ⅲ	3	2			
自 由 選 択 科 目	日本語学概論	1	2		
	日本語史論1	2	2		
	日本語史論2	2	2		
	書道	2	2		
	留学プログラムⅠ	1	2 [#]		
	留学プログラムⅡ	2	2 [#]		
	インターンシップ	2～4	2 [#]		
	他学科・他専攻の開放科目（※）				

履修上の注意

1. 卒業までに専門科目で必ず修得しなければならない単位数は、90 単位以上である。
この内、60 単位以上は必修科目・指定必修科目・選択必修科目から修得し、且つ4単位の「卒業研究」と4単位の卒業公演（演劇／舞踊）、卒業戯曲、卒業論文のいずれかを、①～④の中から1分野必ず修得すること。
2. 2 学年生より〈系〉に基づいた履修をすること。
別に配付する〈「卒業研究のために必要な科目」表〉を参照すること。
3. 必修科目・指定必修科目・選択必修科目の履修方法
 - ①必修科目「演劇概論」は必ず修得しなければならない。
 - ②指定必修科目Ⅰの、基礎科目Ⅰから2単位以上、基礎科目Ⅱから4単位以上修得しなければならない。
 - ③指定必修科目Ⅱから8単位以上、指定必修科目Ⅲから4単位以上、指定必修科目Ⅳから8単位以上修得しなければならない。
 - ④通年の履修（A・B）を前提にする科目がある。
 - ⑤実習・演習科目で、1と2、又は3と4の両方を履修しなければならない科目がある。
 - 1 年次 「舞台技術基礎実習Ⅰ」1と2、「舞台技術基礎実習Ⅱ」1と2
 - 2 年次 「演劇創作実習」1と2、「舞踊創作実習」1と2、「舞台照明実習」1と2、「音響効果実習」1と2、「舞台美術実習」1と2
 - 3 年次 「舞台美術実習」3と4、「演劇創作演習」1と2、「舞踊創作演習」1と2
4. 自由選択科目として、文芸学部他学科（他専攻）の〈開放科目〉（※印の科目）、また、留学プログラムⅠ・Ⅱ、インターンシップ他、さらに他学部との単位互換科目などが履修できる。
5. 自由選択科目「書道」は教職を履修する者に限り履修できる。

教員免許取得希望者は、『教職課程履修要項』を必ず参照すること。

芸術学科造形芸術専攻
卒業・進級・履修要件と授業科目表・カリキュラムツリー

卒業要件

授 業 科 目			修得すべき単位数		
共通教養科目・外国語科目	共通教養科目	人間性・社会性科目群 (自校学習除く)	2 単位以上	20 単位以上 (基礎ゼミ、コンピュータ実習1を含む)	34 単位以上
		地域性・国際性科目群	2 単位以上		
		課題設定・問題解決科目群	4 単位以上		
		スポーツ・表現活動科目群	2 単位以上		
	第一外国語（英語）（必修 8 単位含む）		10 単位以上	あわせて 14 単位以上	
	第二外国語				
専門科目	必修科目	講義、卒業制作・卒業論文	8 単位	40 単位	90 単位以上
		ゼミナール	32 単位		
	選択必修科目Ⅰ		10 単位以上	34 単位以上	
	選択必修科目Ⅱ		4 単位以上		
	選択必修科目Ⅲ		6 単位以上		
	選択必修科目Ⅳ		4 単位以上		
	選択必修科目Ⅴ		4 単位以上		
	選択必修科目Ⅵ		6 単位以上		
自由選択科目		0 単位以上			

文芸学部卒業所要単位数	124 単位以上
--------------------	-----------------

進級要件

1 学年→ 2 学年	2 学年→ 3 学年	3 学年→ 4 学年
「ゼミナールⅠA・ⅠB」を含んで、「共通教養科目」、「外国語科目」、「専門科目」の中から合計 22 単位以上を修得していること。	「ゼミナールⅡA・ⅡB」を含んで、「共通教養科目」、「外国語科目」、「専門科目」の中から合計 58 単位以上を修得していること。	「ゼミナールⅢA・ⅢB」を含んで、「共通教養科目」、「外国語科目」、「専門科目」の中から合計 92 単位以上を修得していること。

※印は他学科・他専攻に開放する科目

#印は成績評価が「認定」の科目（キャップ制除外科目）

区分	授 業 科 目	配当学年	単位数	修得すべき単位数	
必修科目	作品鑑賞A	1	2	8単位必修	
	作品鑑賞B	1	2		
	卒業制作・卒業論文	4	4		
	必修科目	ゼミナールⅠA	1	4	1学年 8単位必修
		ゼミナールⅠB	1	4	
		ゼミナールⅡA	2	4	2学年 8単位必修
		ゼミナールⅡB	2	4	
		ゼミナールⅢA	3	4	3学年 8単位必修
		ゼミナールⅢB	3	4	
		ゼミナールⅣA	4	4	4学年 8単位必修
ゼミナールⅣB		4	4		
選択必修科目Ⅰ	※ 日本美術史A	1	2	10単位以上選択必修	
	※ 日本美術史B	1	2		
	※ 西洋美術史A	1	2		
	※ 西洋美術史B	1	2		
	※ 現代美術論A	1	2		
	※ 現代美術論B	1	2		
	※ アジア美術史	2	2		
	※ 思想と表現（東洋）	2	2		
※ 思想と表現（西洋）	2	2			
選択必修科目Ⅱ	デッサン基礎演習Ⅰ	1	2	4単位以上選択必修	
	デッサン基礎演習Ⅱ	1	2		
	平面基礎演習A	1	2		
	平面基礎演習B	1	2		
	立体基礎演習A	1	2		
	立体基礎演習B	1	2		
選択必修科目Ⅲ	色彩学	1	2	6単位以上選択必修	
	デザイン製図	1	2		
	※ デザイン概論A	1	2		
	※ デザイン概論B	1	2		
	※ 工芸史A	2	2		
	※ 工芸史B	2	2		
	彫塑	2	2		
	コンピュータグラフィックス演習ⅠA	2	2		
	コンピュータグラフィックス演習ⅠB	2	2		
	コンピュータグラフィックス演習ⅡA	3	2		
コンピュータグラフィックス演習ⅡB	3	2			
選択必修科目Ⅳ	素材と表現Ⅰ	2	2	4単位以上選択必修	
	素材と表現Ⅱ	2	2		
	素材と表現Ⅲ	2	2		
	素材と表現Ⅳ	2	2		

※印は他学科・他専攻に開放する科目

#印は成績評価が「認定」の科目（キャップ制除外科目）

区分	授 業 科 目	配当学年	単位数	修得すべき単位数
選 択 必 修 科 目 V	※ 絵画論 ※ 立体造形論 ※ 陶芸論 ※ 染織論 ※ ガラス造形論 ※ 版画論 ※ グラフィックアート論 ※ イラストレーション論 ※ 日本彫刻史論	2 2 2 2 2 2 2 2 2	2 2 2 2 2 2 2 2 2	4 単位以上選択必修
選 択 必 修 科 目 VI	造形プロジェクト演習 I A 造形プロジェクト演習 I B 造形プロジェクト演習 II A 造形プロジェクト演習 II B 造形特別プログラム I A 造形特別プログラム I B 造形特別プログラム II A 造形特別プログラム II B ※ 美術研究 I A ※ 美術研究 I B ※ 美術研究 II A ※ 美術研究 II B	2 2 3 3 2 2 3 3 3 3 3 3 3	2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2	6 単位以上選択必修
自 由 選 択 科 目	留学プログラム I 留学プログラム II インターンシップ 他学科・他専攻の開放科目（※）	1 2 2	2# 2# 2#	0～10 単位

履修上の注意

1. 原則として各科目のAは前期、Bは後期を意味する。
2. 必修科目はA、Bともに履修し、修得しなければならない。
3. ゼミナールの履修方法
 - i. 1学年：〈ゼミナールⅠ〉を必修とする。
9つある〈ゼミナールⅠ〉群から前期2つ、後期2つの異なるゼミナールを選択し、計8単位を修得すること。
 - ii. 2学年：〈ゼミナールⅡ〉を必修とする。
〈ゼミナールⅡ〉群から2つのゼミナールを選択し、それぞれA、Bとも履修して、計8単位を修得すること。
 - iii. 3学年・4学年：3学年は〈ゼミナールⅢ〉、4学年は〈ゼミナールⅣ〉を必修とする。
〈ゼミナールⅢ〉〈ゼミナールⅣ〉群から1つのゼミナールを選択し、それぞれA、Bとも履修して、計8単位を修得すること。
4. 選択必修科目Ⅱの履修方法
前期、後期合わせて2科目以上を選択し、計4単位以上を修得すること。
(基本的に、1年次で履修する科目である)。

文化・歴史学科
卒業・進級・履修要件と授業科目表・カリキュラムツリー

卒業要件

授 業 科 目			修得すべき単位数		
共通教養科目・外国語科目	共通教養科目	人間性・社会性科目群 (自校学習除く)	2 単位以上	20 単位以上 (基礎ゼミ、コンピュータ実習1を含む)	34 単位以上
		地域性・国際性科目群	2 単位以上		
		課題設定・問題解決科目群	4 単位以上		
		スポーツ・表現活動科目群	2 単位以上		
	第一外国語（英語）（必修 8 単位含む）		10 単位以上	あわせて 14 単位以上	
	第二外国語				
専門科目	必修科目	基礎研究	2 単位	10 単位	90 単位以上
		演習	4 単位		
		卒業論文	4 単位		
	選択必修科目	基礎科目	4 単位以上	あわせて 80 単位以上	
		講読	4 単位以上		
		発展科目	32 単位以上		
	自由選択科目		4 単位以上		

文芸学部卒業所要単位数	124 単位以上
-------------	----------

進級要件

1 学年→ 2 学年	2 学年→ 3 学年	3 学年→ 4 学年
「共通教養科目」、「外国語科目」、「専門科目」の中から合計 19 単位以上修得していること。	「基礎研究」および「基礎科目」各 2 単位を含んで、「共通教養科目」、「外国語科目」、「専門科目」の中から合計 44 単位以上修得していること。	「基礎研究」、「基礎科目」、「講読」各 2 単位を含んで、「共通教養科目」、「外国語科目」、「専門科目」の中から合計 92 単位以上修得していること。

※印は他学科に開放する科目

#印は成績評価が「認定」の科目（キャップ制除外科目）

区分	授業科目	配当学年	単位数	修得すべき単位数	
必修科目	基礎研究	1	2	10 単位	
	演習 I A	3	1		
	演習 I B	3	1		
	演習 II A	4	1		
	演習 II B	4	1		
	卒業論文	4	4		
選択必修科目	※ 日本史概説 A	1	2	この中から 4 単位以上	選択必修科目・ 自由選択科目の中から 80 単位以上
	※ 日本史概説 B	1	2		
	※ 世界史概説 A	1	2		
	※ 世界史概説 B	1	2		
	※ 現代学入門 A	1	2		
	※ 現代学入門 B	1	2		
	※ 文化資源学概説 A	1	2		
	※ 文化資源学概説 B	1	2		
	※ 日本古代史講読 A	2	2	この中から 4 単位以上	
	※ 日本古代史講読 B	2	2		
	※ 日本中世史講読 A	2	2		
	※ 日本中世史講読 B	2	2		
	※ 日本近世史講読 A	2	2		
	※ 日本近世史講読 B	2	2		
	※ 日本近現代史講読 A	2	2		
	※ 日本近現代史講読 B	2	2		
	※ 西洋史講読 I A	2	2		
	※ 西洋史講読 I B	2	2		
	※ 西洋史講読 II A	2	2		
	※ 西洋史講読 II B	2	2		
	※ 中国史講読 A	2	2		
	※ 中国史講読 B	2	2		
	※ 古代エジプト史講読 A	2	2		
	※ 古代エジプト史講読 B	2	2		
	※ 現代文化講読 I A	2	2		
	※ 現代文化講読 I B	2	2		
	※ 現代文化講読 II A	2	2		
	※ 現代文化講読 II B	2	2		
	※ 現代倫理講読 I A	2	2		
	※ 現代倫理講読 I B	2	2		
	※ 現代倫理講読 II A	2	2		
	※ 現代倫理講読 II B	2	2		
	※ 考古学講読 A	2	2		
※ 考古学講読 B	2	2			
※ 民俗学講読 A	2	2			
※ 民俗学講読 B	2	2			
※ 文化資源学講読 A	2	2			
※ 文化資源学講読 B	2	2			
発展科目	※ 歴史考古学 A	2	2	この中から 32 単位以上	
	※ 歴史考古学 B	2	2		
	※ 日本古代史 A	2	2		
	※ 日本古代史 B	2	2		
	※ 日本中世史 A	2	2		
	※ 日本中世史 B	2	2		

※印は他学科に開放する科目

#印は成績評価が「認定」の科目（キャップ制除外科目）

区分	授業科目	配当学年	単位数	修得すべき単位数	
選 択 必 修 科 目	※ 日本近世史A	2	2	この中から 32 単位以上	選択必修科目・ 自由選択科目の中から 80 単位以上
	※ 日本近世史B	2	2		
	※ 日本近現代史A	2	2		
	※ 日本近現代史B	2	2		
	※ 日本思想史A	2	2		
	※ 日本思想史B	2	2		
	※ 人文地理学A	1	2		
	※ 人文地理学B	1	2		
	※ 地誌学A	1	2		
	※ 地誌学B	1	2		
	※ 西洋史A	2	2		
	※ 西洋史B	2	2		
	※ 西洋文化史ⅠA	2	2		
	※ 西洋文化史ⅠB	2	2		
	※ 西洋文化史ⅡA	2	2		
	※ 西洋文化史ⅡB	2	2		
	※ 東洋史A	2	2		
	※ 東洋史B	2	2		
	※ 東洋文化史ⅠA	2	2		
	※ 東洋文化史ⅠB	2	2		
	※ 東洋文化史ⅡA	2	2		
	※ 東洋文化史ⅡB	2	2		
	※ 古代エジプト史A	2	2		
	※ 古代エジプト史B	2	2		
	※ 宗教学A	1	2		
	※ 宗教学B	1	2		
	※ 文化人類学A	2	2		
	※ 文化人類学B	2	2		
	※ 環境倫理学	2	2		
	※ 生命倫理学	2	2		
	※ 文化社会学A	2	2		
	※ 文化社会学B	2	2		
	※ 現代人間学A	2	2		
	※ 現代人間学B	2	2		
	※ ライフスタイル論	2	2		
	※ ファッション文化論	2	2		
	※ サブカルチャー論	2	2		
	※ メディア論A	2	2		
	※ メディア論B	2	2		
	※ 女性学・男性学A	1	2		
※ 女性学・男性学B	1	2			
※ 音楽文化論A	2	2			
※ 音楽文化論B	2	2			
考古学実習A	3	1			
考古学実習B	3	1			
民俗学実習A	2	1			
民俗学実習B	2	1			
※ 日本民俗学	1	2			
※ 環境民俗論	1	2			
※ 日本考古学A	1	2			
※ 日本考古学B	1	2			
※ 近畿現代文化探索	2	2			

※印は他学科に開放する科目

#印は成績評価が「認定」の科目（キャップ制除外科目）

区分	授業科目	配当学年	単位数	修得すべき単位数		
選択必修科目	発展科目	※ 近畿歴史文化探索	2	2	この中から 32 単位以上	選択必修科目・ 自由選択科目の中から 80 単位以上
		※ 世界の文化遺産 A	1	2		
		※ 世界の文化遺産 B	1	2		
		※ 近畿文化論 A	2	2		
		※ 近畿文化論 B	2	2		
		文化探索実習	2	1		
		文化活用・発信実習	2	1		
文化資源学自由研究	2	2 [#]				
自由選択科目	※ 自然地理学 A	1	2	この中から 4 単位以上		
	※ 自然地理学 B	1	2			
	※ 政治学原論 A	2	2			
	※ 政治学原論 B	2	2			
	※ 文化学特講 I A	1	2			
	※ 文化学特講 I B	1	2			
	※ 文化学特講 II A	2	2			
	※ 文化学特講 II B	2	2			
	※ 文化学特講 III A	2	2			
	※ 文化学特講 III B	2	2			
	※ 言語文化セミナー初級	2	2			
	※ 言語文化セミナー A	3	2			
	※ 言語文化セミナー B	3	2			
	コンピュータ実習 A	2	2			
	コンピュータ実習 B	2	2			
	留学プログラム I	1	2 [#]			
	留学プログラム II	2	2 [#]			
インターンシップ	2	2 [#]				
他学科の開放科目（※）						

履修上の注意

文化・歴史学科の選択必修科目は日本史、世界史、現代文化・倫理、文化資源学の4つの系に分かれる。系の区分は進級および卒業要件にはかかわらないが、カリキュラムポリシーにあるそれぞれの系の特徴をよく読んで、自分に最もあった系の科目の履修の仕方を考えること。

下記に専門科目を中心とした、各学年の履修モデルを示しておくので、参考にすること。

- <1 学年> 「基礎ゼミ」・「基礎研究」を1科目ずつと、できるだけ多くの「基礎科目」を履修する。他に1学年に配当の4つの系の科目を広く履修し、2学年以降の自分の研究の方針をおおよそ定める。
- <2 学年> 「講読」、「実習」や「発展科目」を履修して、自分の研究テーマをほぼ決定し、卒業論文の指導を受けるゼミ（「演習」）を決める。ゼミ配属の決定は12月～1月の予定（ゼミは原則的には3・4学年を通じ同一担当者による指導を受ける）。
- <3 学年> 所属するゼミで、専門研究を進める。あわせて引き続き広く様々な科目を履修する。4学年に卒業論文に集中できるよう、卒業所要単位をできるだけこの学年までに修得しておく。
- <4 学年> 卒業論文（2万文字以上）を作成する。提出は12月中旬の予定。卒業に必要な科目・単位数を、必ず余裕を持たせて履修すること。

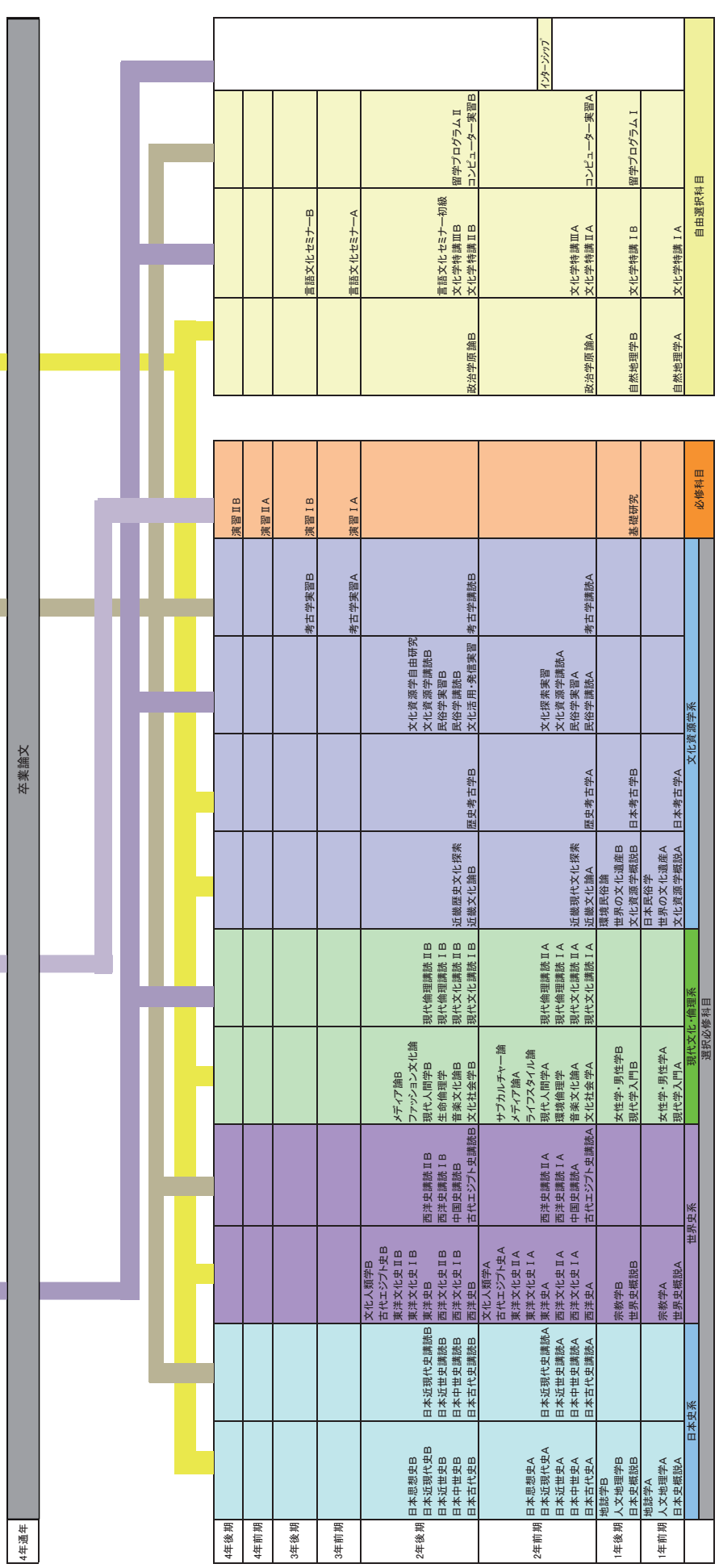
文化・歴史学科 専門科目 カリキュラムツリー

1 関心・意欲・態度
 1) カリキュラム(コース)に示された4つの系にまたがる幅広い知識と理解力を身につけることにより、古今東西にわたる広大な世界事象をトータルに把握する意欲をもつこと。
 2) 現代の社会文化に対するアンテナで自発的な考察力を持つこと。

2 思考・判断
 1) 卒業後の自分の進路や自らの社会的使命に対してつねに真摯かつ誠実であることとを心がけること。
 2) 身の回りや社会に生起する諸問題に対する鋭敏な洞察力を磨くこと。

3 技能・表現
 1) 社会的な積極性を持ち、自主性を発揮できることのできる人物、そして文化的な意味で個性ある社会的な能力に長けた人物となること。
 2) 職場、同僚、友人、家族、近隣など日常の人間関係の中で、ポランティアや趣味やSNSなど自らが積極的に関与する広範な人間関係の中で、文化事情についての自己表現を行う技術と能力を養育する意欲を持つこと。

4 知識・理解
 1) 4つの系にまたがった広い基礎と同時に、自分の専門領域とする文化事象について深い理解を養育し、実践的に応用できる能力を身につけること。
 2) 応用性を重視すると同時に、独自の思考と判断のできる能力と表現力を身につけること。



4年後期	4年前期	3年後期	3年前期	2年後期	2年前期	1年後期	1年前期
文化人類学B 古代エジプト史B 東洋文化史II B 東洋文化史I B 西洋史II B 西洋史I B 中国史II B 中国史I B 古代エジプト史I B 文化人類学A 古代エジプト史A 東洋文化史II A 東洋文化史I A 西洋史II A 西洋史I A 中国史II A 中国史I A 西洋史A 日本近現代史A 日本近現代史B 日本中世史A 日本中世史B 日本古代史A 日本古代史B	メディア論B ファンタジック文化論 現代人間学B 生命倫理学 音楽文化論B 文化社会学B サブカルチャー論 メディア論A ライフスタイル論 現代人間学A 環境倫理学 音楽文化論A 文化社会学A 女性学・男性学B 現代学入門B	現代倫理講読II B 現代倫理講読I B 現代文化講読II B 現代文化講読I B 近畿歴史文化探索 近畿文化論B 歴史考古学B 文化資源学自由研究 文化資源学講読B 民俗学実習B 民俗学講読B 文化活用・発信実習 文化資源学実習 文化資源学講読A 民俗学実習A 民俗学講読A 歴史考古学A 日本考古学B 日本民俗学 世界の文化遺産B 文化資源学講読B 近畿現代文化探索 近畿文化論A 環境民俗論 世界の文化遺産A 文化資源学講読A 日本考古学A	深習II B 深習II A 考古学実習B 深習I B 考古学実習A 深習I A	政治学原論B 政治学原論A 文化学特講II B 文化学特講II A 文化学特講III B 文化学特講III A 文化学特講IV B 文化学特講IV A 政治学原論A 自然地理学B 自然地理学A	政治学原論B 政治学原論A 文化学特講II B 文化学特講II A 文化学特講III B 文化学特講III A 文化学特講IV B 文化学特講IV A 政治学原論A 自然地理学B 自然地理学A	政治学原論B 政治学原論A 文化学特講II B 文化学特講II A 文化学特講III B 文化学特講III A 文化学特講IV B 文化学特講IV A 政治学原論A 自然地理学B 自然地理学A	政治学原論B 政治学原論A 文化学特講II B 文化学特講II A 文化学特講III B 文化学特講III A 文化学特講IV B 文化学特講IV A 政治学原論A 自然地理学B 自然地理学A

文化デザイン学科
卒業・進級・履修要件と授業科目表・カリキュラムツリー

卒業要件

授 業 科 目			修得すべき単位数		
共通教養科目・外国語科目	共通教養科目	人間性・社会性科目群 (自校学習除く)	2 単位以上	20 単位以上 (基礎ゼミ、コンピュータ実習1を含む)	34 単位以上
		地域性・国際性科目群	2 単位以上		
		課題設定・問題解決科目群	4 単位以上		
		スポーツ・表現活動科目群	2 単位以上		
	第一外国語 (英語) (必修 8 単位含む)	10 単位以上	あわせて 14 単位以上		
第二外国語					
専門科目	必修科目	講義科目	6 単位	38 単位	90 単位以上
		ゼミナール	28 単位		
		卒業論文・卒業制作 卒業プロジェクト	4 単位		
	選択必修科目	感性学系科目	10 単位以上	あわせて 34 単位以上	
		デザイン系科目	10 単位以上		
		プロデュース系科目	10 単位以上		
		共通選択必修科目	4 単位以上		
	自由選択科目		0 単位以上		

文芸学部卒業所要単位数	124 単位以上
--------------------	-----------------

進級要件

1 学年→2 学年	2 学年→3 学年	3 学年→4 学年
「ゼミナールⅠA・ⅠB」を含んで、「共通教養科目」、「外国語科目」、「専門科目」の中から合計 22 単位以上修得していること。	「ゼミナールⅡA・ⅡB」を含んで、「共通教養科目」、「外国語科目」、「専門科目」の中から合計 58 単位以上修得していること。	「ゼミナールⅢA・ⅢB」を含んで、「共通教養科目」、「外国語科目」、「専門科目」の中から合計 92 単位以上修得していること。

※印は他学科・他専攻に開放する科目

#印は成績評価が「認定」の科目（キャップ制除外科目）

区分	授 業 科 目	配当学年	単位数	修得すべき単位数
必修科目	感性学概論	1	2	6 単位必修
	デザイン学概論	1	2	
	プロデュース学概論	1	2	
	ゼミナールⅠA	1	2	28 単位必修
	ゼミナールⅠB	1	2	
	ゼミナールⅡA	2	4	
	ゼミナールⅡB	2	4	
	ゼミナールⅢA	3	4	
	ゼミナールⅢB	3	4	
	ゼミナールⅣA	4	4	
ゼミナールⅣB	4	4		
卒業論文・卒業制作・卒業プロジェクト	4	4	4 単位必修	
選択必修科目	※ 西洋芸術文化史A	1	2	ここから 10 単位以上を選択必修
	※ 西洋芸術文化史B	1	2	
	※ 日本芸術文化史A	1	2	
	※ 日本芸術文化史B	1	2	
	※ 感性文化論	2	2	
	※ 視覚文化論	2	2	
	※ 表象文化論	2	2	
	※ 近畿風土論	2	2	
	※ 感性学特論Ⅰ	3	2	
	※ 感性学特論Ⅱ	3	2	
※ 感性学特論Ⅲ	3	2		
デザイン感覚基礎A	1	2	ここから 10 単位以上を選択必修	
デザイン感覚基礎B	1	2		
※ デザイン史A	1	2		
※ デザイン史B	1	2		
※ 空間デザイン論	2	2		
※ 視覚デザイン論	2	2		
※ プロダクトデザイン論	2	2		
※ ソーシャルデザイン論	2	2		
デザイン学特論Ⅰ	3	2		
デザイン学特論Ⅱ	3	2		
デザイン学特論Ⅲ	3	2		
プロデュース系	※ アートコミュニケーション論A	1	2	ここから 10 単位以上を選択必修
	※ アートコミュニケーション論B	1	2	
	プロデューサー論A	1	2	
	プロデューサー論B	1	2	
	※ 文化政策論	2	2	
	※ 劇場文化論	2	2	
	※ 地方創生論	2	2	
	※ ソーシャルメディア論	2	2	
	プロデュース学特論Ⅰ	3	2	
	プロデュース学特論Ⅱ	3	2	
プロデュース学特論Ⅲ	3	2		
共通選択必修科目	芸術文化講読A	1	2	ここから 4 単位以上を選択必修
	芸術文化講読B	1	2	
	プロジェクト演習A	2	2	
	プロジェクト演習B	2	2	
	プロジェクト演習C	2	2	
	プロジェクト演習D	2	2	
	DTP 演習（視覚）	1	2	
	3D モデリング演習（プロダクト）	2	2	
	CAD 演習（空間）	2	2	
	※ 広告コミュニケーション論	3	2	
※ 知的財産論	2	2		
自由選択科目	留学プログラムⅠ	1	2 [#]	0 単位以上選択
	留学プログラムⅡ	2	2 [#]	
	インターンシップ	2	2 [#]	
	他学科・他専攻の開放科目（※）			

履修上の注意

1. 「ゼミナール」の履修方法について

「ゼミナール」は1年次から4年次まで必修科目として設定されている。「ゼミナール」の単位が取得できない場合は直ちに留年となるので注意すること。(履修要項の「進級要件」参照)

※詳細は毎年4月のガイダンスで説明する。

2. 「ゼミナール」以外の必修科目について

「感性学概論」、「デザイン学概論」、「プロデュース学概論」の3科目は必修科目として設定されている。したがって、必ずしも1年次で修得する必要はないが、卒業までには必ず修得しなければならない。

3. 各系の「選択必修科目」と「共通選択必修科目」について

3つの系に分けられた「選択必修科目」は、それぞれの系について10単位以上を修得しなければならない。

「共通選択必修科目」からは4単位以上を修得しなければならない。

4. 「自由選択科目」について

「自由選択科目」は、「選択必修科目」と「自由選択科目」の修得単位数の合計が52単位以上となるように修得しなければならない。すなわち、「選択必修科目」の単位数が52単位以上の場合は0単位でよく、34単位の場合は18単位以上修得しなければならない。

5. 進級要件・卒業要件について

各学年ともに、進級に必要な単位数と修得すべき必修科目（「ゼミナール」）が設定されている。したがって、必ず「進級要件」表と成績通知表の自分の修得単位数を確認しながら、毎年の履修登録を確実にすること。(履修要項の「進級要件」参照)

6. 履修登録と「キャップ制」について

履修登録できる単位数には上限が設けられている＝「キャップ制」。前期・後期それぞれ24単位が上限なので、4年間の履修計画を立て、十分に考慮したうえで履修登録をすること。(履修要項の「キャップ制」参照)

他学部・大学コンソーシアム大阪との単位互換科目

1. 他学部との互換科目

- (1) 文芸学部生が履修できる法学部・経済学部・経営学部開講科目は、下記のとおりです。
- (2) 配当学年は、3・4 学年です。
- (3) 修得した科目の単位は、8 単位まで自由選択科目の単位数として認められます。
- (4) 受講者数に制限のある科目は、開講学部の学生が優先して履修します。
- (5) 履修登録の手続きについては、近大 UNIPA または掲示等にてお知らせする予定です。

法学部開講授業科目表

授 業 科 目	単位数	履 修 制 限
国際法 A (総論)	2	文芸学部生受講者数 20 名まで
社会保障法 A (総論・社会保険関係法)	2	文芸学部生受講者数 20 名まで
社会保障法 B (社会福祉関係法)	2	文芸学部生受講者数 20 名まで
民法 (親族)	2	文芸学部生受講者数 20 名まで
民法 (相続)	2	文芸学部生受講者数 20 名まで
ジェンダー法 A	2	文芸学部生受講者数 20 名まで
ジェンダー法 B	2	文芸学部生受講者数 20 名まで
環境法 A (環境法概説)	2	文芸学部生受講者数 20 名まで
環境法 B (環境法の現代的展開)	2	文芸学部生受講者数 20 名まで

経営学部開講授業科目表

授 業 科 目	単位数	履 修 制 限
経営学 A	2	文芸学部生受講者数 20 名まで
経営学 B	2	文芸学部生受講者数 20 名まで
公企業経営論	2	文芸学部生受講者数 20 名まで
広告論	2	文芸学部生受講者数 20 名まで
非営利組織経営論	2	文芸学部生受講者数 20 名まで
ブランド論	2	文芸学部生受講者数 20 名まで

経済学部開講授業科目表

授 業 科 目	単位数	履 修 制 限
アメリカ経済論 I	2	文芸学部生受講者数 20 名まで
アメリカ経済論 II	2	文芸学部生受講者数 20 名まで
中国経済論 I	2	文芸学部生受講者数 20 名まで
中国経済論 II	2	文芸学部生受講者数 20 名まで

2. 大学コンソーシアム大阪との単位互換科目

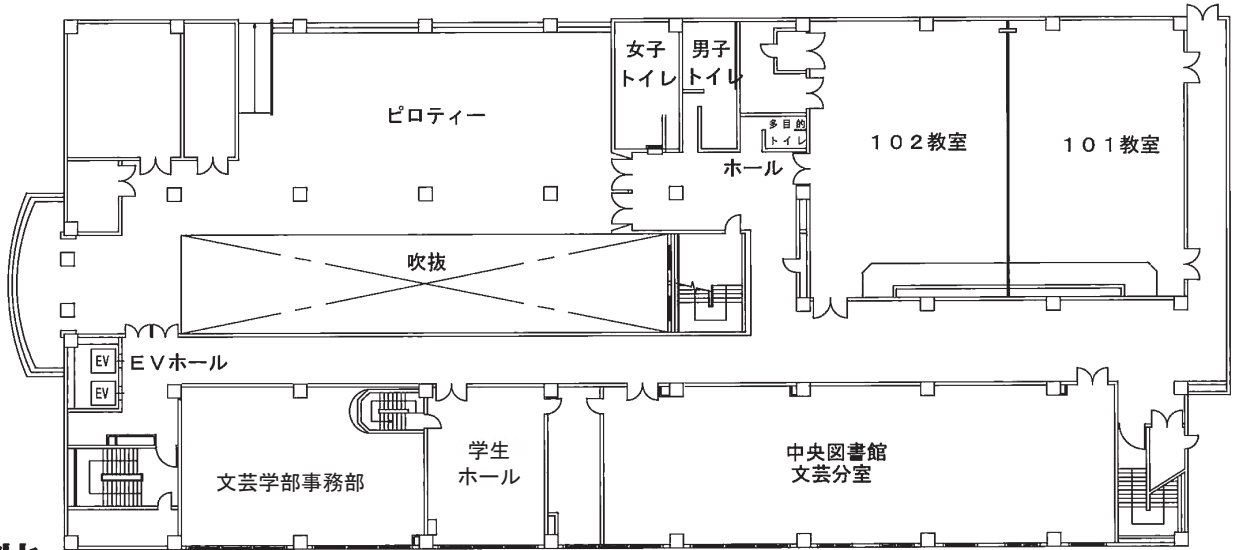
- (1) 履修対象者は 2～4 学年です。
- (2) 修得した科目の単位数は、「1. 他学部との互換科目」の修得単位数と合わせて、10 単位まで自由選択科目として認められます。
- (3) 開講科目等の詳細については、大学コンソーシアム大阪の募集ガイドやホームページで確認してください。

Ⅲ 校舎・講義室等の配置図

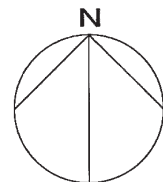
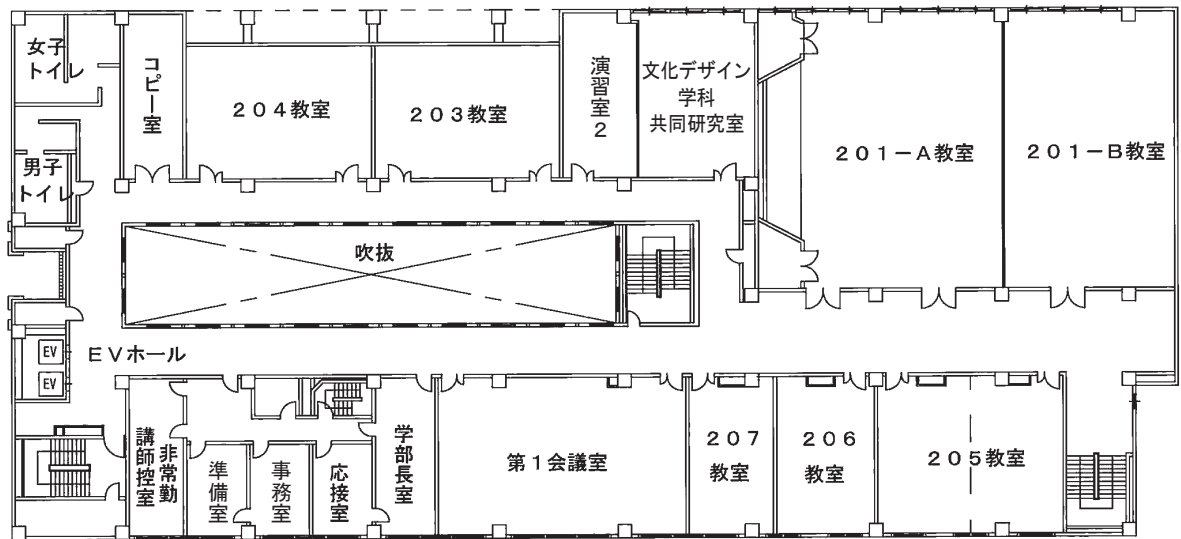
教室等配置図

A 館

1階

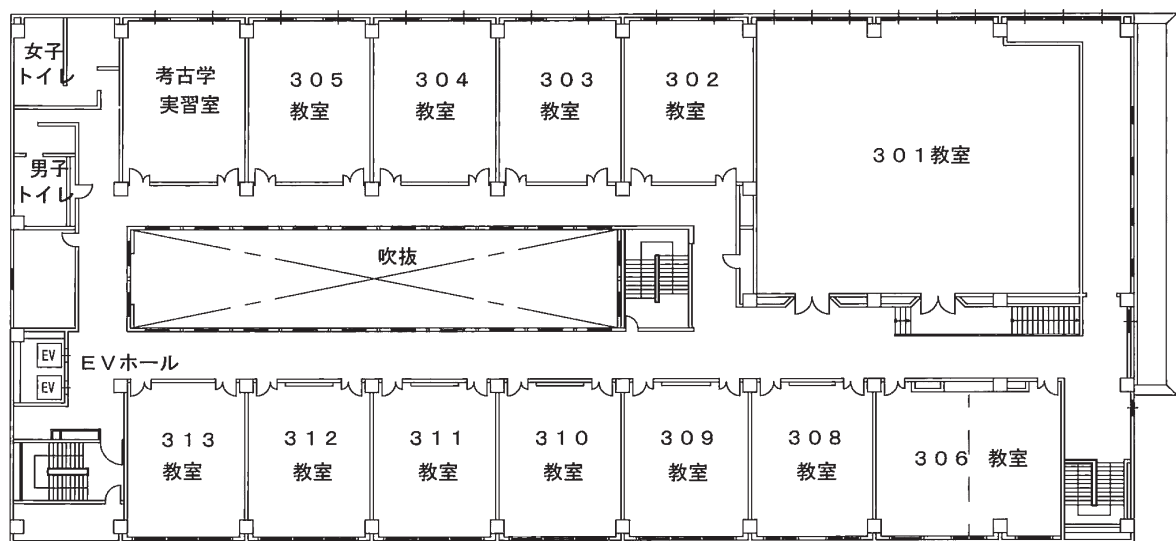


2階

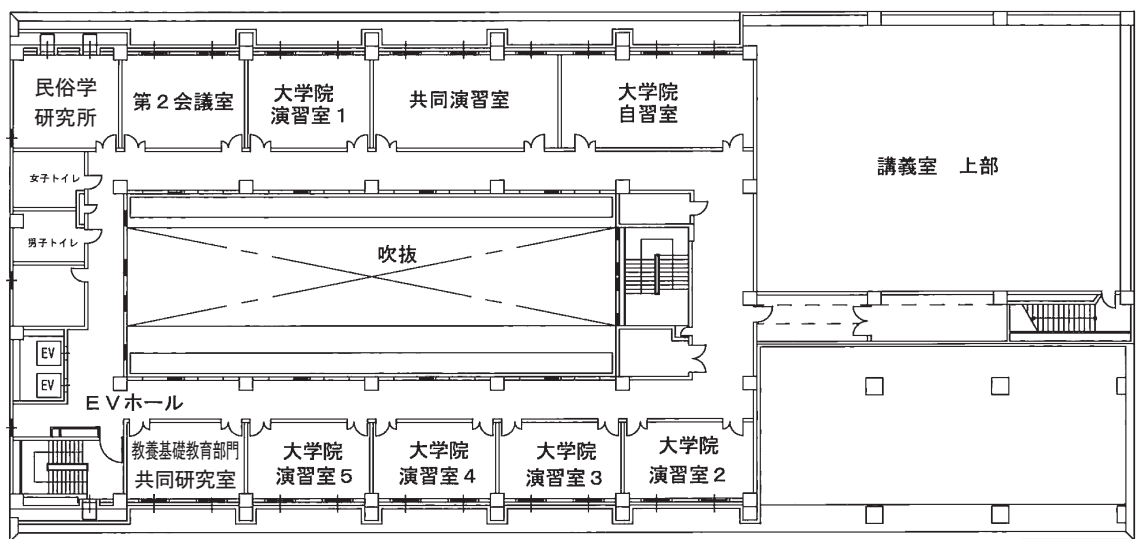


A 館

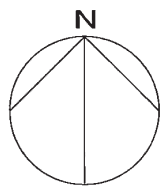
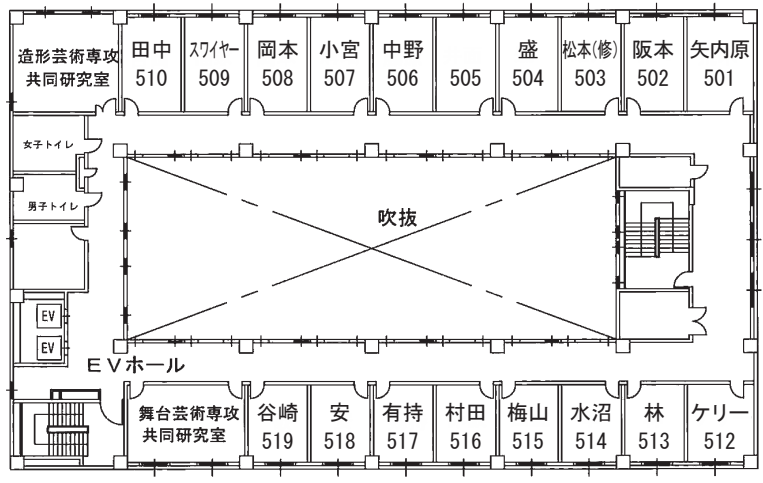
3階



4階

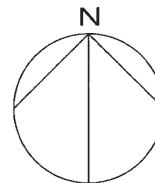
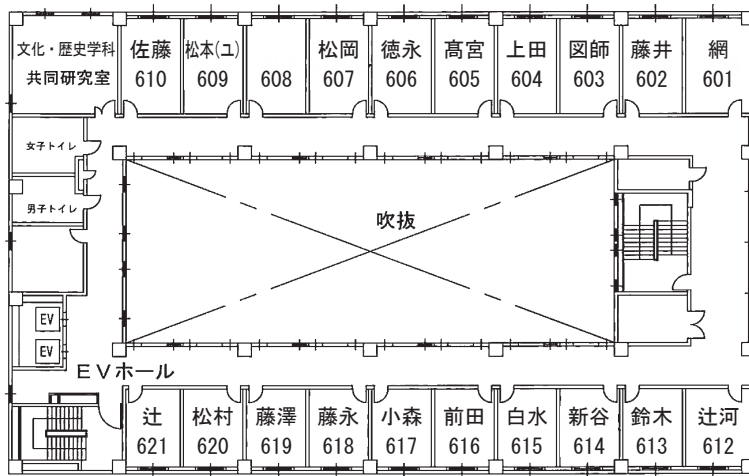


5階

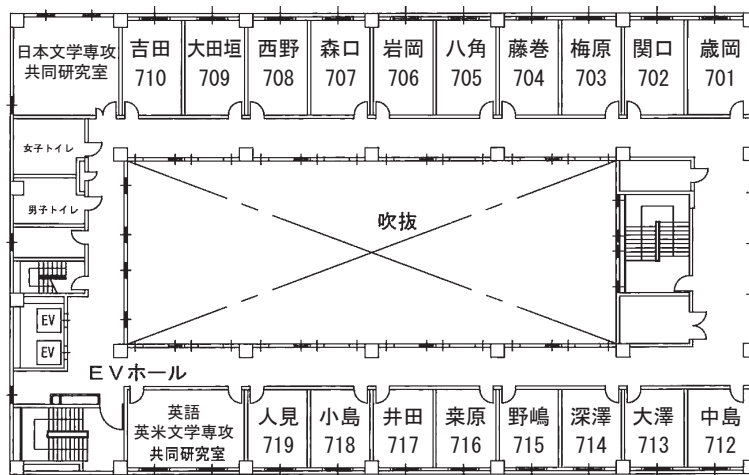


A 館

6階

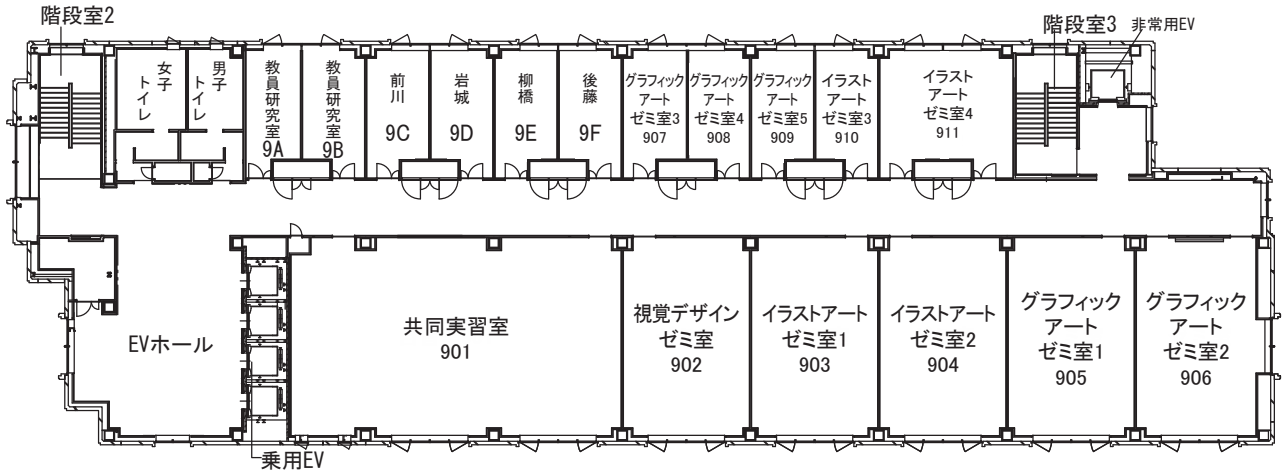


7階

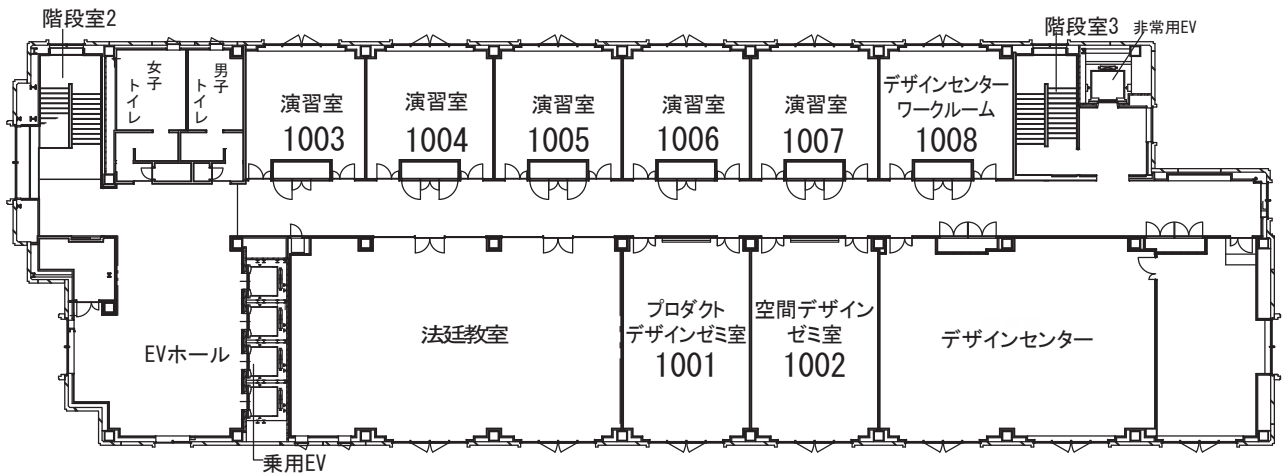


B 館

9階



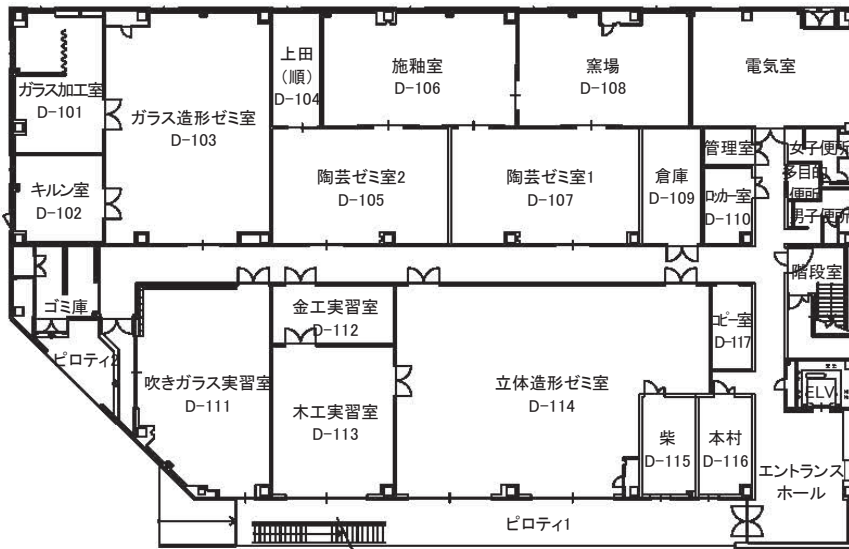
10階



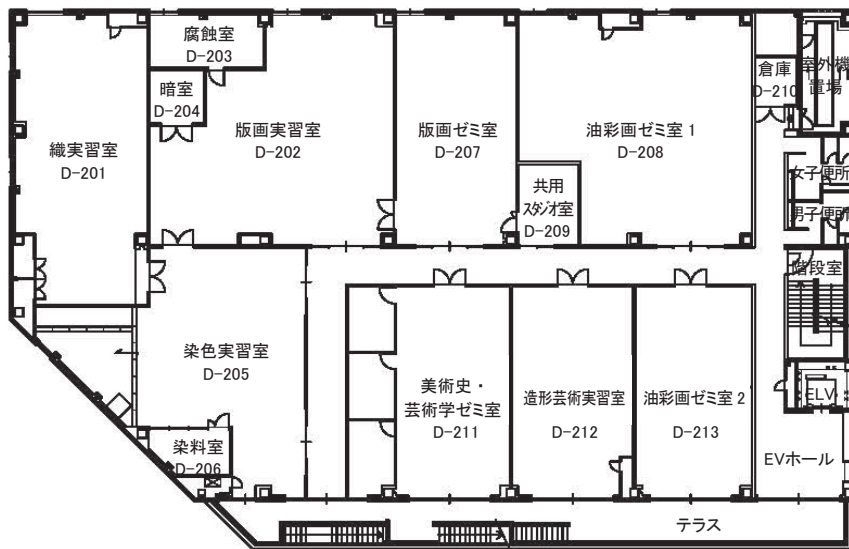
※ B館 1階～7階は P.94、P.95 に記載

D 館

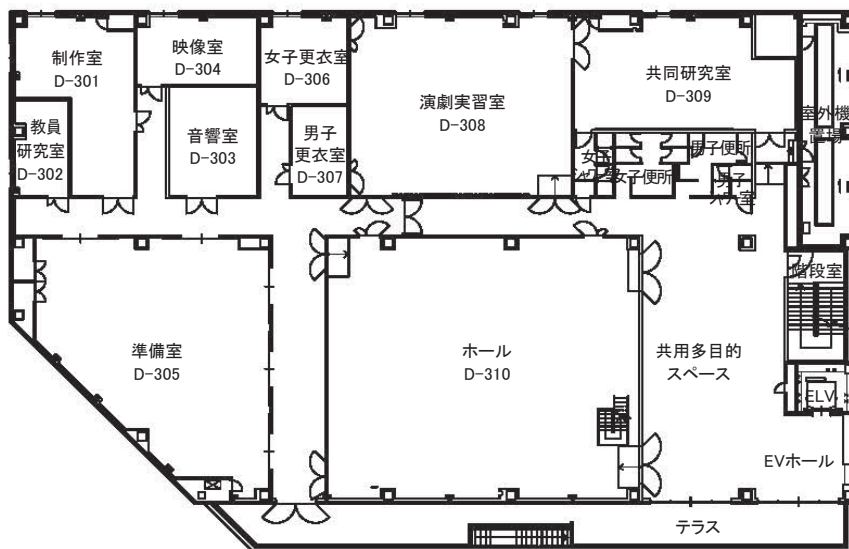
1階



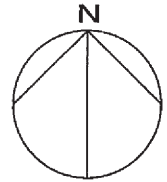
2階



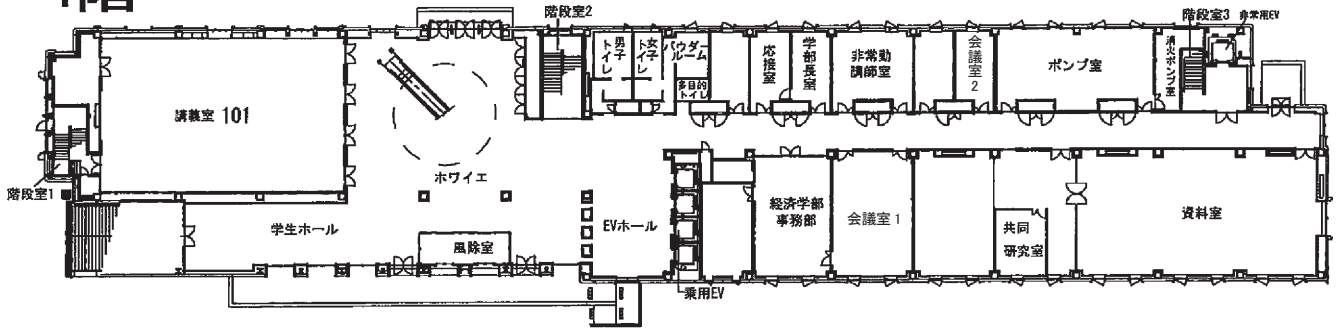
3階



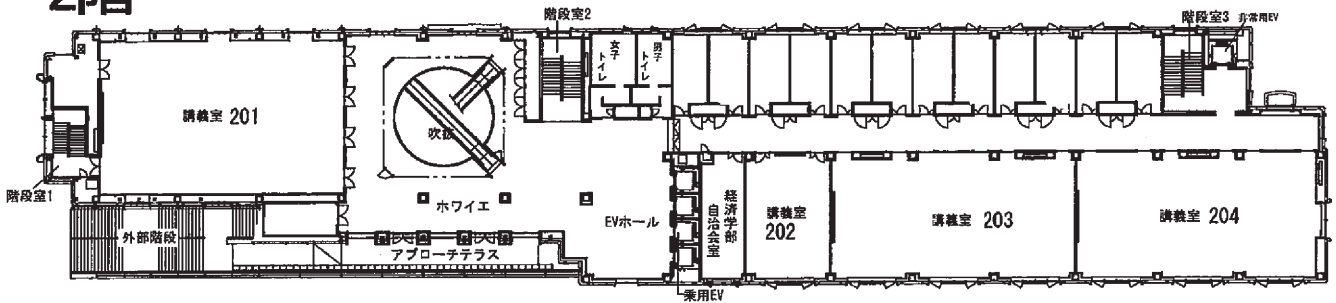
B 館



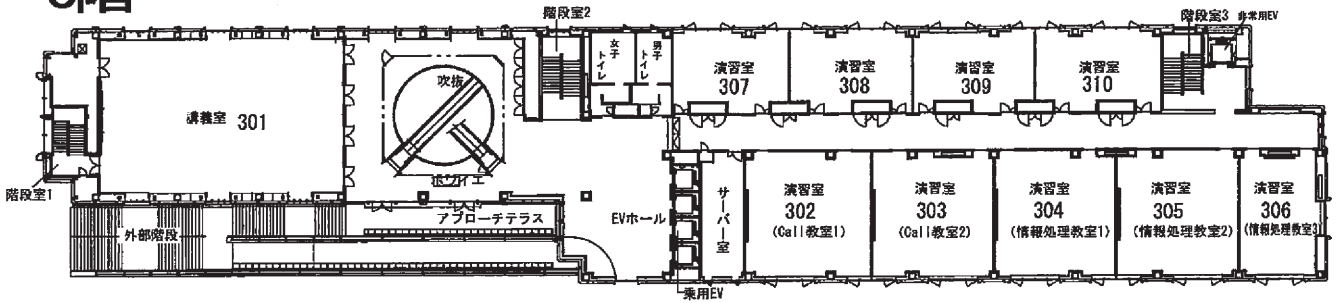
1階



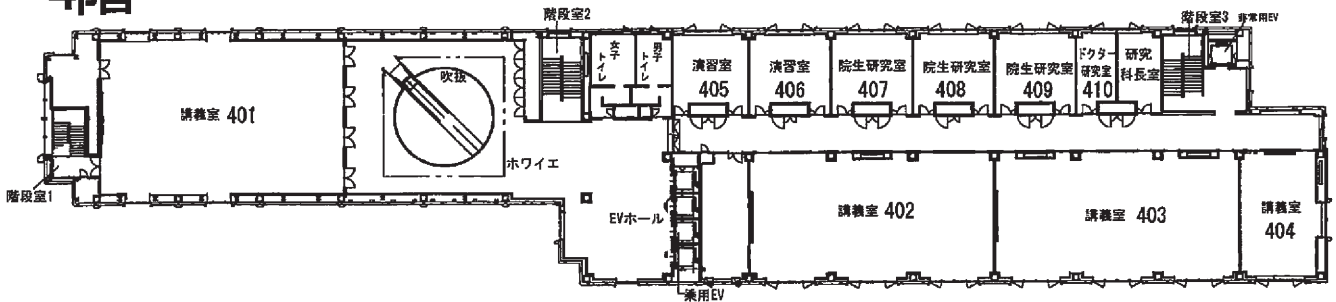
2階



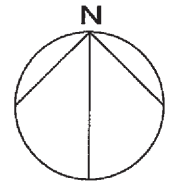
3階



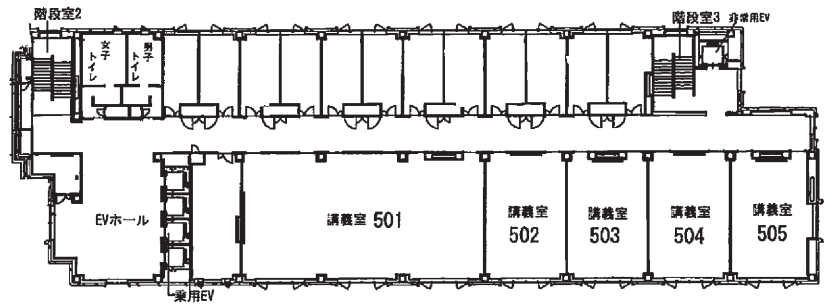
4階



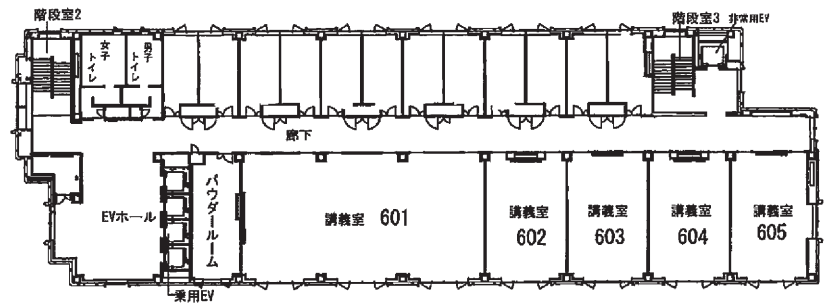
B 館



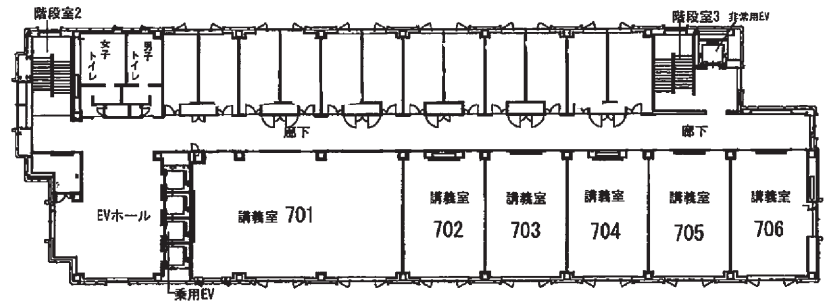
5階



6階

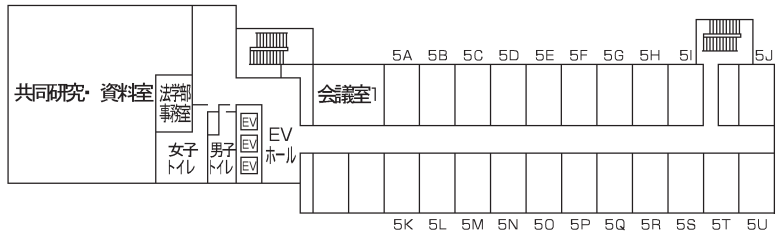


7階

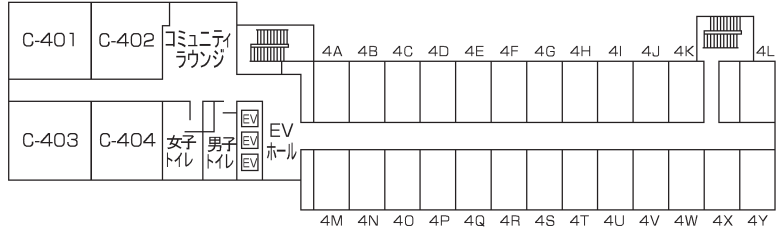


C館

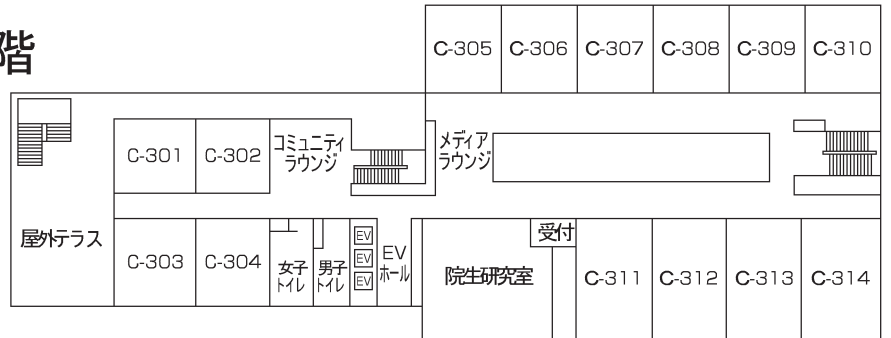
5階



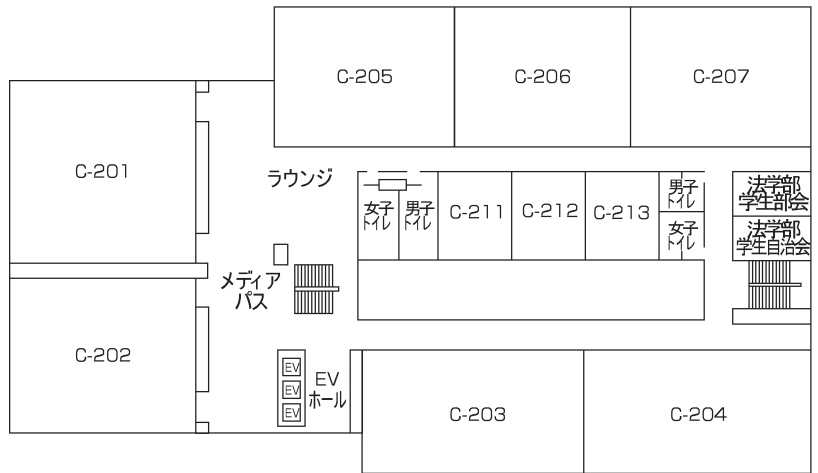
4階



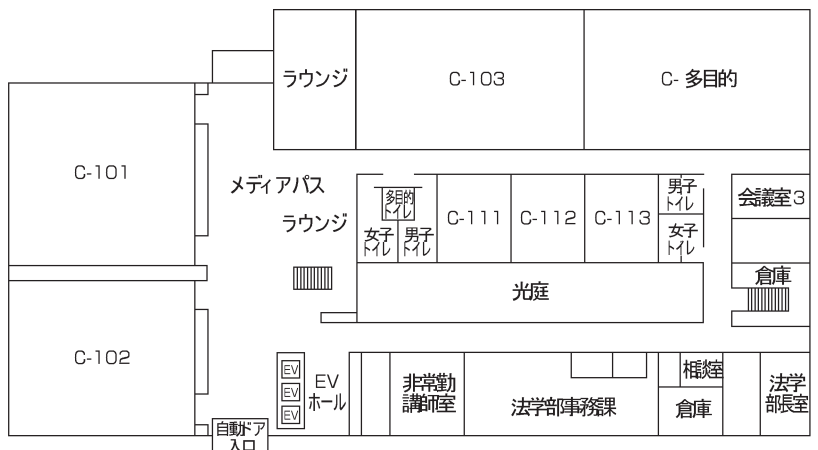
3階



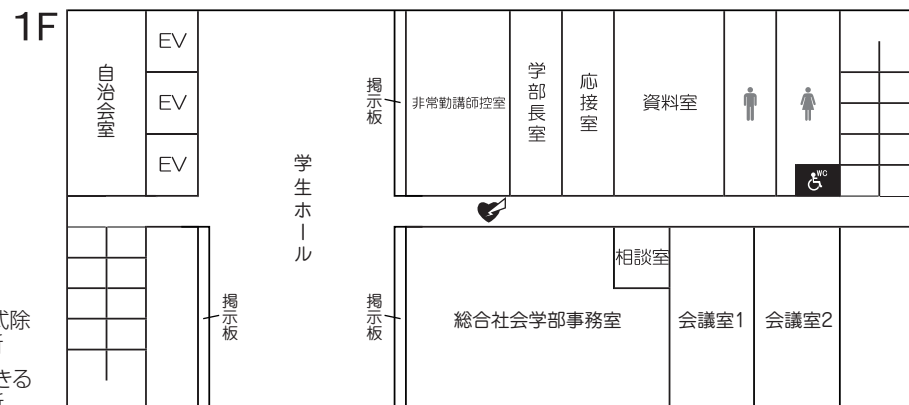
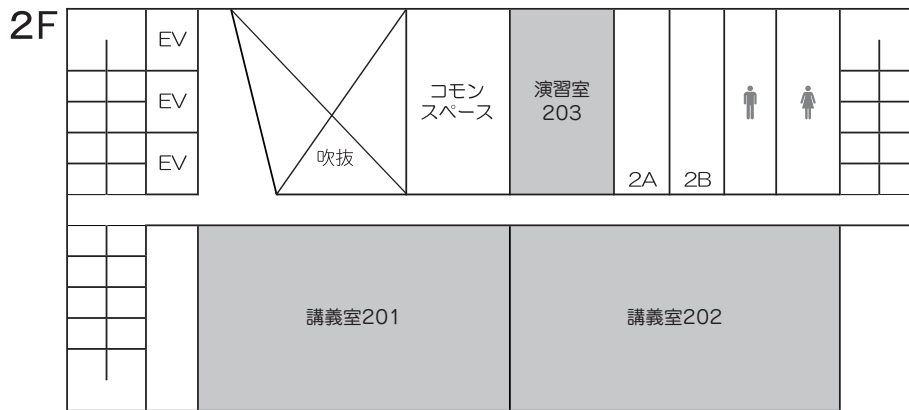
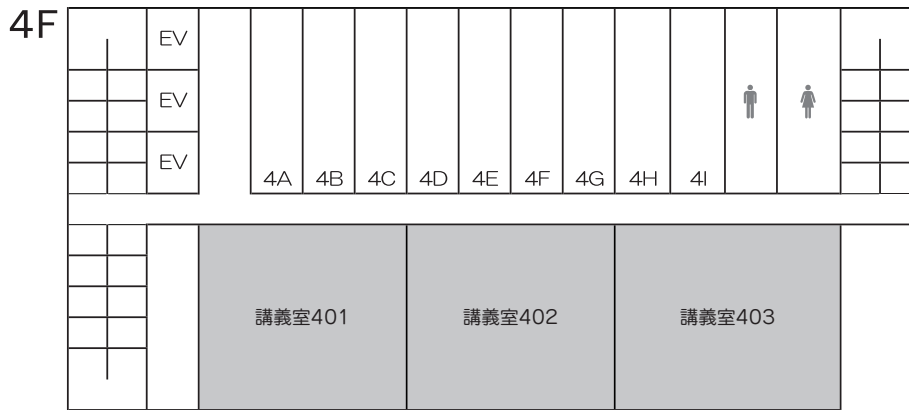
2階



1階



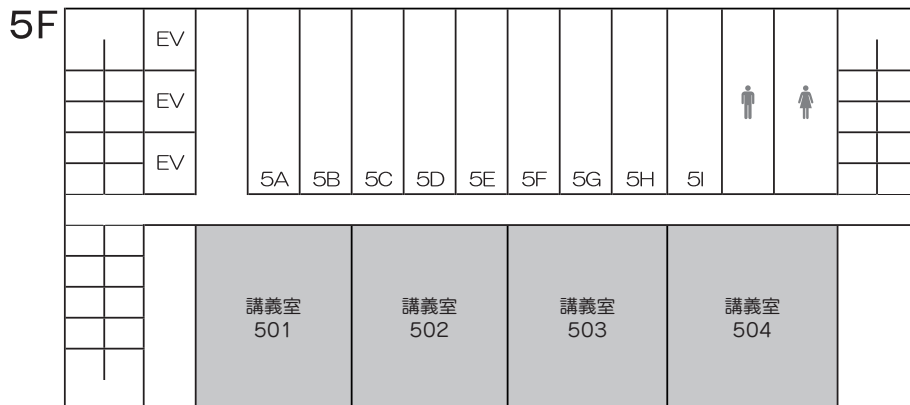
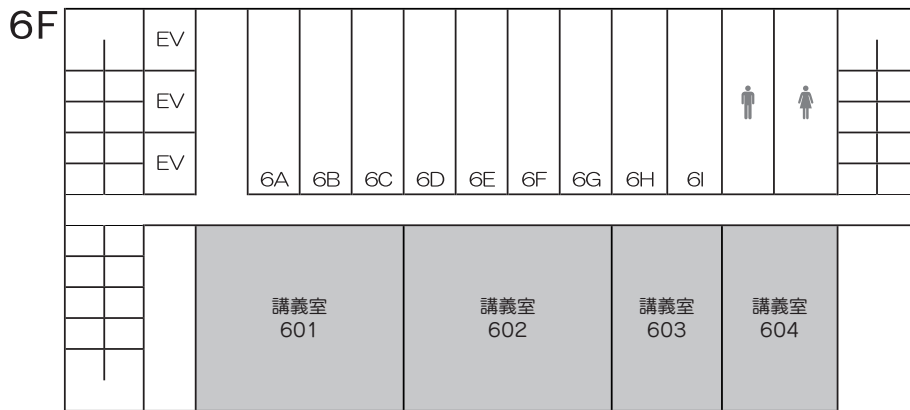
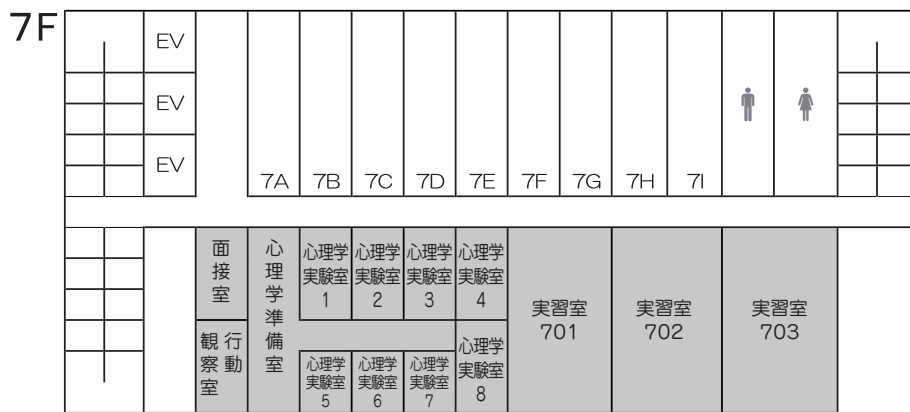
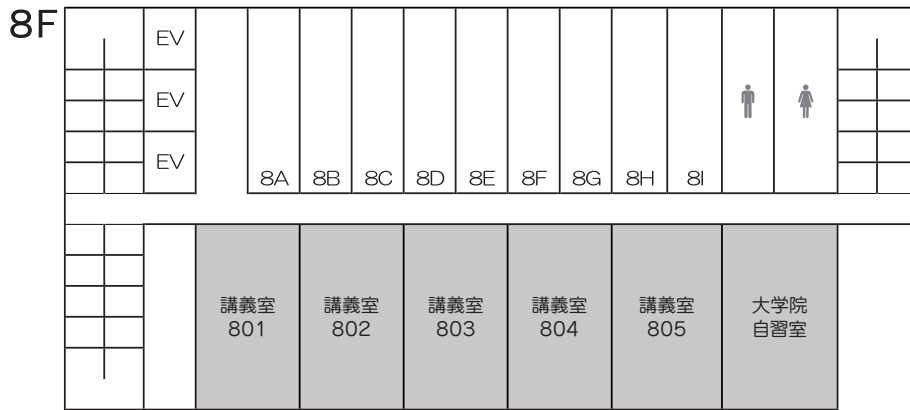
G 館







= AED(自動体外式除細動器)設置場所


= 車椅子で使用できるトイレの設置場所


G 館



	トイレ
	飲食可
	カフェ

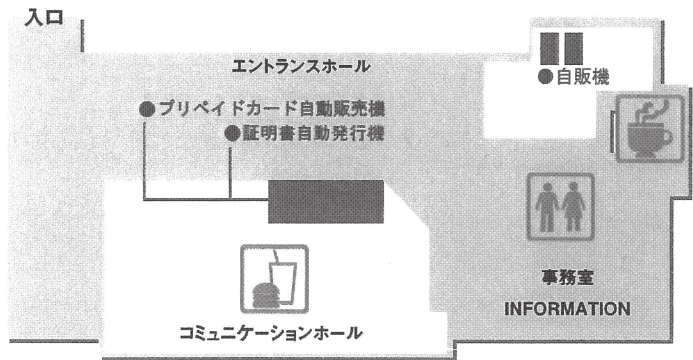
 リテラシー教室

 マルチメディアスタジオ

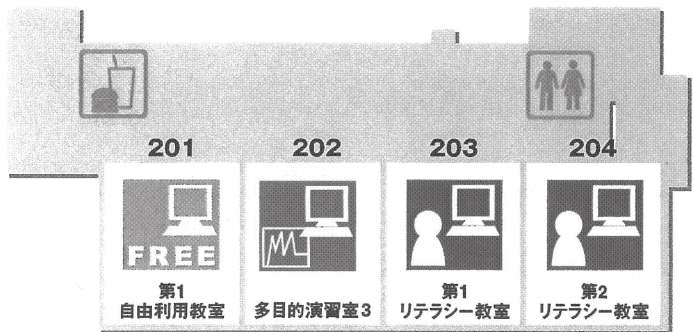
 自由利用教室

 多目的演習室

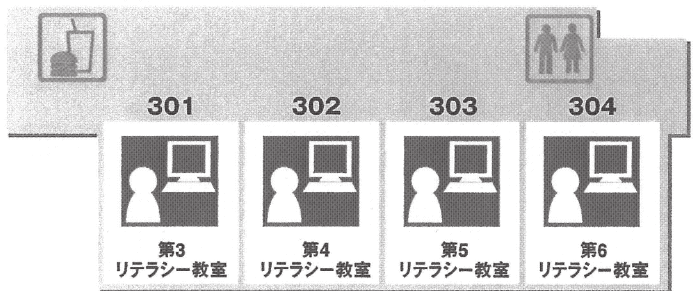
1F



2F



3F



4F



文芸学部履修要項 (2020)

2020.4 印刷発行

発行者 近畿大学文芸学部

編集 近畿大学文芸学部 教務委員会

所在地 〒577-8502 東大阪市小若江 3-4-1

電話番号 (06)4307-3061

 近畿大学